決定版

テレビマガジン デラックス74

ゲゲゲの鬼太郎
妖怪大事典



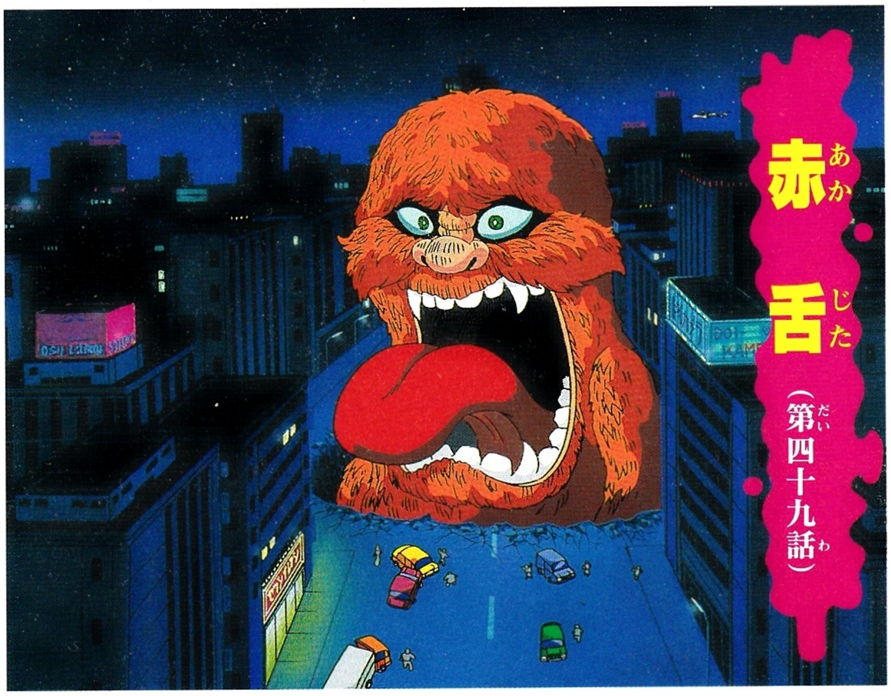
講談社



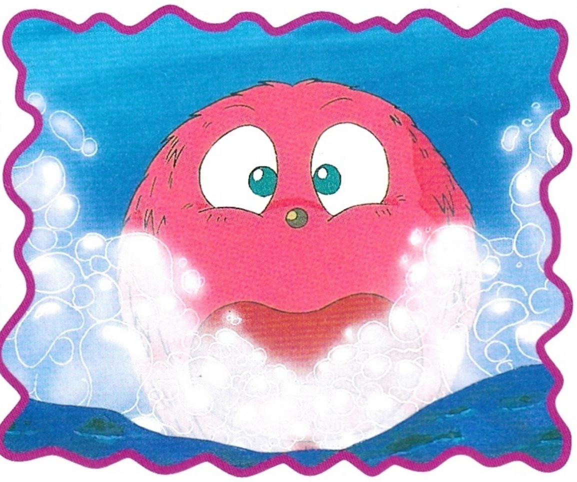
“ゲゲゲの鬼太郎”にでてくる妖怪など140以上を，大しょうかい！　あいうえおじゅんになっているから，さがしやすいよ。これで，きみも妖怪はかせだ！


決定版
ゲゲゲの鬼太郎
鬼太郎をはじめ，妖怪が大集合したぞ。妖怪のことなら，これ1さつで，すべてがわかるよ！
妖怪大事典

赤舌（第四十九話）



●すんでいる場所　北国の地方都市。
●とくちょう　雪をふらせたり，きりをだしたりする，水を自由にあやつる妖怪。水をのみながら，どんどん巨大化し，あばれた。



●赤舌の本体
▶手の中にはいってしまうくらい小さく、まりもに目玉がついたような、かわいい生きもの。

あかなめ（第十六話）

●すんでいる場所　ねずみおとこのぼろアパートに、しろうねりといっしょにひそんでいた。
●とくちょう　もともとは、ふろのよごれなどを舌でなめて、ぴかぴかにする妖怪。巨大化して、しろうねりのかびをなめたが、おなかがふくれてしまった。



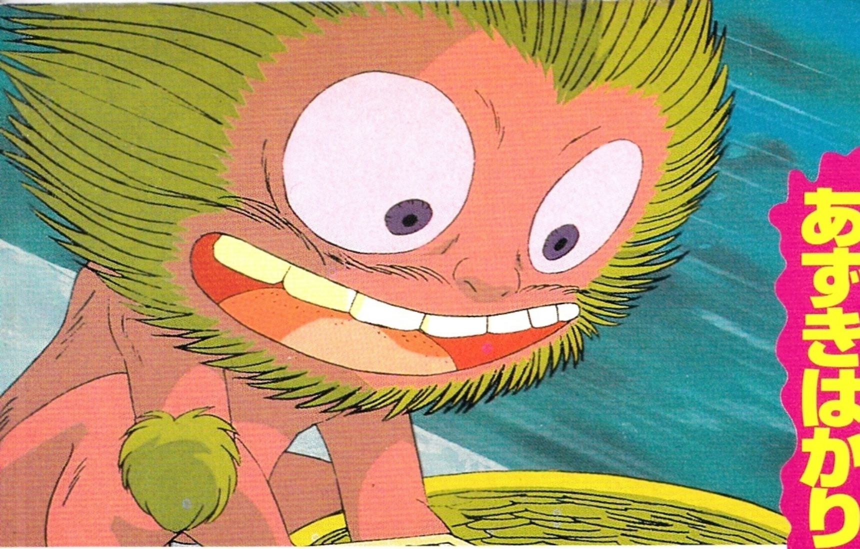


アカマタ（一九九六年夏劇場版）

●すんでいる場所　南太平洋のバルル島。
●とくちょう　南方妖怪のリーダー。口からだす妖気ガスで、相手の妖気をばったり、かなしばりにする。悪い日本人にいかり、日本にこうげきをしかけた。



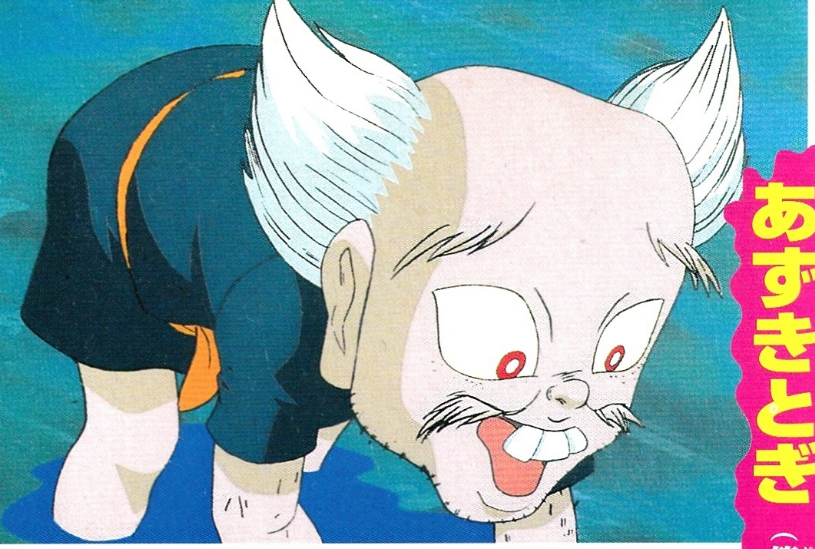
▲口からドライアイスのようなサラマンダ液を鬼太郎にふきかけ，うごけなくしてしまった。



あずきはかり（第三十四話）

●すんでいる場所　山おくの川べり。

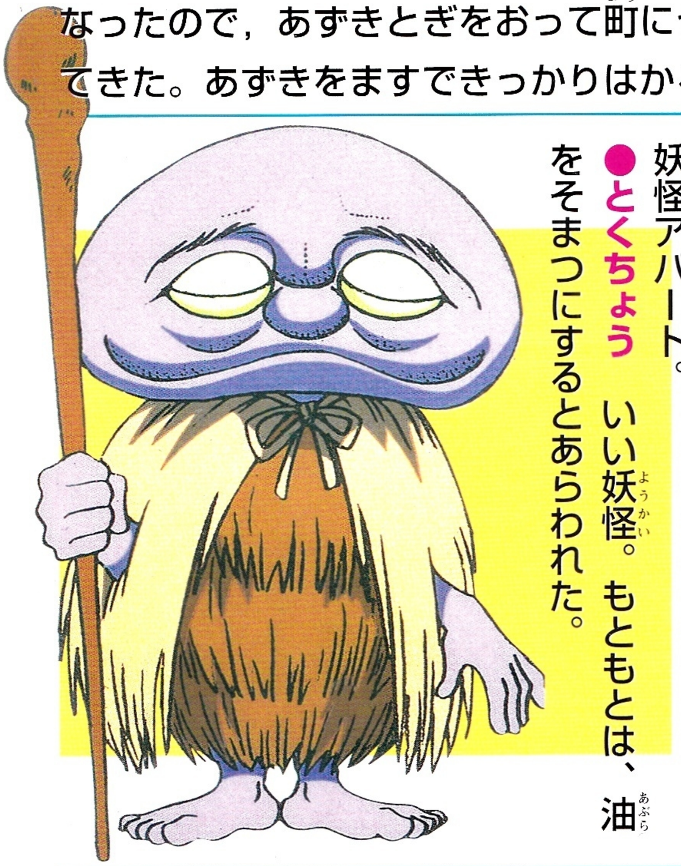
●とくちょう　ダムができて，人がいなくなったので，あずきとぎをおって町にやってきた。あずきをますできっかりはかる。



あずきとぎ（第三十四話）

●すんでいる場所　山おくの川べり。

●とくちょう　あずきをとぎながらうたう歌を，人にきいてもらいたくて，町の和菓子屋にあずき職人としてやとってもらう。



油すまし（第三十六話）

●すんでいる場所　砂かけばばあのたてた妖怪アパート。

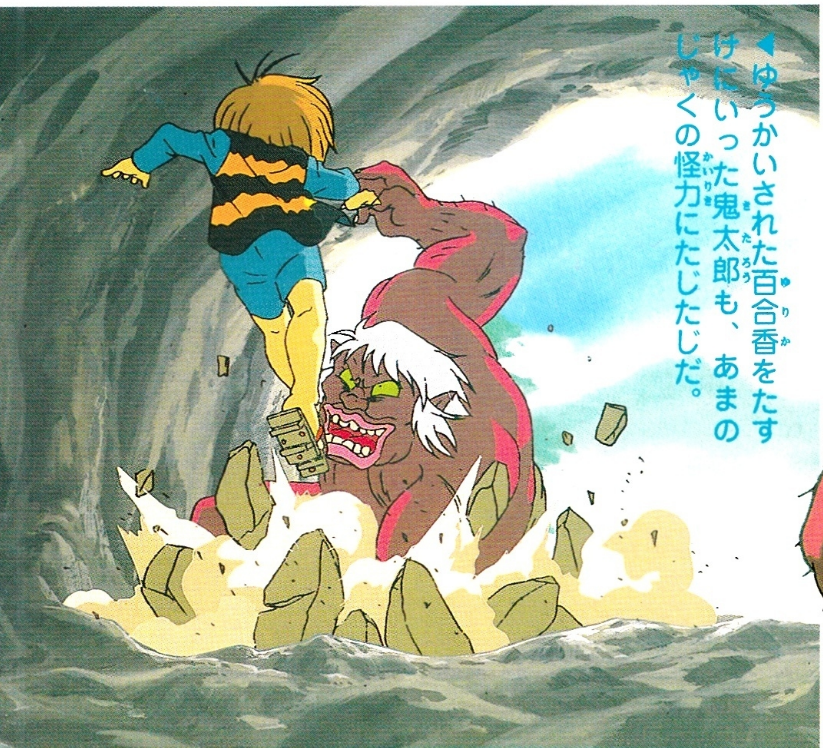
●とくちょう　いい妖怪。もともとは、油をそまつにするとあらわれた。



あずきばばあ（第三十四話）

●すんでいる場所　村から近い沢。

●とくちょう　居場所をうばう人間におこったが、悪い妖怪ではない。あずきの芽をださせ、あいてをからめとる。



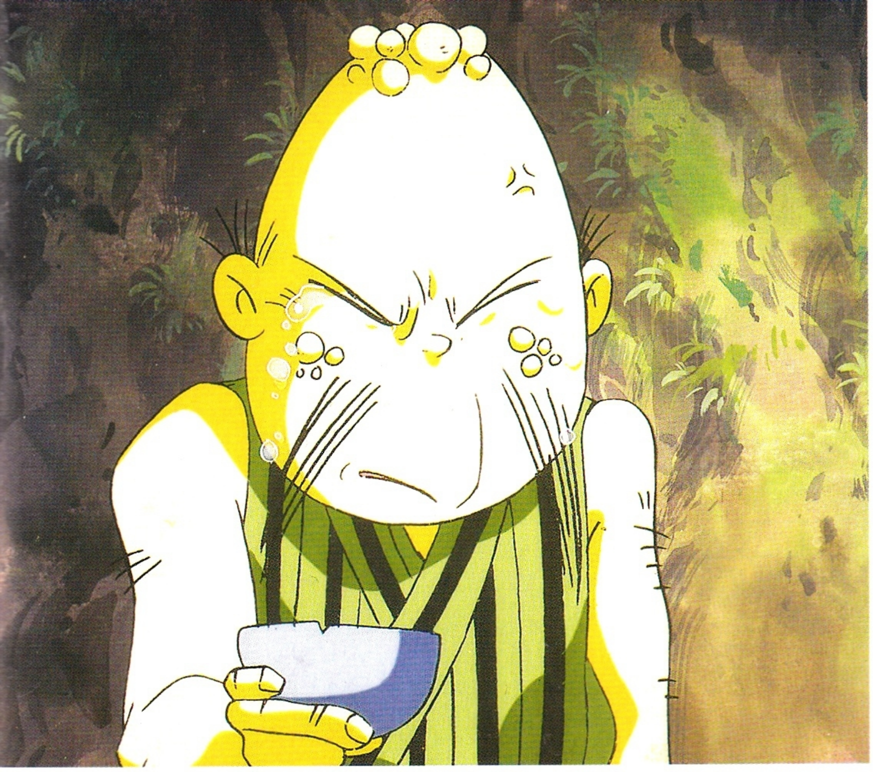
◀ゆうかいされた百合香をたすけにいった鬼太郎も、あまのじゃくの怪力にたじたじだ。



あまのじゃく（第二十六話）

●すんでいる場所　石の風車のおもしに、まよけをのせて、ふうじこめられていた。

●とくちょう　五百年間たべられず、はらぺこで、人間のくんせいをつくろうとした。



あまめはぎ（第五十二話）

●すんでいる場所　山の中の大きなこま神木の中。

●とくちょう　子どもたちがこまをすてたことにいかり，妖怪ごまをあやつり，500年前の世界からよみがえった。



▲あまめはぎにあやつられたこまが，はちのようにとび，鬼太郎におそいかかる。

雨ふりこぞう（第四十話）



●すんでいる場所　高い木の上。

●とくちょう　とても身軽で、もっているちょうちんのふりにあわせて、自由自在に雨をふらすことができる。

雨ふりてんぐ（第二十三話）



●すんでいる場所　風ふき峠。

●とくちょう　自動車の排気ガスで霊力のもとのかすみ草がかれたため、おこった。とっぷうをおこして、人間を風のあなにすいこんだり、車をふきとばした。

いそ女（第六十八話）

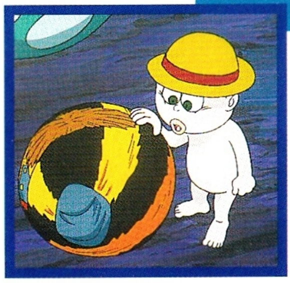


●すんでいる場所　海辺の岩ぺきにある古いほこら。

●とくちょう　波のあらい日に，海にちかづいた人間を，大口をあけて海中にひきずりこむ。

いそ女の本体⬇

▲本体は赤んぼう。いそ女にくわれた鬼太郎は、まん丸になってしまった。



一目入道（第四十二話）



●すんでいる場所　山おくのかっぱ村。

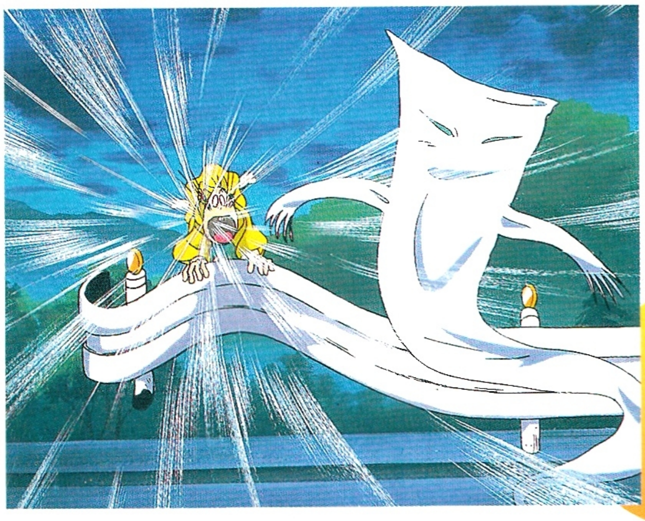
●とくちょう　頭のさらは、目玉の役目もする。悪さしほうだいのあばれんぼう。

いったんもめん

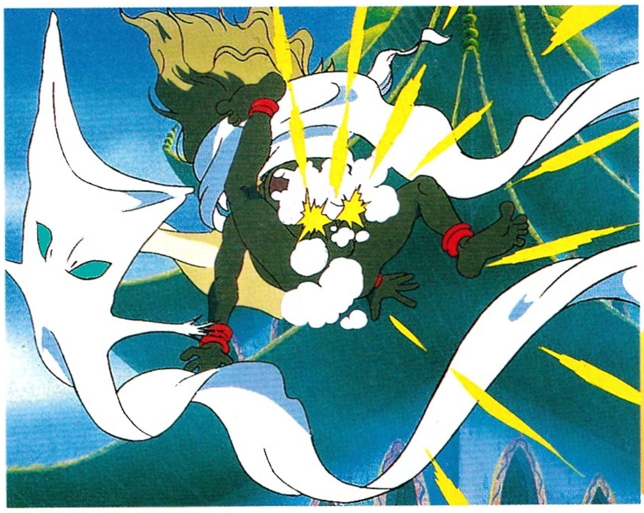
●すんでいる場所　もともとは九州の山の中。

●とくちょう　もめんのぬのでできていて，鬼太郎たちファミリーをどこにでもはこんでくれる，空をとぶ妖怪。長い体でてきをしめつけたりする。おとなしいが，ファミリーの重要メンバーだ！

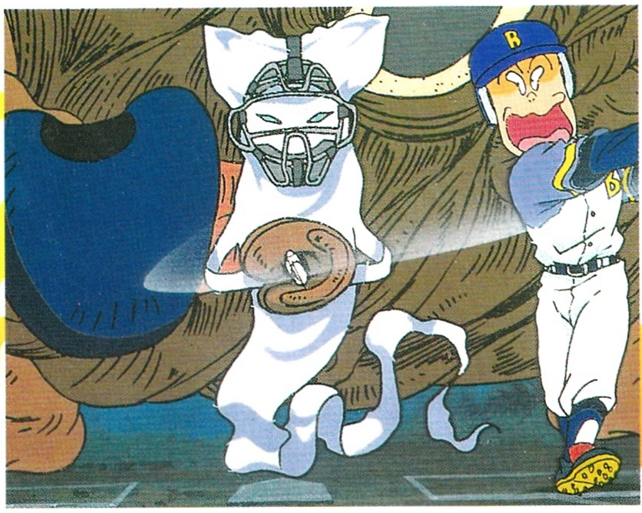




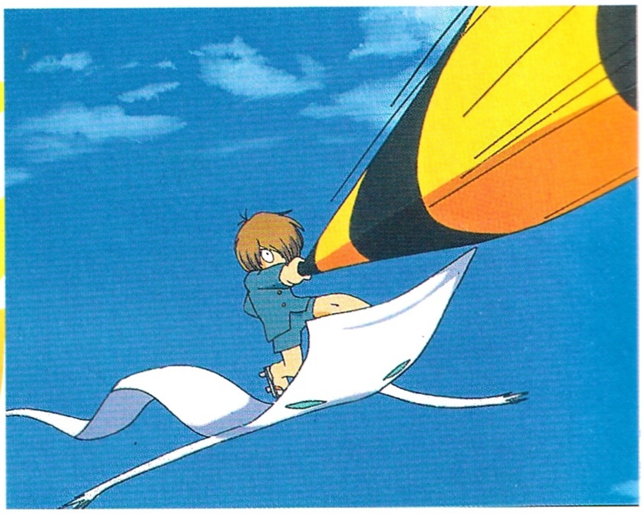
▶「わかりもした。」の一言で、ファミリーを目的地まではこんでくれる。ねずみおとこが悪さをすると、こらしめることも。



▶みた目は弱そうだが、長い体を利用して、てきをぐるぐるまきにしめあげたり、からめとったりしてこらしめるぞ。



▶妖怪たちが野球をしたときなど、おもしろいかっこうをして、キャッチャーなどつとめたり、けっこうゆかいなところもあるよ。



▶鬼太郎の空中戦を、すばやい動きで、とびまわり、手助けする。たのもしいみかただ。

一本だたら（第五十一話）



●すんでいる場所　山中の岩かげの大きなどうくつ。

●とくちょう　鼻をふくらませてはく息は、すさまじいとっぷうになる。子ぎつねたちに冬眠のじゃまをされていかり、おいかけた。

井戸仙人（一九九六年夏劇場版）



●すんでいる場所　村のおく深い古井戸。

●とくちょう　大海獣に変身させられた鬼太郎をたすけるため、目玉のおやじがおとずれた、ものしりの妖怪。薬草などにくわしい。

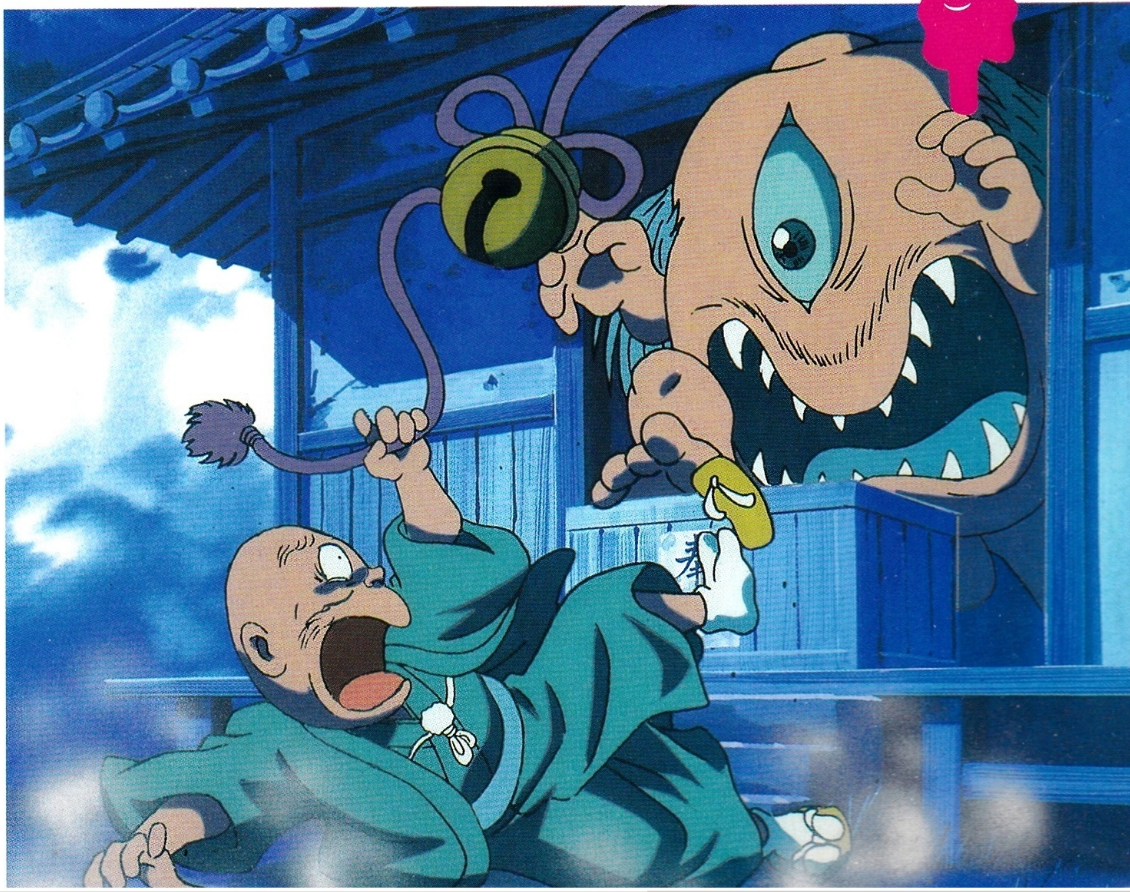
いやみ（第六十一話）

●すんでいる場所　山間のふるびた神社のお堂。

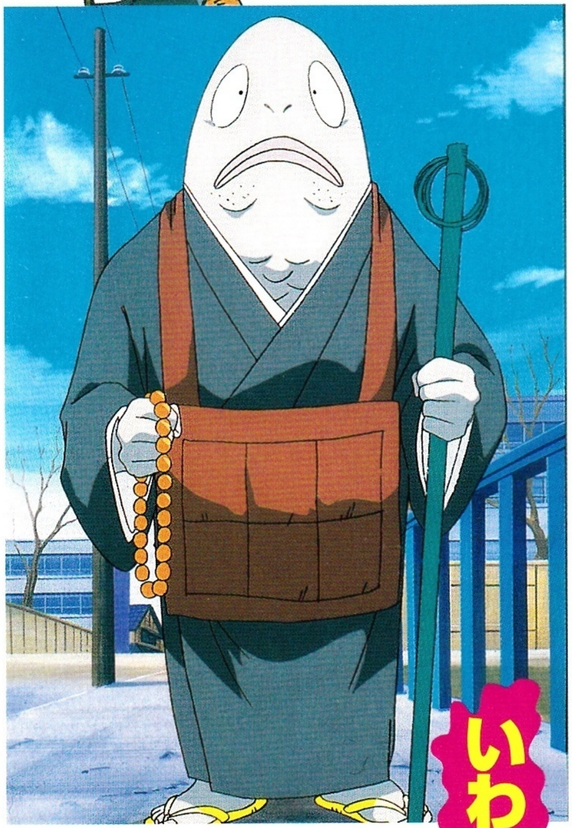
●とくちょう　いやみがそばをとおると、人間からばら色の気体がぬけでて、きゅうにきょうぼうになったり、本音をむきだしにする。両手がろくろ首のようにひゅるひゅるとのび、なんにでもまきつく。



▲落語家にのりうつり，ひょうたんの中に，ショウ気をいれて，あやつった。



いわなぼうず（第五十九話）



●すんでいる場所　ある、しずかな村。

●とくちょう　人間の死期がわかり、人間を極楽浄土へ案内してくれる妖怪。オバリヨンに、ある女の子をたすけてくれとたのまれるが、力がおよばなかった。

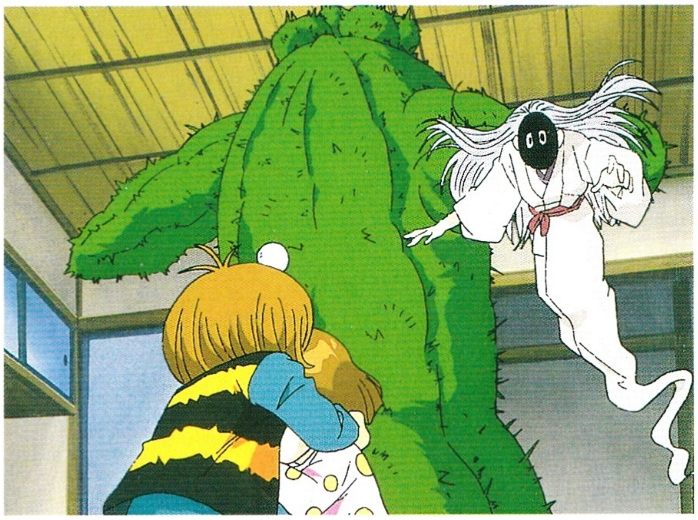
うばが火（第五十話）



●すんでいる場所　くらやみの世界。
●とくちょう　まん中に，ろうばの顔がうかんでいる炎のかたまり。仲のいい男女をみるとにくくなり，もえあがる妖怪。

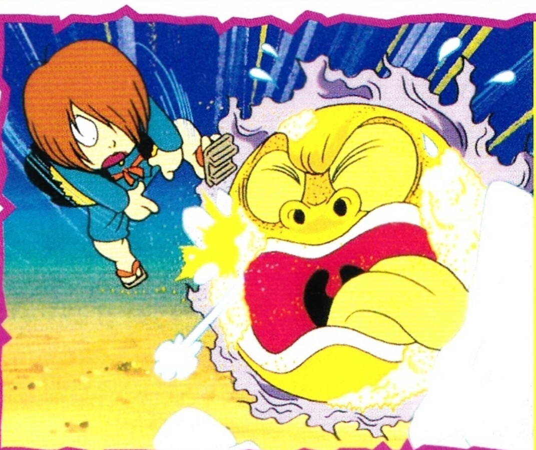
うしろ神（第五十五話）

●すんでいる場所　ふつうの家にすみ，かげの世界にかくれている。
●とくちょう　すみついた家の人々の精気をとり，不幸にする。光に弱い。サボテン妖怪をあやつった。

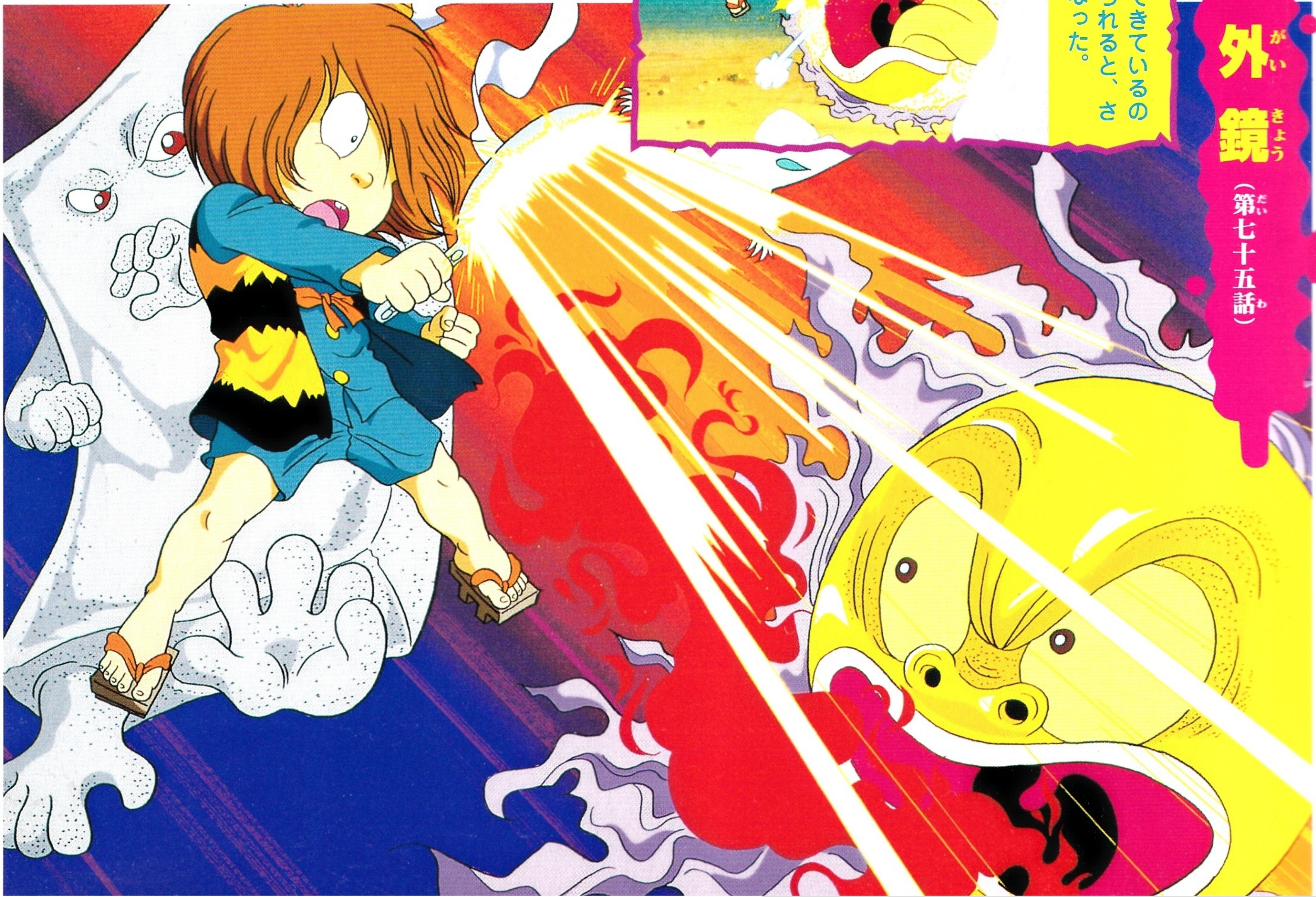


雲外鏡（第七十五話）

●すんでいた場所　1000年以上もねむっていた。
●とくちょう　少女にばけ，天敵照魔鏡を手にいれ，鬼太郎をも，古いかがみの中にとじこめた。大きな口から赤い舌のような炎をはっしゃする。



◀雲外鏡は銅でできているので，塩をあびせられると，さびてこなごなになった。



エリート（第五十七話）





▲本体はこうもり。妹の吸血こうもりを，ことばのはなせる妖怪に変身させようとした。

●すんでいる場所　おかの上の洋館。

●とくちょう　人間の血をすって、世界じゅうをわたりあるく吸血妖怪。かしこい美女をねらい、その血をのんで、若さをたもとうとした。

えんま大王（第四十八話／一九九七年夏劇場版）

●すんでいる場所　じごく。

●とくちょう　じごくを支配する大王。じごくにおちた人間たちをさばいて，つみによって舌をぬいたり，じごく池におとす。目玉のおやじに，ぬすまれたまぼろしの汽車をとりもどすよう，たのんだ。





◀じごくには、針の山や血の池などがある。

おおかみおとこ（第六十四話／一九九七年夏劇場版）



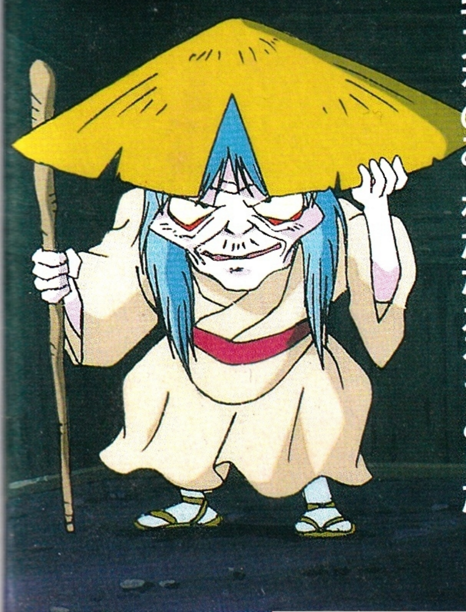
●すんでいる場所　イギリス。

●とくちょう　月の光をあびると、全身がもじゃもじゃの毛だらけになる。まぼろしの汽車にのって、日本をおそってきた。

おしろいばばあ（第二十一話）

●すんでいる場所　谷底の小屋。

●とくちょう　つけると顔がなくなってしまうおしろいを、ねずみおとこにうらせた。そして、うばった人間の顔をにこんだエキスをのみ、わかがえろうとした。



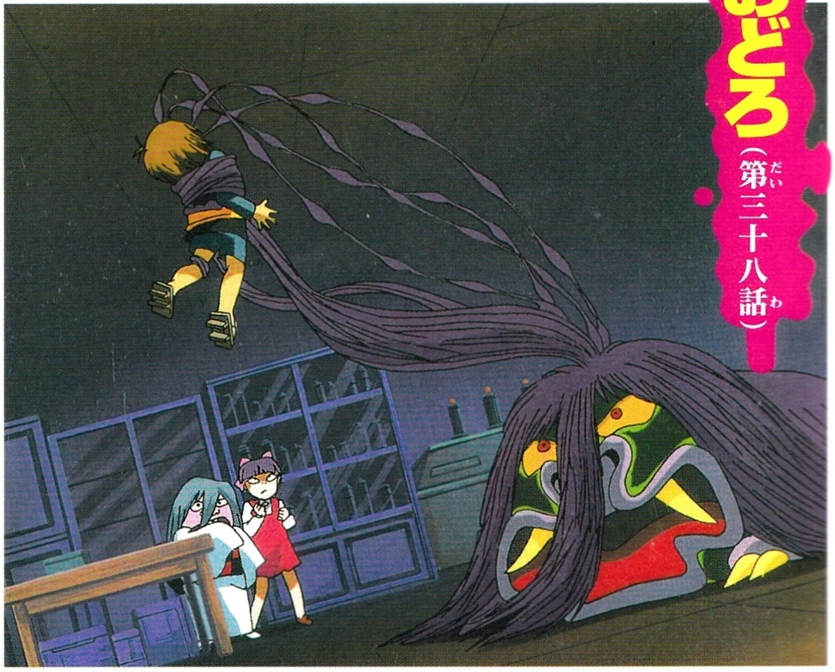


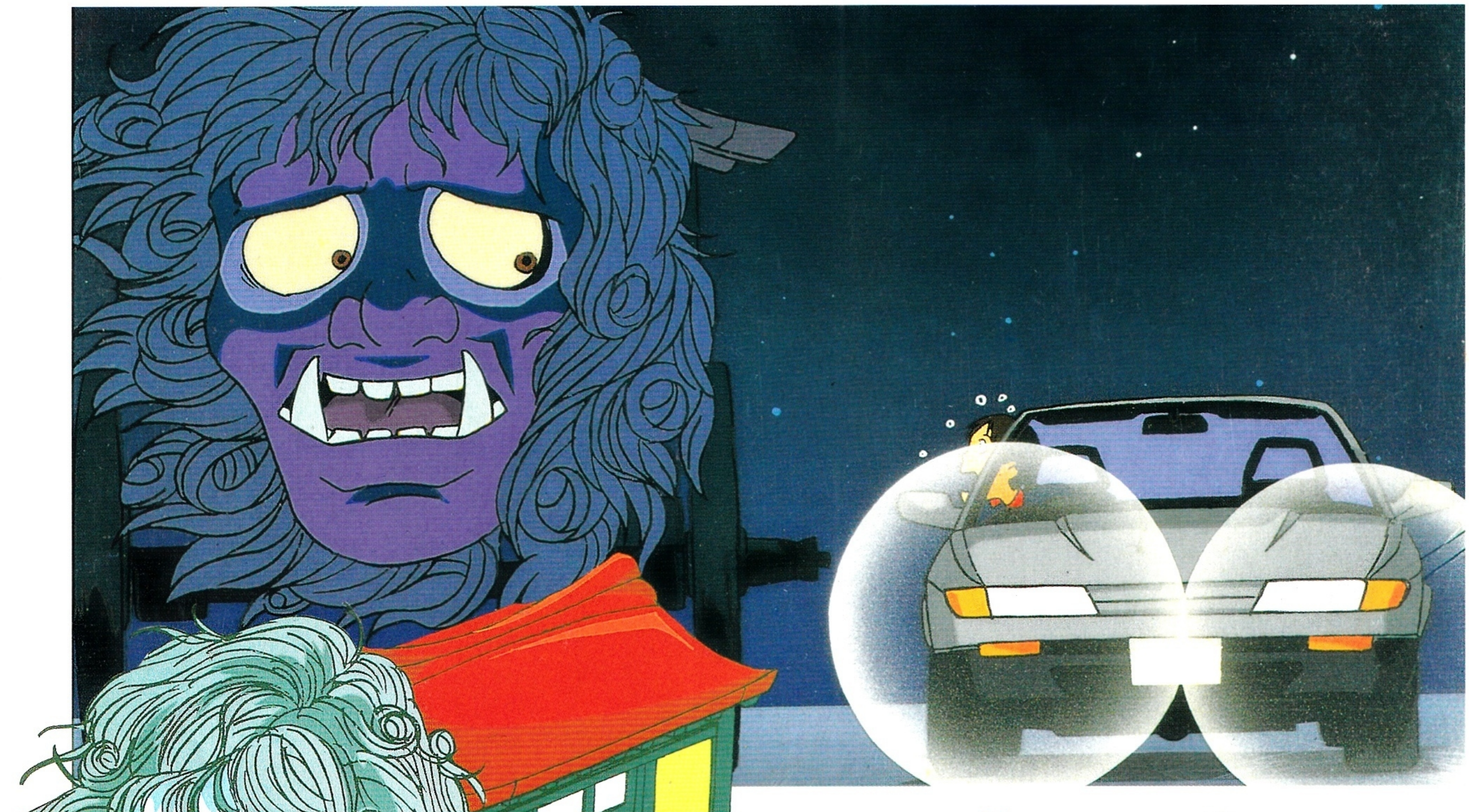
オバリヨン（第五十九話）

●**すんでいる場所**　あるしずかな村。
●**とくちょう**　むじゃきで，やさしい妖怪。30年前たすけられなかった女の子の姉をよんで，いわなぼうずの助けをかりて，女の子の願いをかなえてあげた。

おどろおどろ（第三十八話）

●**すんでいる場所**　古い洋館。
●**とくちょう**　本来のすがたは，科学者。毛はえぐすりの副作用でこのすがたになった。鬼太郎の妖力できよめた血のしずくで，人間にもどれた。





おぼろ車（第二十五話）

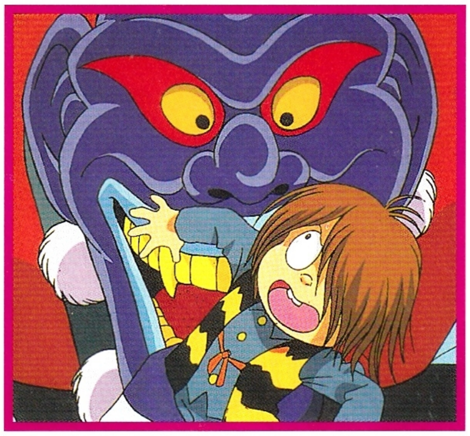
●**すんでいる場所**　むかし，都としてさかえた町をみおろすおか。
●**とくちょう**　はっくつされた木片からできた，牛車の霊。何百年もすみついてきたおかと博物館がこわされることにいかり，ぼうそうした。



おりたたみ入道（第三十六話）

●**すんでいる場所**　むじなのせおった，つづらの中。

●**とくちょう**　むじなにたすけられて，つづらにいれられた。それで，むじなの命令をきいて，ほかの妖怪をたべた。

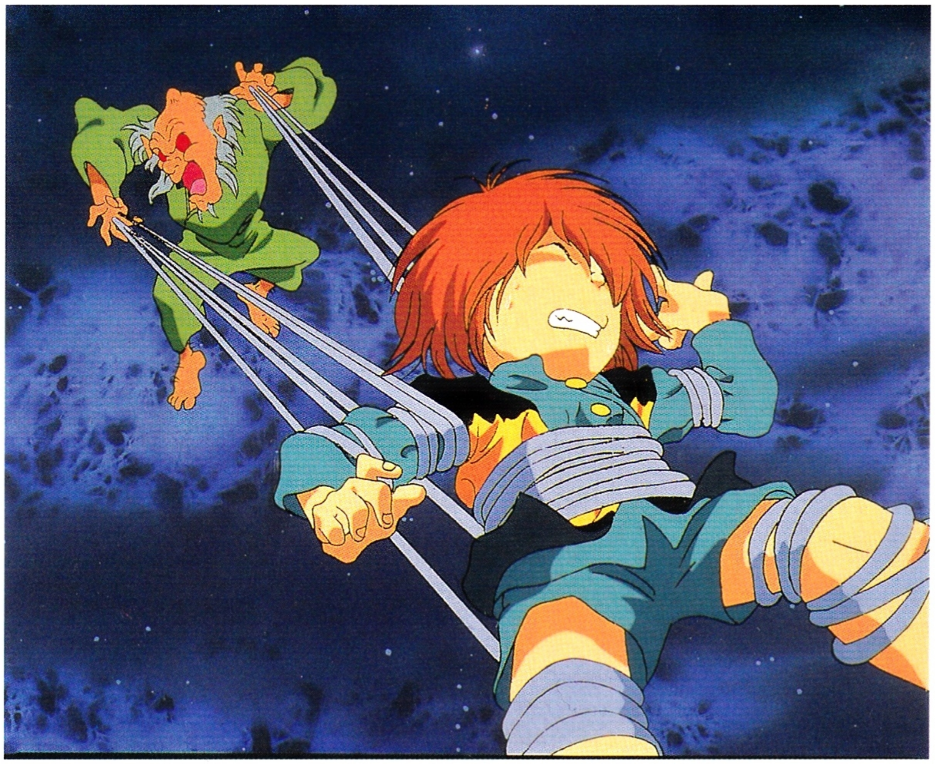


◀大口をあいて、鬼太郎をたべようとした。呼子と油すましもたべられた。

おんもらき（第二十四話）

●**すんでいる場所**　古寺。

●**とくちょう**　小百合という死んだ少女にのりうつり、死人のかげにはいって、人の精気をすいとった。たましいをあやつり、霊魂をよろい武者などのすがたにかえておそってきた。鬼太郎は、百八の点をむすんで妖怪の正体をあばき、絵の中におんもらきをふうじこめて、さいごは土にもどした。

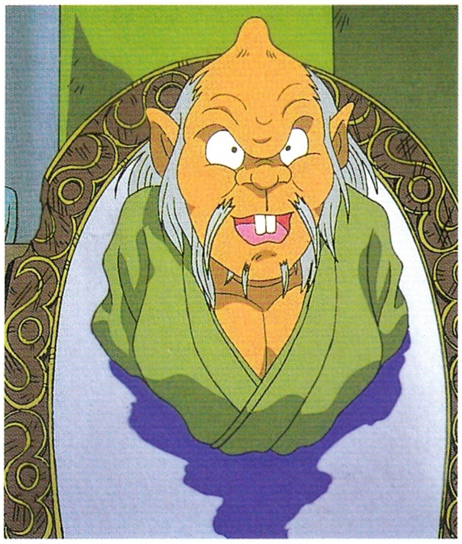




鏡じじい（第四話）

●**すんでいる場所**　小学校にかざられていた古いかがみの中。

●**とくちょう**　かがみにうつったものを中にひきこみ、ミイラにしてしまう。かがみをそまつにした人を、かがみの中にとじこめてしまう。

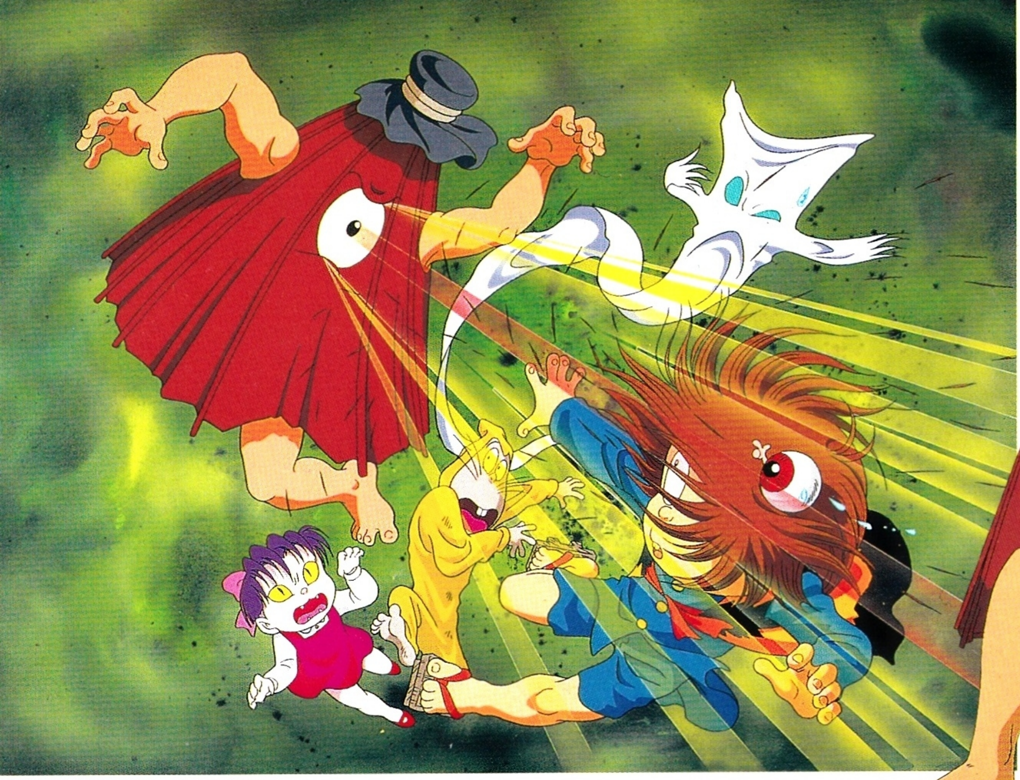


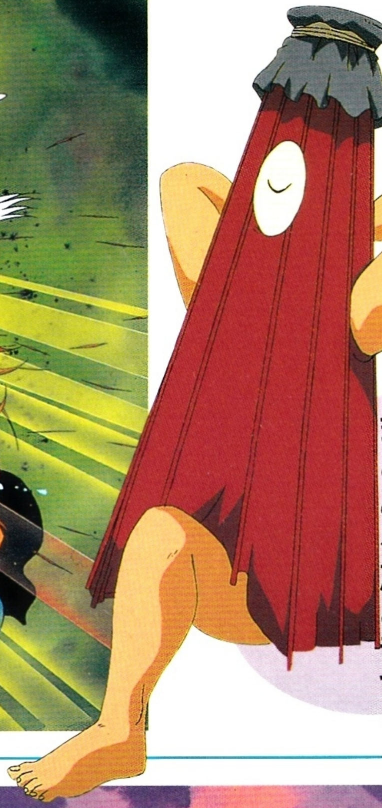
▲古かがみにすみつき，長いあいだ，学校の守り神だった。

かさばけ（第三十一話）

●すんでいる場所　さびれた炭坑のあと。

●とくちょう　かさを高速で回転させて、円盤のように空をとび、相手にさいみん術をかける。一つ目からは熱線をはっしゃする。お金目当てで、死んだ寿太郎にばけるが、たいせつなのはまごころだときづく。

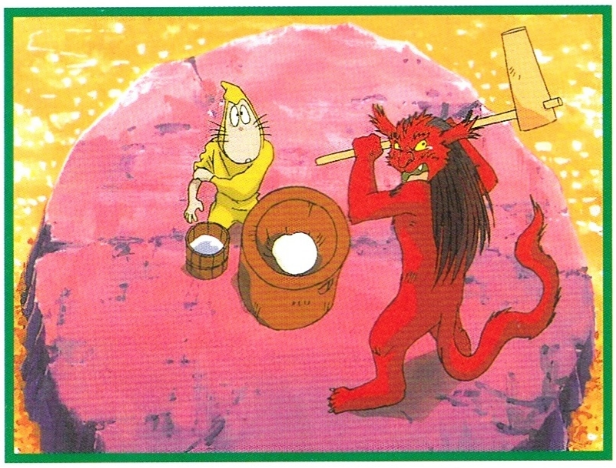




火車（第四十五話）

●すんでいる場所　木のあなの中のかくれが。

●とくちょう　なくなった人間から，たましいをとってくう妖怪。もちが大すきで，ぬきとったたましいをもちについて，くう。



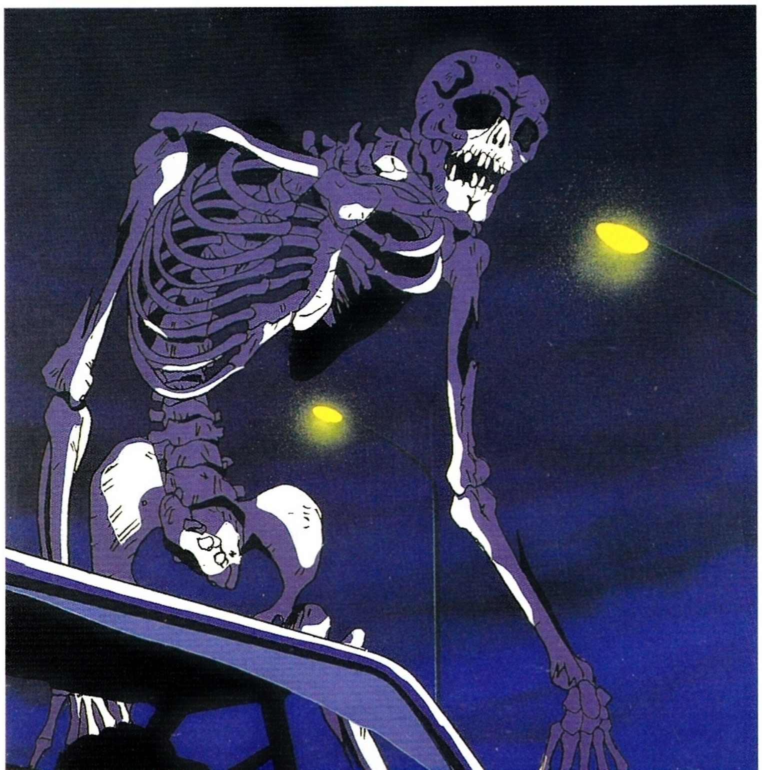
▶ねずみおとこにてつだわせ、たましいをもちの中にいれて、もちつきをする火車。

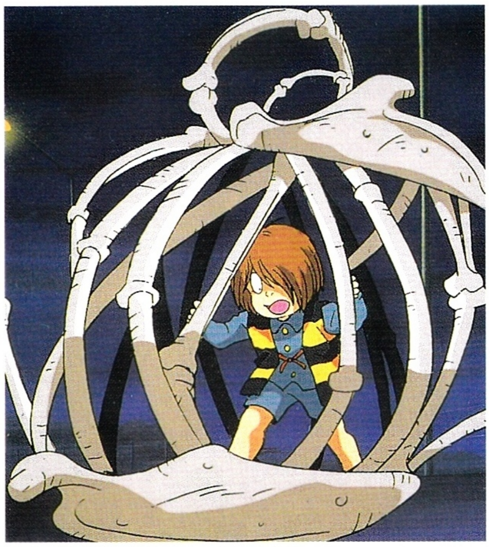


がしゃどくろ（第十一話）

●すんでいる場所　自然保護地域の霊山。

●とくちょう　巨大なほねの妖怪で、きりがでるとあらわれる。ほねを自在にくみなおすことができ、てきをこうげきするときには、目が赤くひかる。





▲ほねのかけらをあつめ，かごをつくり，鬼太郎をとじこめて，処刑しようとした。

カシャボ（第六十一話）

●**すんでいる場所**　日本の南のはての金比羅島。

●**とくちょう**　南の島で、けがれたたましいをきよめる清めの水をまもっている。鬼太郎も、この水をのんでもとにもどった。





▲かにぼうずの白いあわをあびて頭がおかしくなり，かにぼうずのいいなりになって，悪さをした。

かっぱ（第八話／第四十二話ほか）

●**すんでいる場所**　しずかなかっぱぶちや、山おくのかっぱ村など。

●**とくちょう**　善良なかっぱや、悪がっぱなどいろいろいる。が、たいていは、だれかにそそのかされて、悪さをすることが多い。



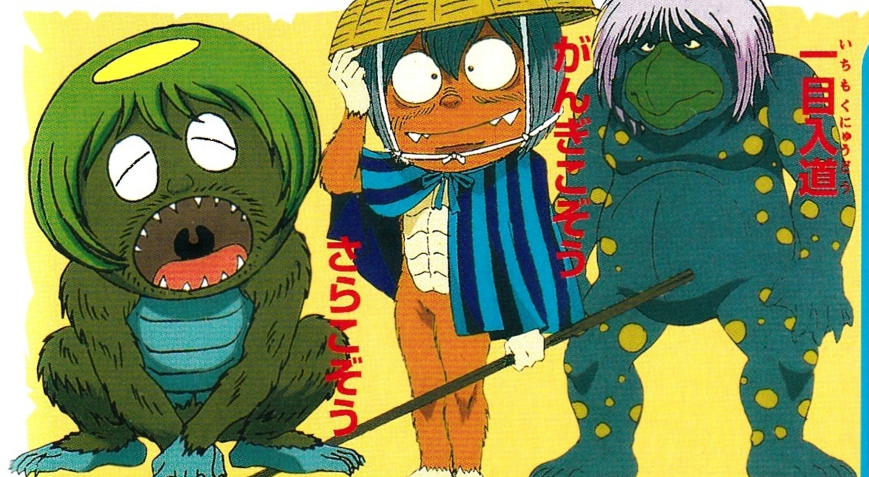
▲かにぼうずの白いあわをあびずにすんだので、鬼太郎に助けをもとめてきた。



▲朱の盆の手先になって、カワウソをおいつめて、つかまえようとした。

▲かっぱ村を一目入道一家におそわれた，村のかっぱ。

おなじかっぱのなかま



▲さらこぞうのことは，26ページをみよう。

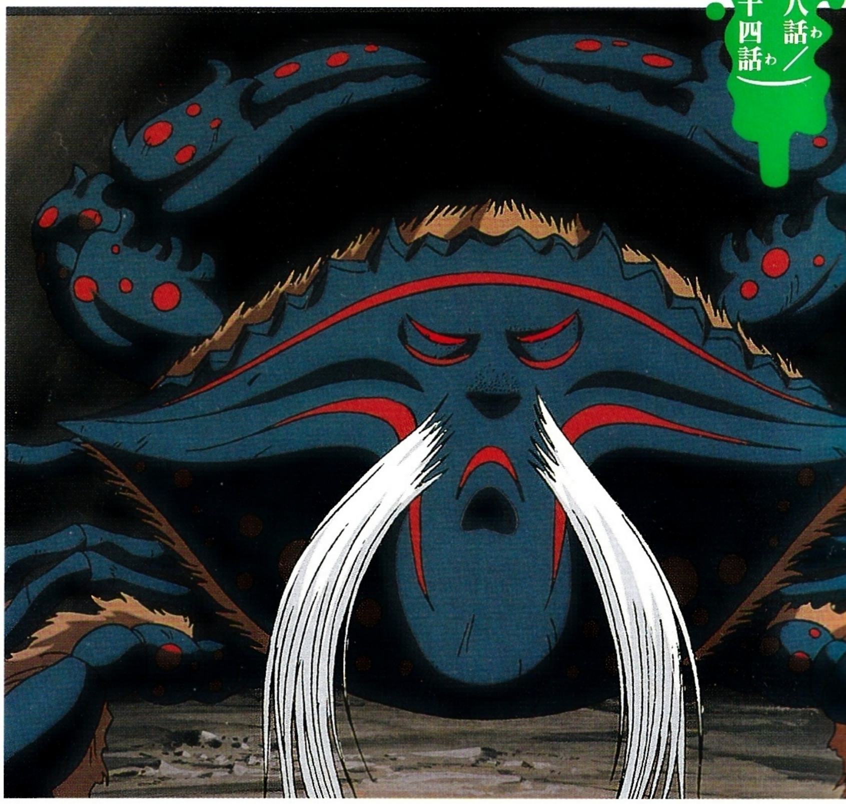
▲がんぎこぞうは17ページにのっているよ。

▲一目入道は，6ページにのっているよ。

かにぼうず（第八話／第十四話）

●すんでいる場所　山おくのしずかな沼の底。

●とくちょう　口からはく白いあわで、かっぱをあやつった悪い妖怪。巨大なはさみが必殺ぶきで、鬼太郎のくりだすわざもふせぐ。横歩きしかできないが、鬼太郎をたべて、妖力をふやそうとした。本体は二千年も生きているうちに、妖力を手にいれ妖怪になった、上海がにだった。



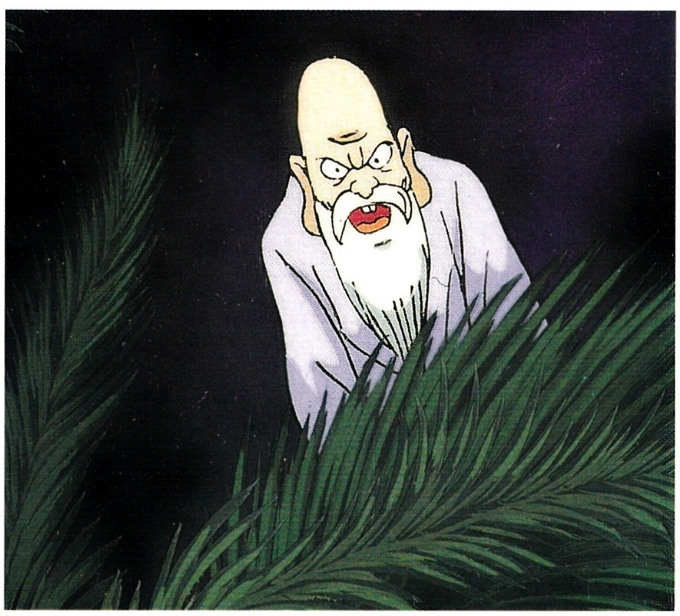
かまいたち（第六十六話／第六十七話）



●すんでいる場所　夜しかあらわれない妖怪城。

●とくちょう　風のごとくあらわれる。両うでの先がかまになり，あいてにきりかかる，しっぷうがまが必殺わざだ。

ガマ仙人（第五十四話）



●すんでいる場所　森の太い木のみき。

●とくちょう　むかし，じゃみをふういんしたが，ふっかつしたじゃみを，ふたたびふういんするために，鬼太郎にばけた。

カミナリ（第三十二話）

●すんでいる場所　積乱雲の中にうかぶ，巨大な岩。

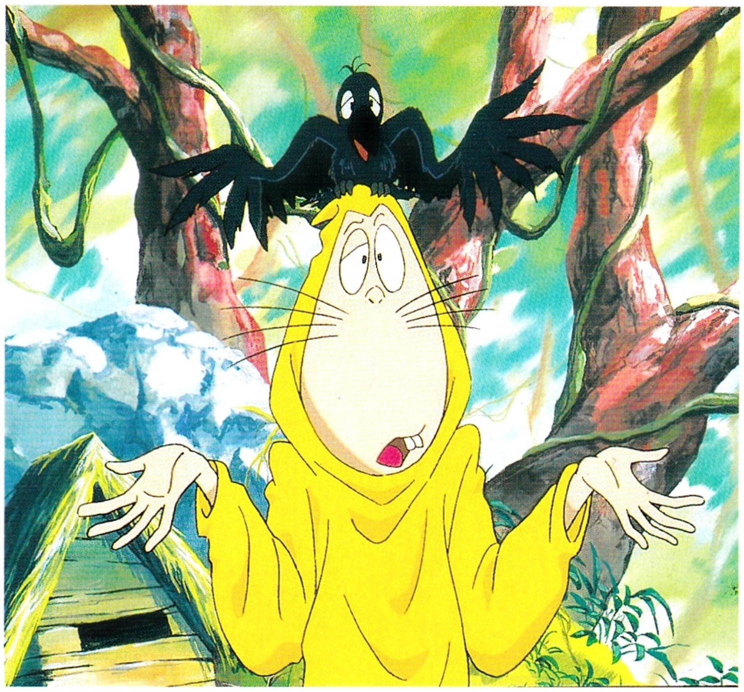
●とくちょう　電気をだす妖怪で，いなずまをあやつる。雲をよんで，空をとぶ。



か

カラス

●すんでいる場所　日本のあちこち。
●とくちょう　妖怪ポストにはいっている手紙を鬼太郎にとどけたり、いろんなおつかいをする。鬼太郎の友だちだ。

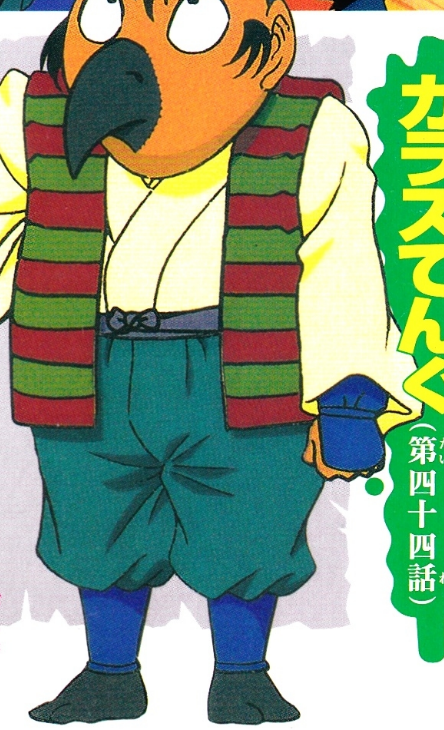




←カラスヘリコプター

◀カラスたちが力をあわせて、鬼太郎たちをのせて、空をとんでくれる。





カラスてんぐ（第四十四話）

●すんでいる場所　谷間の小屋。
●とくちょう　もっているうちわで、魔力をさける。江戸時代の妖怪代表として、外国妖怪ベリアルとたたかい、ふうじこめて勝った。が、百四十年後に仕返しされて、鬼太郎にたすけられた。

カルラ（第六話）

●すんでいる場所　牛鬼島のカルラのほこらにまつられていた。
●とくちょう　そのむかし、牛鬼をふういんした異国の神。ふえの音で牛鬼を自由にあやつることができる。目玉のおやじの子をおもう気持ちにうたれ、ふたたび、ふえの音で牛鬼をふういんし、鬼太郎をたすけてくれた。



カワウソ（第七十一話）



●すんでいる場所　神社のそばにあるオベベ沼。

●とくちょう　天才的ペテン師で、ぬらりひょんにみこまれ、悪さをする。人をだますのと、お金が大すき。人のよいおじいさんのおかげで改心する。



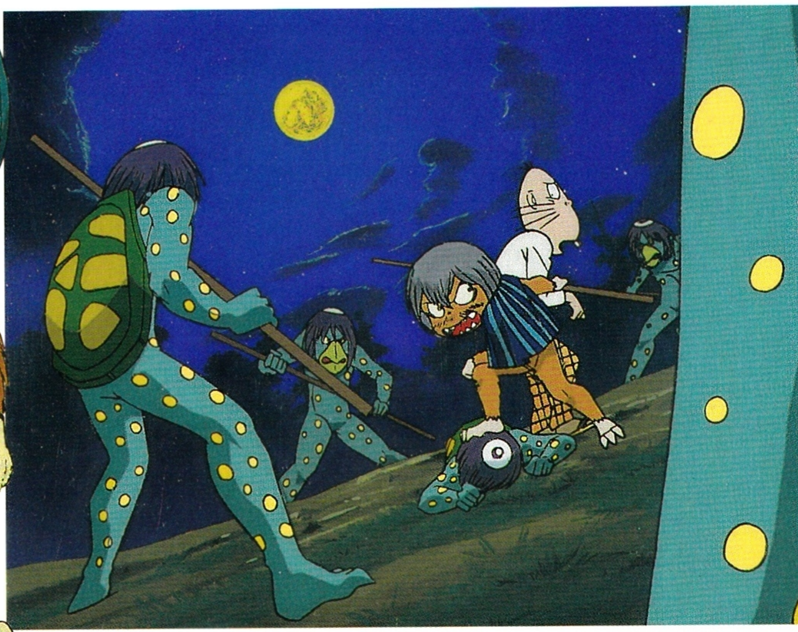
▲ぬらりひょんの金をくすねたカワウソは，朱の盆や，悪がっぱたちにおそわれた。

がんぎこぞう（第四十二話）

●すんでいる場所　住所不定で全国をたびしている。

●とくちょう　三度がさのすがたでたびをする、情にあつい、りちぎなかっぱ。かっぱたちをたすけるため、一目入道一家にのりこむが、やられる。



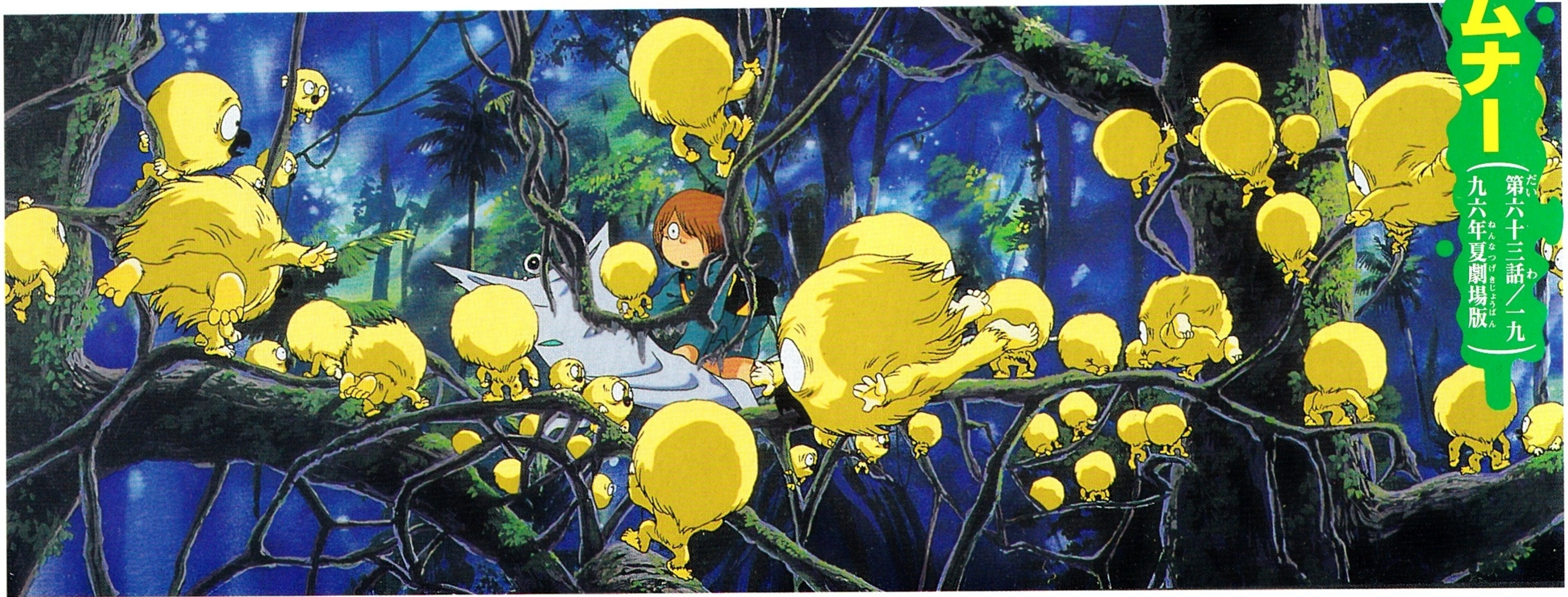


◀一目入道一家とわたりあうがんぎこぞうは、一目入道にうちのめされてしまう。

キジムナー（第六十三話／一九九六年夏劇場版）

●すんでいる場所　南太平洋のバルル島。本拠地は沖縄の森。

●とくちょう　木から木へとび，おそってくる，赤ちゃんくらいの大きさのミニ妖怪。猛スピードで空をとび，口から炎をはく。沖縄のホテルをてつだったキジムナーもいる。



【か】

鬼太郎

●すんでいる場所　ゲゲゲの森の中。

●とくちょう　ゆうれい族の子ども。人間と妖怪がなかよくくらしていけるように、超能力をつかって、わるものをこらしめる。かみの毛ばり、リモコンげた、霊毛ちゃんちゃんこなど、すごいわざをもっているぞ。



鬼太郎の超妖力わざ

かみの毛ばり

れいとうかみの毛ばり



●氷のエネルギーをかみの毛にあつめ，こおらせてはっしゃする。体にうけた妖怪は，こおってしまう。



●かみの毛をはりのようにかたくして，てきにうちこむ，必殺わざ。

かみの毛あみ



▲長くのばしたかみの毛で，あみをつくり，てきにかぶせてしまう。

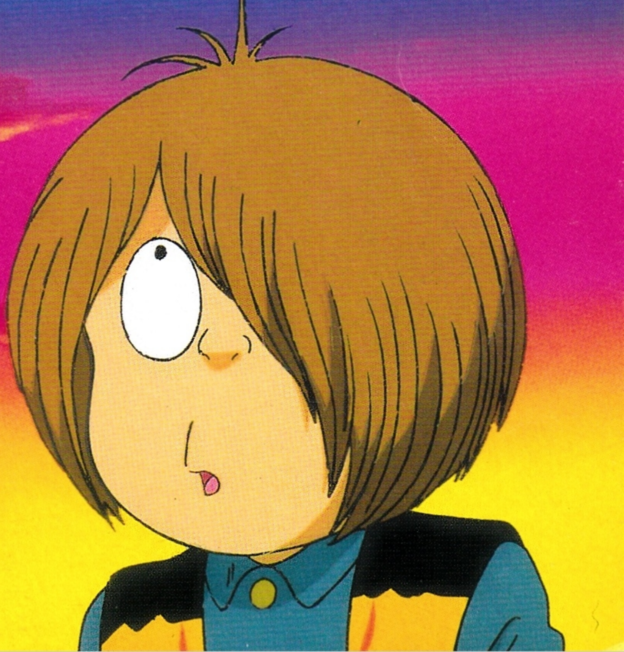
かみの毛ロープ



▲かみの毛をロープのようにのばして，相手をぐるぐるまきに。

妖怪アンテナ

●妖怪の妖気をかんじると，かみの毛がピンとたつんだ。



霊毛ちゃんちゃんこ



●先祖の霊毛であんだ，ちゃんちゃんこ。変形したり，とんだり，しめつけたり，あらゆるときにやくだつ，すぐれもの。

霊毛たつまき



◀妖力たつまきをおこして、のづちの腸の中から、だっしゅつ。

霊毛ロープ



◀ちゃんちゃんこをほどき、ロープのようにのばし、とびだす。

変形ちゃんちゃんこ



●目にもとまらぬはやさでとんでいき、変形して、おりたたみ入道にまきついて、ぎゅうぎゅうしめつけ、うごけなくしてしまった。

リモコンげた



リモコンげた回転キック

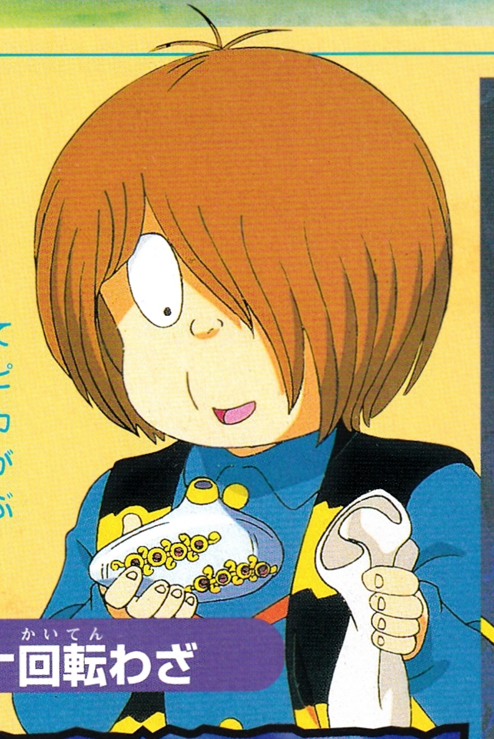
◀相手のおこした風にのって，スピードをつけたげたを，自分も回転しながらけりだす超わざだ。

げたトルネード



▲とびあがりざま、げたをまわしながら、てきめがけてとばし、命中させる。

オカリナ



●ふだんは，ふいてあそんでいるが，ピンチになると，オカリナの中からむちがとびだし，強力なぶきとしてやくだつ，すぐれものだ。

オカリナ回転わざ



▲目玉のおやじをこまにして，オカリナむちで，あまめはぎの頭の上でまわし，もとのこまにもどした。

オカリナむち



●ぬらりひょんが，しこみづえをぬいて，きりかかってきた。鬼太郎はオカリナむちをのばして，むかえうった。

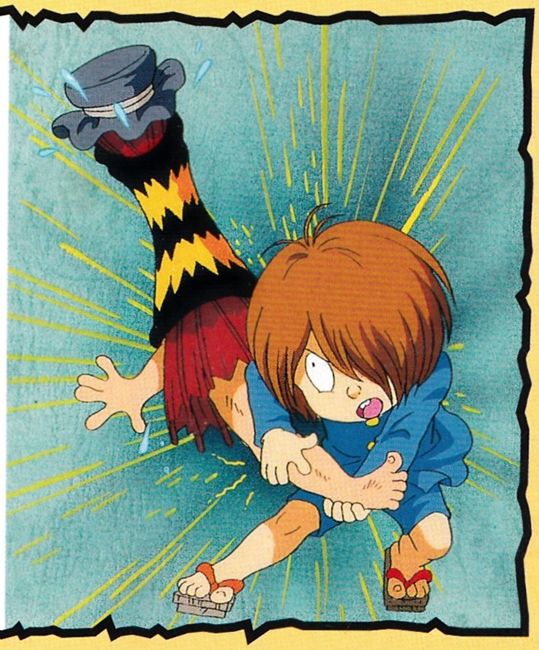
ほかにも、たくさんのわざがあるぞ!

熱線こうげき



●あつさに弱い妖怪に、口から熱線をふきだしておみまいする。雪男たちは、とけてしまった。

妖怪空手



▶空手の関節わざで、かさばけの関節をおさえこみ、うごけなくしてしまった。

妖怪魔法陣

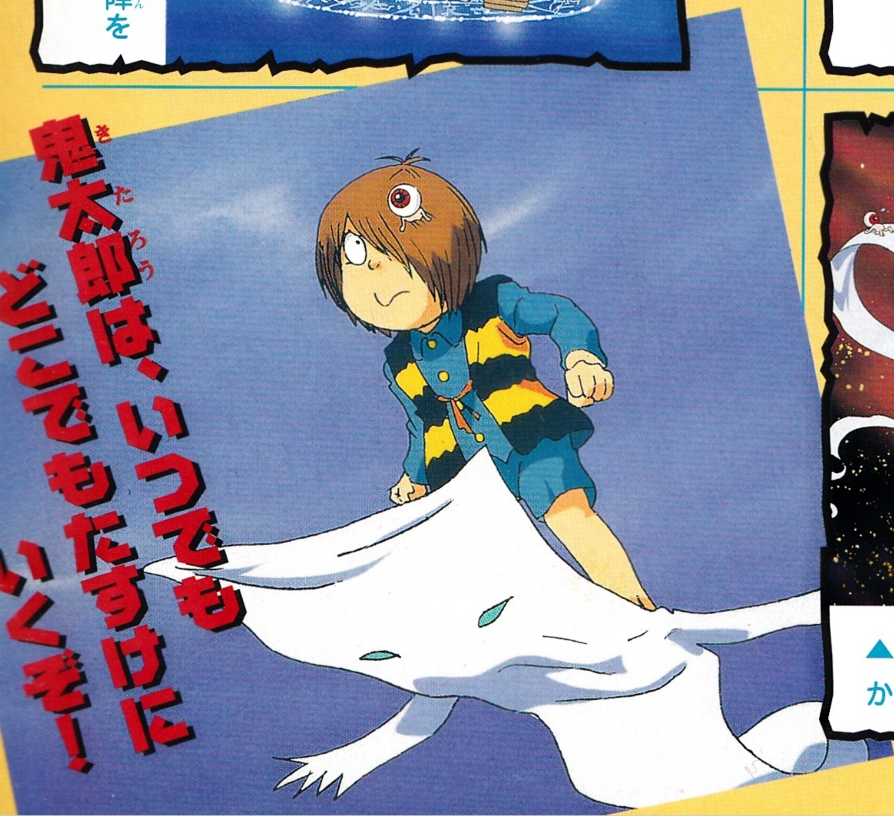


▶ベリアルの魔法陣をまねして、魔法陣をかき、カラスてんぐをすくった。

電気ショック



▲自分の体に電気をためて，集中させ，うちかえす，あらわざだ。



鬼太郎は、いつでもどこでもたすけにいくぞ!

【か】



吸血鬼（一九九七年夏劇場版）

●**すんでいる場所**　本来は外国。だが、じごくにおちた。

●**とくちょう**　こうもりをしたがえ、血をすう。妖力で、フェンシングの剣をだす。シルクハットを、ブーメランのようにとばす。マントで鬼太郎の体をおおい、妖怪石炭にしてしまった。

牛鬼（第六話）

●**すんでいる場所**　小さな島の牛鬼岩にふういんされていた。

●**とくちょう**　牛鬼をやっつけた者に、牛鬼のたましいがのりうつり、また牛鬼になってしまう。新しくなるぶん、どんどん強くなる。





▶牛鬼は、ぬりかべがてこずるほどの、怪力の持ち主だった。

空狐（第七十二話）

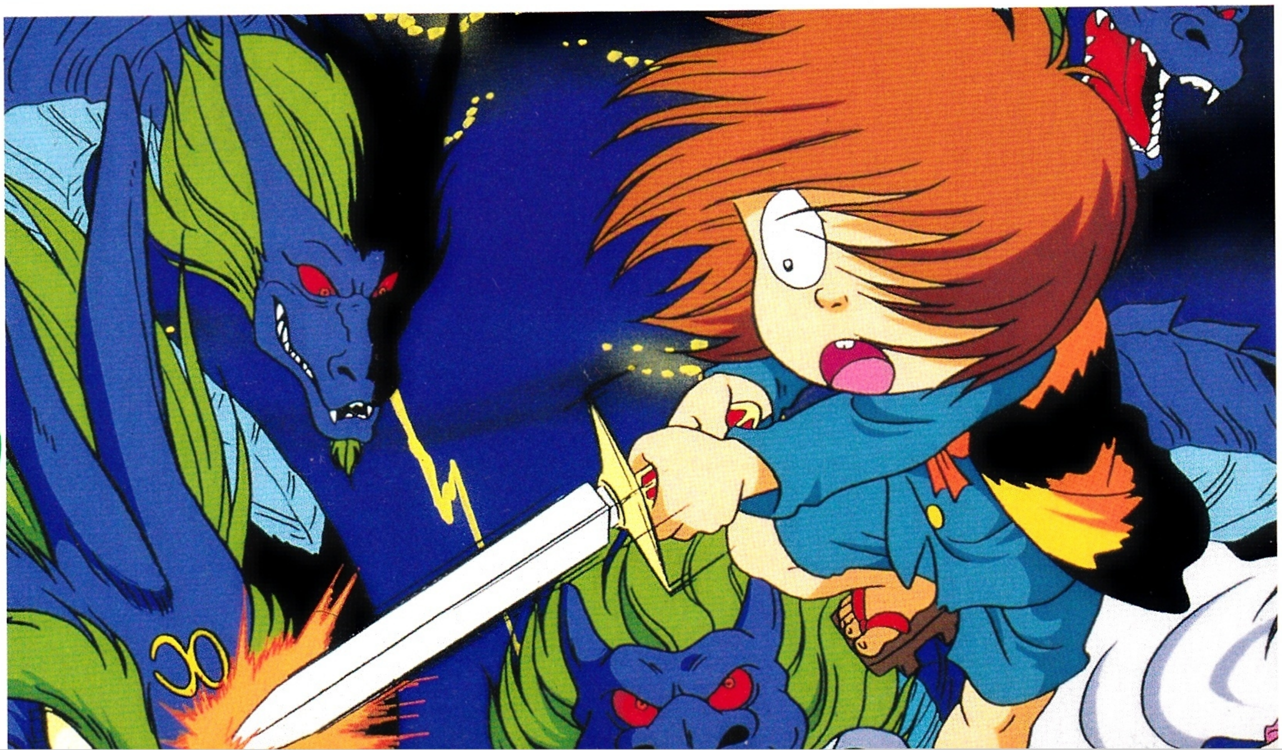
●**すんでいる場所**　天狐のどうくつ。

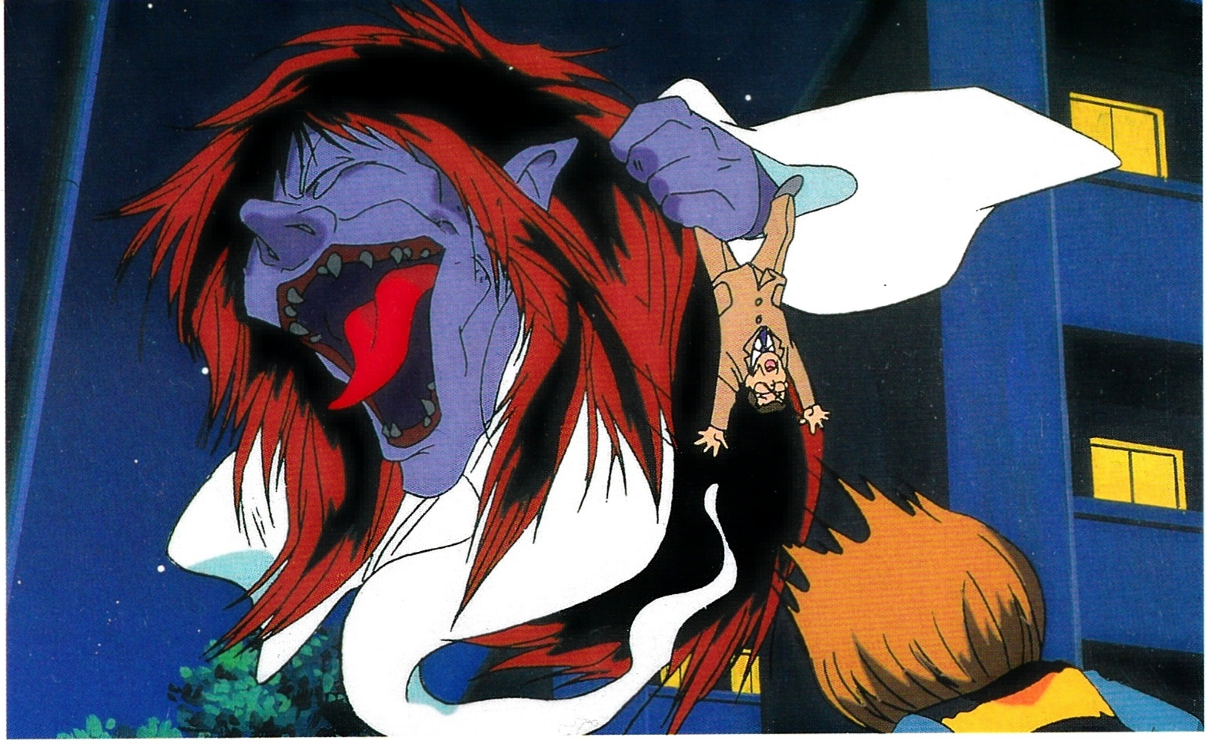
●**とくちょう**　天狐のおつかいだが、ときどき悪さをする。五本の巨大な尾をもつきつねに変身して、妖術でまぼろしをつくる。



くさなぎの剣（第七十四話）

●**とくちょう**　この剣で、八つのふういんをすべてとくと、ヤマタノオロチがふっかつする、まほうの剣だ。そして、この剣があれば、ヤマタノオロチをたいじすることもできる。





くびれおに（第十九話）

●すんでいる場所　黄泉の世界。
●とくちょう　現世につかれた人間にとりつき、黄泉の世界につれこみ、よわらせてたましいをすいとる、悪い妖怪だ。黄泉では、鬼太郎の妖力がきかず、かみの毛ばりもとちゅうできえてしまった。

毛羽毛現（第十一話）

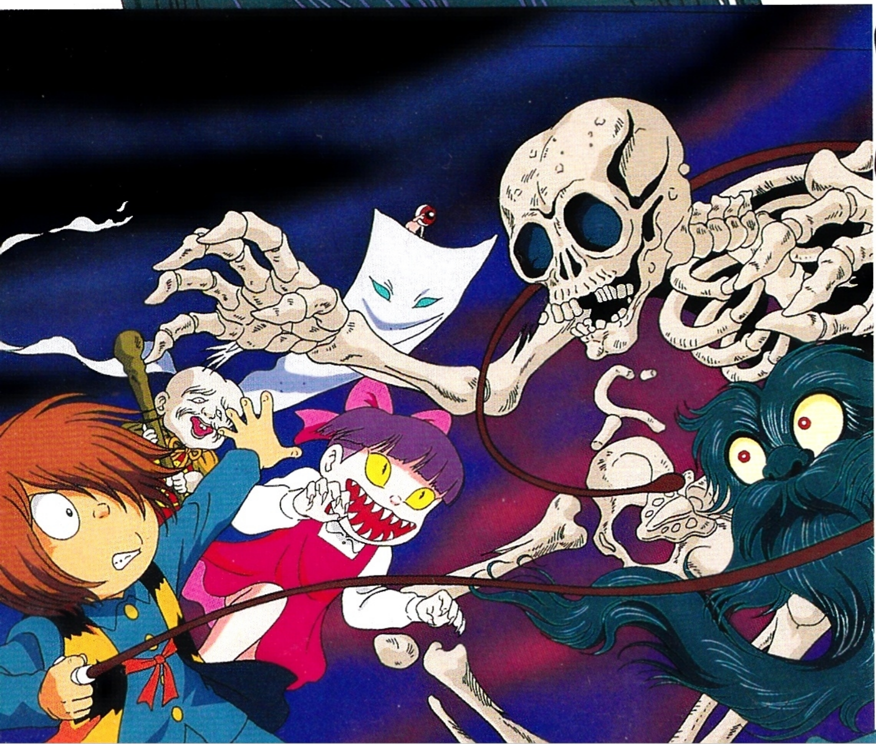
●すんでいる場所　山おくのほこら。
●とくちょう　動物の毛や，鳥の羽があつまってできた，動物たちの化身。たましいのないものに，たましいをあたえてうごかすこともできる。人間が自然をこわすのにいかり，おそってきた。





ぐわごぜ（第七十話）

●すんでいる場所　怪気象の中。
●とくちょう　人間からエネルギーをすいとって妖怪をつくったり、怪気象をあやつり、たつまきやかみなりをおこす。口から石化光線をはき、相手を石にかえる。さいごは、鬼太郎のかみの毛ばりをくらい、きりになってきえた。





▲ときには，夜中に運動会をしたりすることもあるよ。

▲学校もしけんもない，のんびりしたところだ。

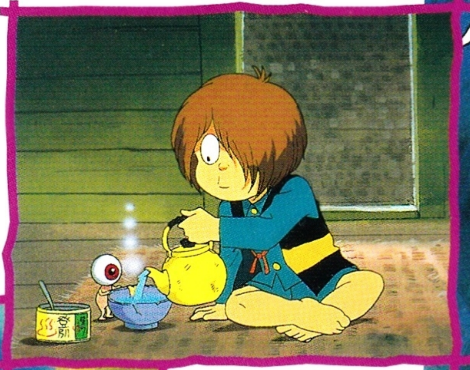
か

ゲゲゲの森

●**とくちょう**　どこか，山おくにあるらしいが，場所は人間にはわからない。鬼太郎たち妖怪ファミリーがすんでいる。この森では，動物や虫たちもみんななかまだ。ふだんは平和な森で，みんなたのしくくらしているぞ。

ゲゲゲハウス

●**とくちょう**　ゲゲゲの森の中にあり，鬼太郎と目玉のおやじ親子がすんでいる家。ふだんは，この家でひるねをしたり，目玉のおやじに勉強をおそわったり，動物たちとあそんだりして，気楽にくらしているよ。



▶鬼太郎が，目玉のおやじのすきなちゃわんぶろをじゅんびしている。



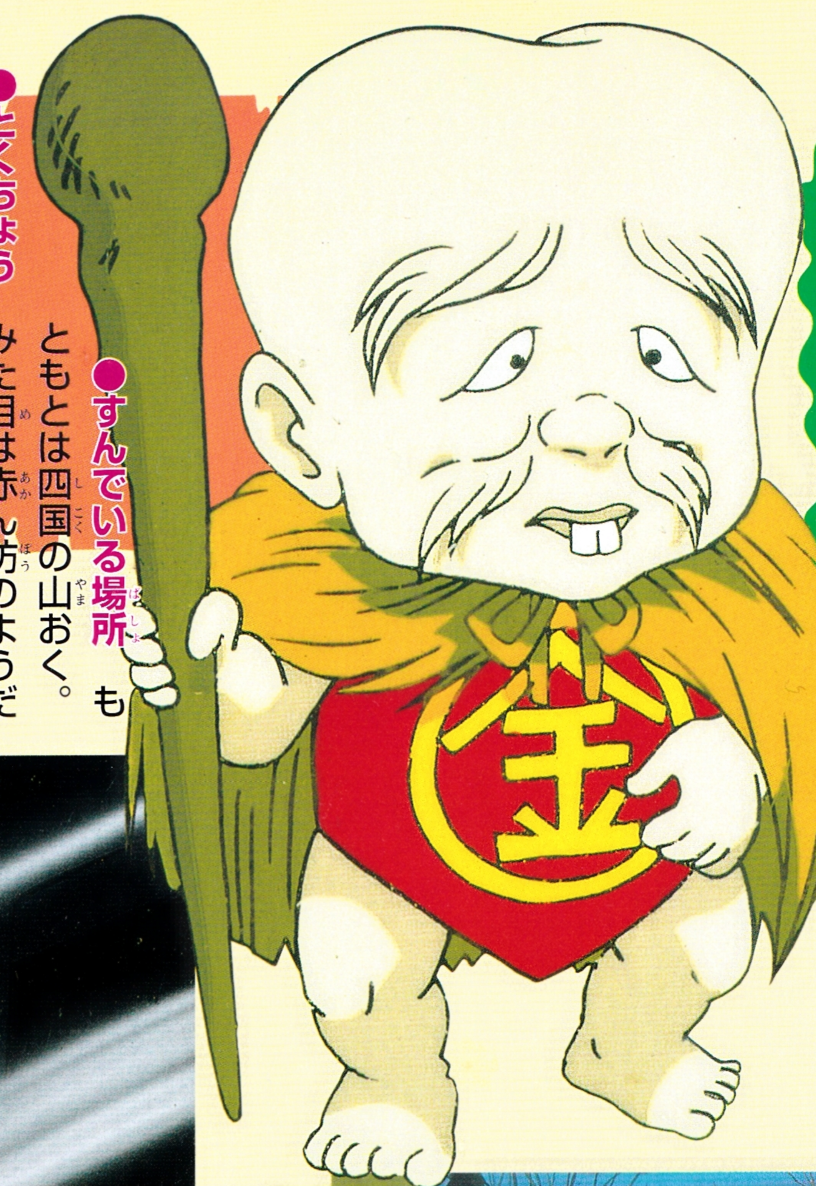
◀ときには，ねずみおとこもあそびにくるが，あいかわらずのお調子もの。

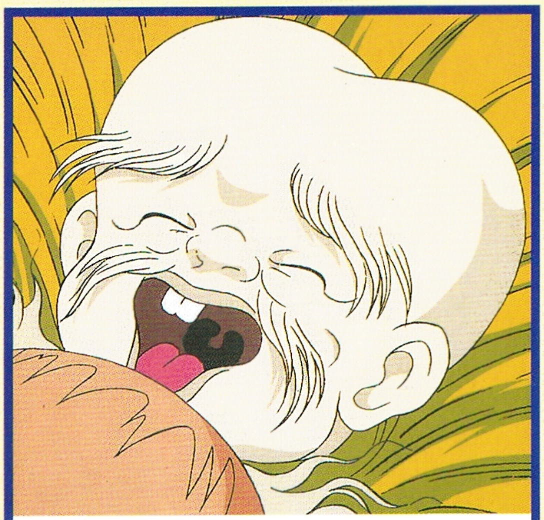


こなきじじい

●すんでいる場所
もともとは四国の山おく。

●とくちょう
みた目は赤ん坊のようだが、何百年も生きているおじいさん。㊎のはらまきとみのと、古いつえがトレードマーク。石化こうげきが必殺わざだ。





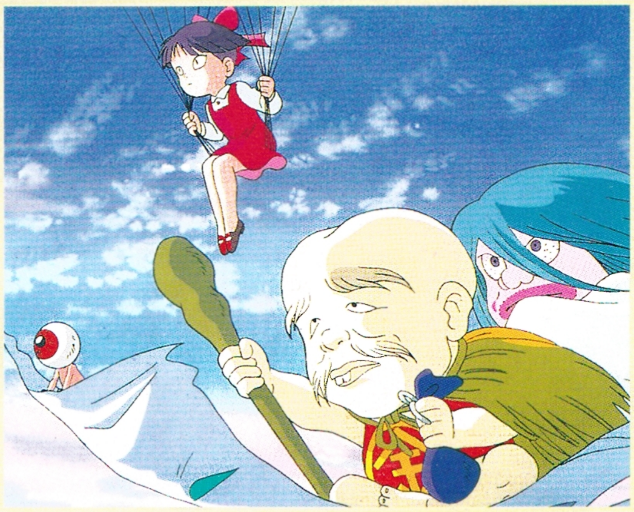
▲赤ちゃんのようにわあわあないて，一声ごとに，だんだん体が重くなっていく。



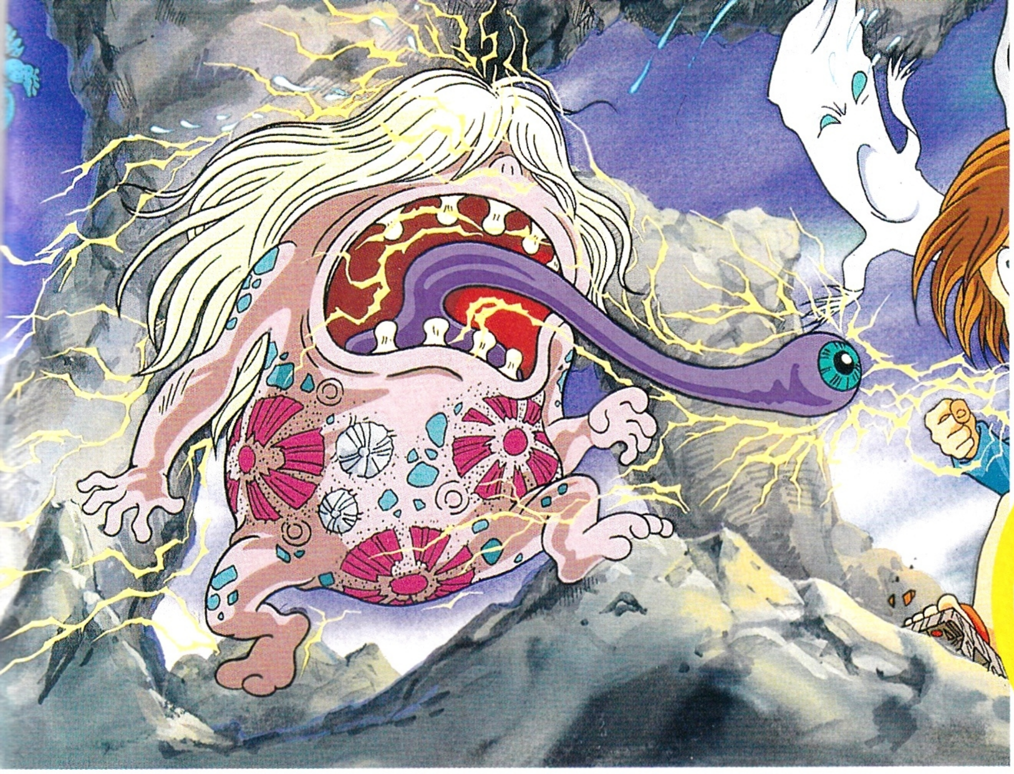
▶石になって、だんだん重くかたくなり、ピーをうごけなくしてしまった。



▶砂かけばばあとは長いつきあいで、いっしょに行動することが多い。



▶ふだんはものしずかだが、事件がおこると、大かつやく。



さざえおに（第十七話）

●すんでいる場所　300年以上も海辺のてんぐ岩にすみついている。

●とくちょう　体の細胞を自由自在に変化させ，形をかえられる。ぺったんこになっても，すぐもとにもどれる。鬼太郎にもばけた。



さざえおにの本体

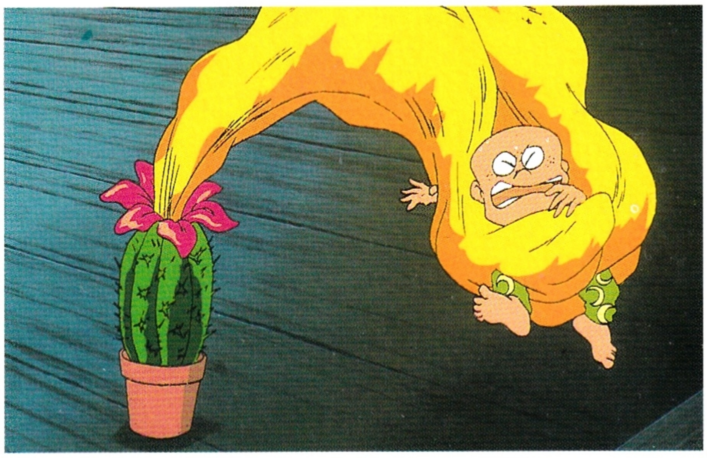
◀さざえおにの本体は、何百年も長生きしたさざえが変化したものだった。

ざしきわらし（第五十五話）

●すんでいる場所　東北地方のふるびた広い家。

●とくちょう　人間につくして家をさかえさせるのがいきがいの、子どもの妖怪。ひっこしてきた家族のためにつくす。





サボテン妖怪（第五十五話）

●すんでいる場所　ふつうの家にいる。

●とくちょう　うしろ神といっしょにいて，あやつられている。二つにわれて，中から大きな舌をだし，人のたましいをくう。

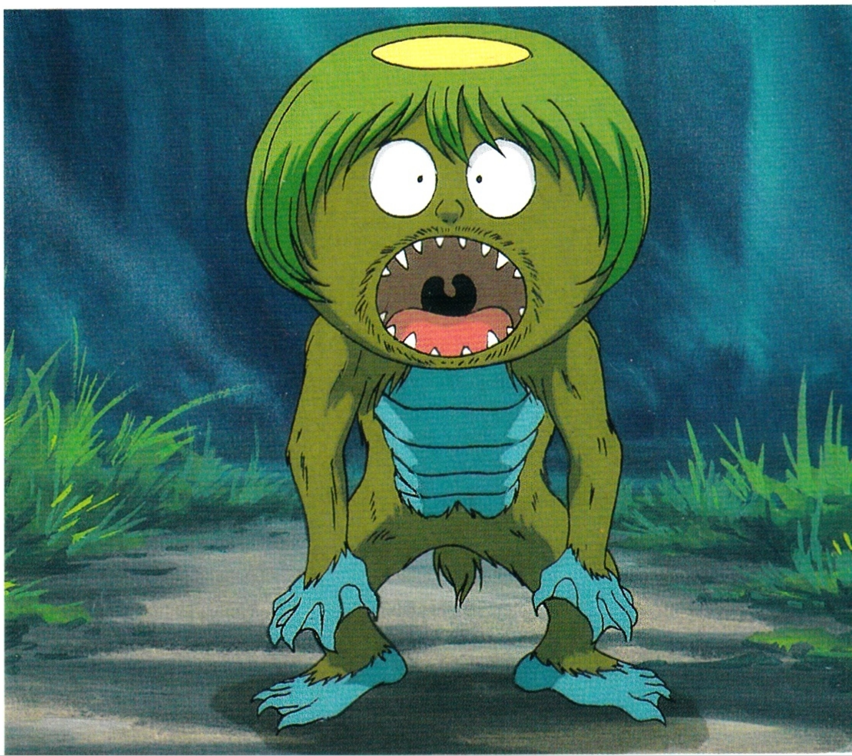
さらこぞう（第三十三話）

●すんでいる場所　山おくで歌をつくってくらしている。

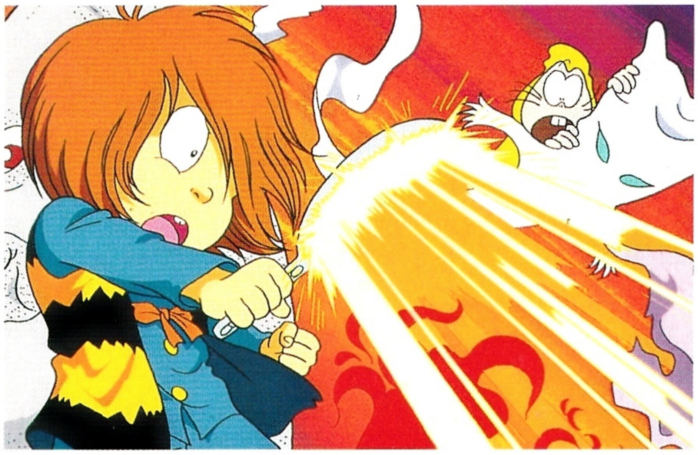
●とくちょう　頭のさらがぶきになる。水ざらをなげたり、目くらましにつかう。

▶鬼太郎は猛毒おしっこをちゃんちゃんこでうけた。





照魔鏡（第七十五話）



●すんでいる場所　てんぐ岳の岩屋にまつられていた。

●とくちょう　雲外鏡の魔力をふうじることができる，ただひとつのかがみ。

シーサー（第六十三話）



●すんでいる場所　沖縄の森。

●とくちょう　平和な森を観光客にうばわれ，いかった。おこると，巨大でおそろしい獅子になる。するどいきばでおそう。

じゃみ（第五十四話）



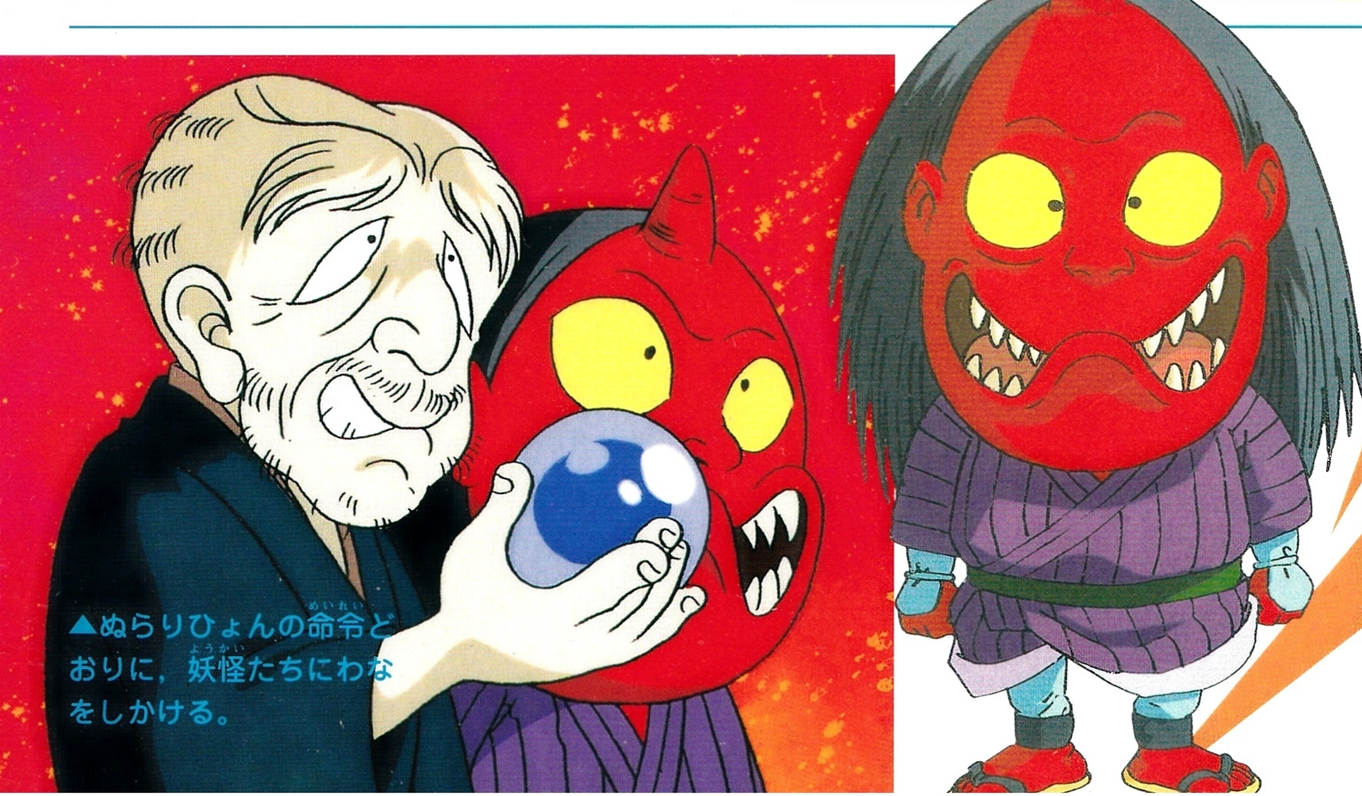
▶悪事をくりかえしたので、ガマ仙人によって、ふたたび石のほこらにふういんされた。



●すんでいる場所　森のおくの岩あな。

●とくちょう　ガマガエルにされて，ガマ仙人に何百年もふうじこめられていた。鬼太郎をかわりにガマにして，ふっかつした。

朱の盆（第六十話ほか）

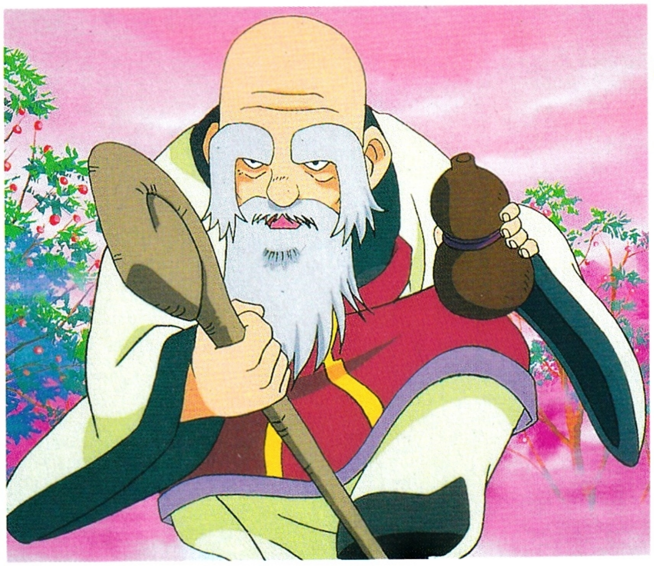


▲ぬらりひょんの命令どおりに，妖怪たちにわなをしかける。

●すんでいる場所　ぬらりひょんの家のちかくにすむ。

●とくちょう　赤いおぼんのような大きな頭をもつ。ぬらりひょんの忠実な子分。悪さをするが、いつもどじって失敗ばかり。

徐福（第十四話）



●すんでいる場所　蓬来島。
●とくちょう　2000年前の中国の方士。不老不死の薬をもとめてたびだち，それ以来，蓬来島でくらしている。

しろうねり（第十六話）



●すんでいる場所　ねずみおとこのアパート。
●とくちょう　よごれたぞうきんが、妖気で変化してできた妖怪。はく息や、しっぽからまきちらすねん液で、一面かびだらけにする。都会のよごれをすいこんで巨大化して、あばれた。

水虎（第五十六話）

●すんでいる場所　ダム湖のどうくつと大雪谷。
●とくちょう　水変化妖怪。息を大きくすいこみ，たつまきをくりだす水たつまきや，うでをむちにする水むちなど，水をつかったわざでおそってくる。雪や氷をとかして，こうずいやつなみをおこす。



▲おすとめすは，べつべつのつぼにふういんされていたが，合体して強力な完全体になった。

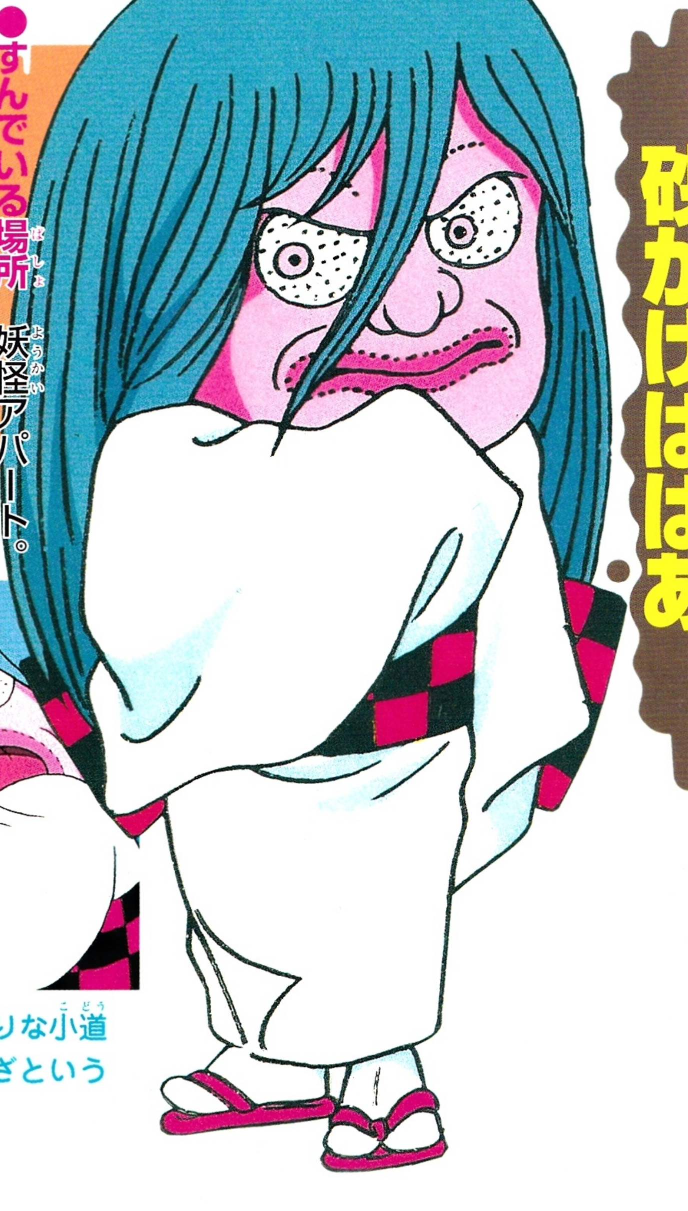


⬆水虎の本体
▲水虎は水でできているので，本体のたましいをこおらせると，身うごきできなくなった。





砂かけばばあ



●すんでいる場所　妖怪アパート。

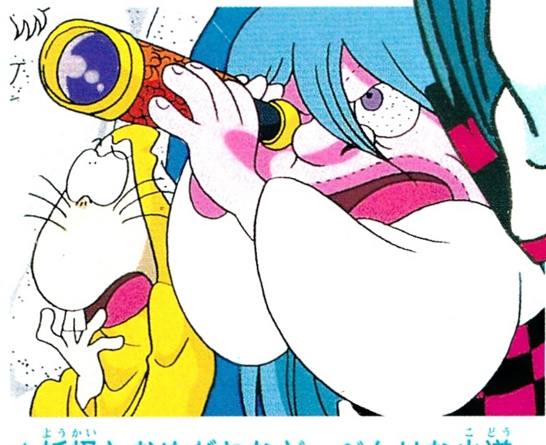
●とくちょう　目玉のおやじのつぎに、ものしりのおばあさん。砂をあびせて目つぶしをする〝砂かけマシンガン〟が必殺わざ。妖怪をふうじるふういんのつぼなど、いろいろな小道具をもっている。



▲働きものの砂かけばばあは，ファミリーのために，おいしい料理をつくってくれることもある。



▲鬼太郎のおかあさんがわりに，遊びの相手などもしてくれる。こなきじじいとは，とくに気があうようだ。



▲妖怪とおめがねなど，べんりな小道具をたくさんもっていて，いざというとき，とても役にたつよ。

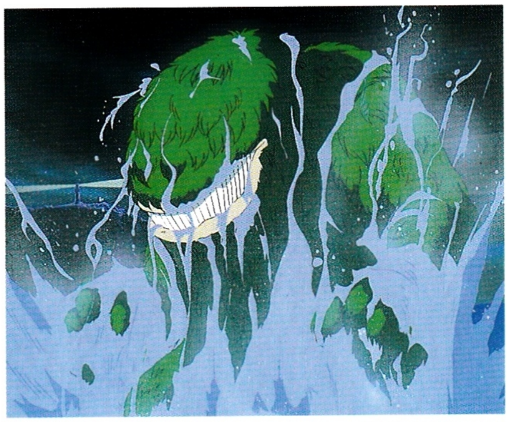
大海獣（一九九六年夏劇場版）



◀南方妖怪が、神としてあがめている、白骨化したゼオクロノドン。



▲アカマタに妖気をうばわれ，とらえられてしまう。



▲"命の水"をのまされ，大海獣に変身した鬼太郎が，海からあらわれた。

●すんでいる場所　南太平洋のバルル島。

●とくちょう　アカマタに聖なる水をのまされた鬼太郎が，巨大なゼオクロノドンという大むかしの海獣に変身した。くじらがたっているような巨大妖怪。口から毛をはいて，あばれまくった。井戸仙人のおかげで，もとのすがたにもどれた。

ダイダラボッチ（第二十九話）



●すんでいる場所　大鱈神社の巨大なかぎにふういんされていた。

●とくちょう　あらそいをしずめる伝説の巨人。あらそっている人をくってしまう。







▲口からはくたんたん液は，矢の形になり，こうげきしてくるぞ。

たんたん坊（第六十六話／第六十七話）

●すんでいる場所　夜しかあらわれない妖怪城。

●とくちょう　巨大な顔をもつ、妖怪城のボス。じっとしていると草のはえた小山にしかみえない。口からはくねん液は輪のようになって、体じゅうにはりつき、自由をうばう。子どもたちをさらって、いけにえ妖怪につくりかえ、夜だけの世界をきずき、世界を支配しようとした。



長江の水虎（第六十四話）

●すんでいる場所　中国。

●とくちょう　ぬらりひょんにだまされて，妖怪ラリーにさんかするが，とちゅうでだつらくした。

チンポ（一九九六年夏劇場版）

●すんでいる場所　南太平洋のバルル島。

●とくちょう　アカマタのけらいで、おちんちんを最大のぶきにしている南方妖怪。猛スピードでとんできて、三本のおちんちんをふんしゃさせ、火炎放射をおみまいする。



▶こしまきをひらき、おちんちんから機銃を連射するぞ。





つるべ火（第十一話／第四十話ほか）

●すんでいる場所　ゲゲゲの森や，あちこち。
●とくちょう　運動会の照明係や，夜道の案内役，空港のかっそう路の照明など，暗やみを明るくしてほしいときにあらわれ，妖怪たちの役にたつ。



土ころび（第七十三話）

●すんでいる場所　山のほこら。
●とくちょう　山にすみつき人里をまもる，人間好きの妖怪。ぞうの鼻のような口で，電気をたべる。ころがりながら巨大化する。

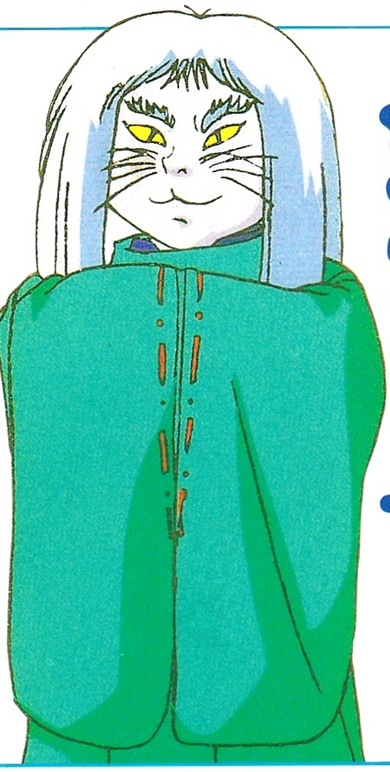
てんぐ（第四十六話）

●すんでいる場所　きり深い霊山など。
●とくちょう　いろんなところにあらわれるが、本来は悪い妖怪ではない。妖怪さいばんでは、鬼太郎をとらえ、法廷にひきだした。

●おなじてんぐのなかま



▲カラスてんぐは，16ページをみよう。
◀雨ふりてんぐは，6ページをみよう。



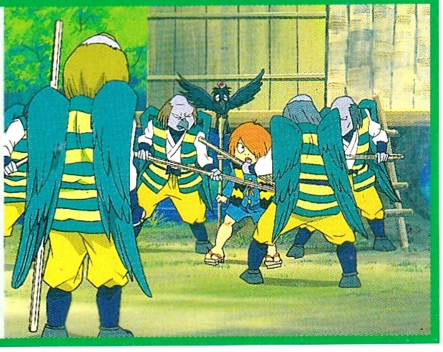
天狐（第七十二話）

●すんでいる場所　天狐のどうくつの地底。
●とくちょう　日本全国のきつねのなかで、もっともえらいきつね。日本のきつねたちが悪さをしないようにみはっている。

●てんぐポリス

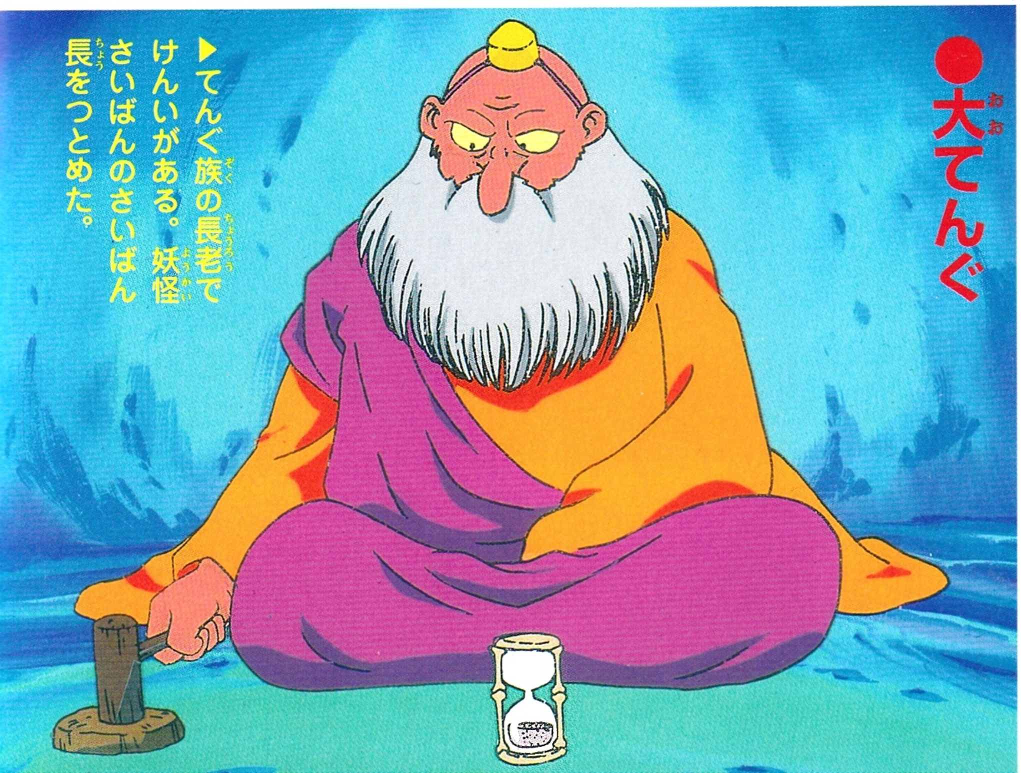


▶てんぐポリスは、鬼太郎にへんそうした砂かけばばあをとらえた。

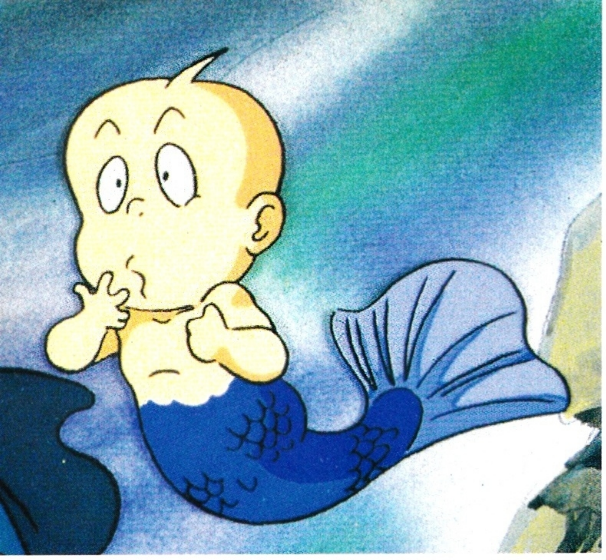


▶無実のつみで、鬼太郎はつかまり、妖怪さいばんにかけられた。

●大てんぐ

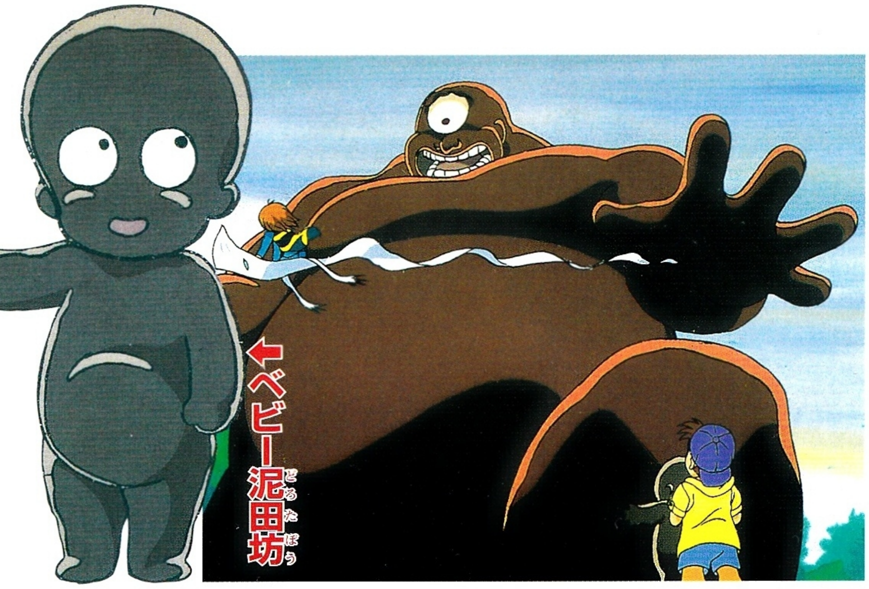


▶てんぐ族の長老でけんいがある。妖怪さいばんのさいばん長をつとめた。



人魚の子ども（第十七話）

●**すんでいる場所**　てんぐ岩近く。
●**とくちょう**　さざえおににとらえられ，鬼太郎をおびきよせるためにつかわれた。



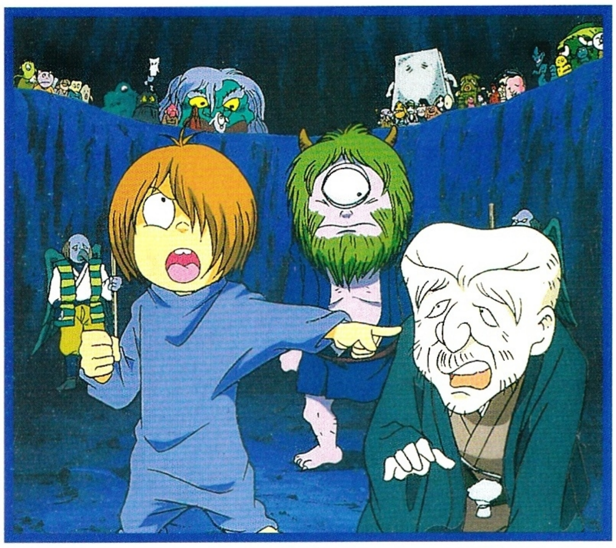
泥田坊（第二十二話）

●**すんでいる場所**　田んぼ。
●**とくちょう**　もともとは，田をまもるよい妖怪。どろがどんどんあつまって，巨大泥田坊になる。

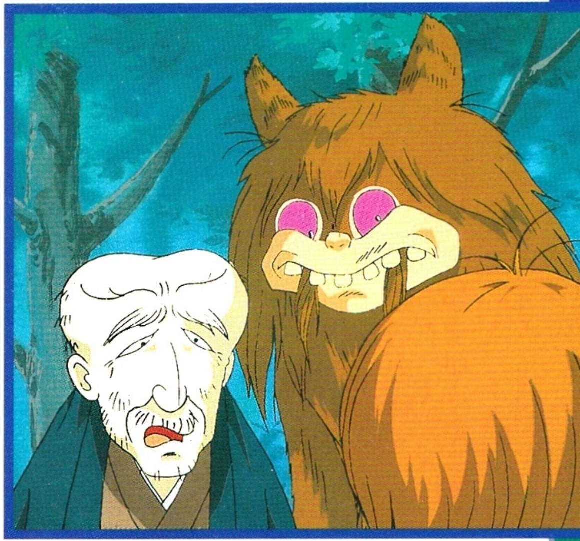
ぬらりひょん（第四十六話／第五十四話／第六十話ほか）



●**すんでいる場所**　どこにあるかわからない、ひみつのやかた。
●**とくちょう**　妖怪の世界の帝王になるため、じゃまな鬼太郎をけそうと、あらゆるひきょうな手段をつかう。かげで手下の妖怪をあやつり、つぎからつぎへと鬼太郎をおそうので、さすがの鬼太郎もたびたびピンチにおちいった。必殺ぶきは、剣になる、しこみづえだ。

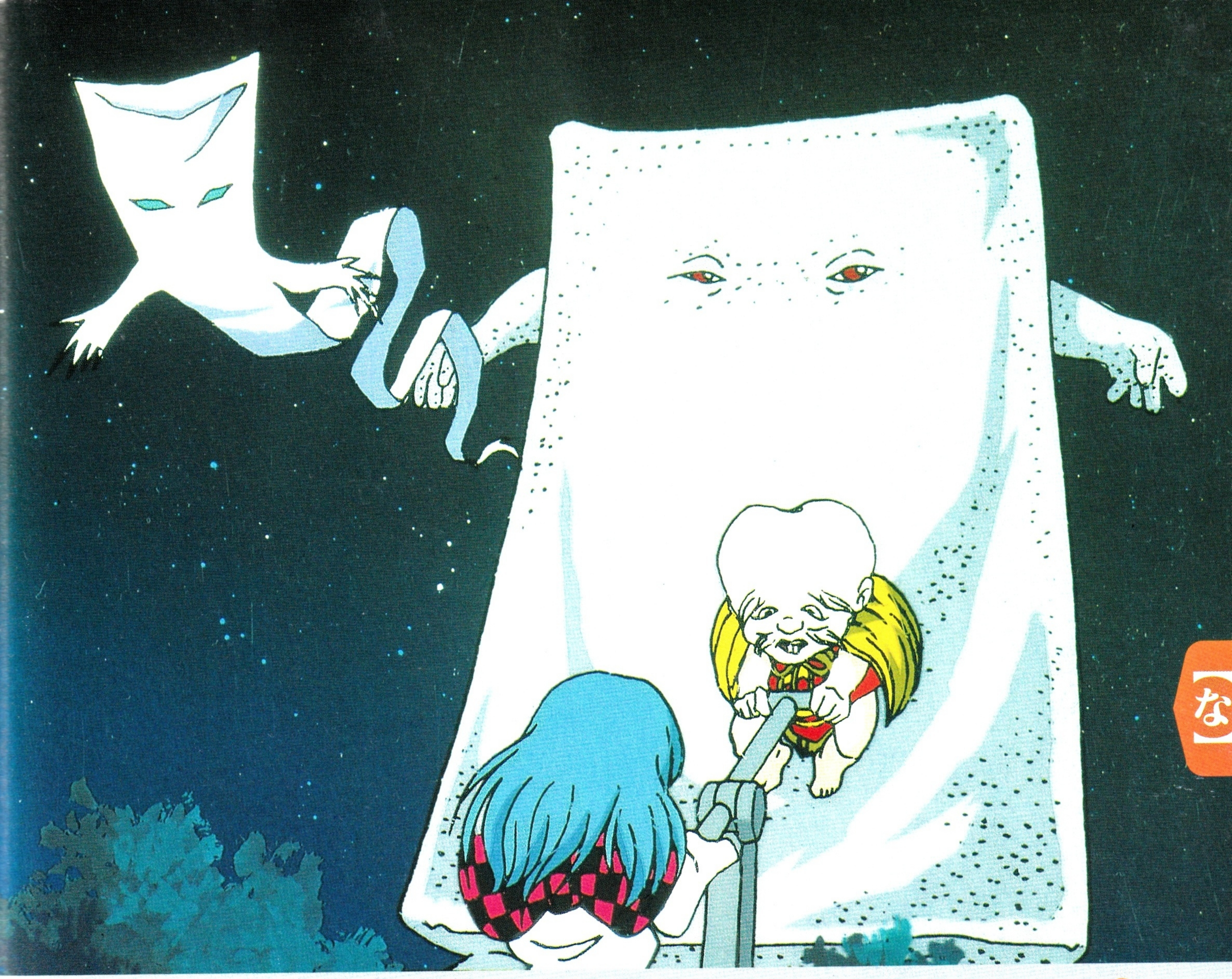


▲妖怪さいばんで，弁護士なのに，無実の鬼太郎にぬれぎぬをきせ，処刑しようとした。



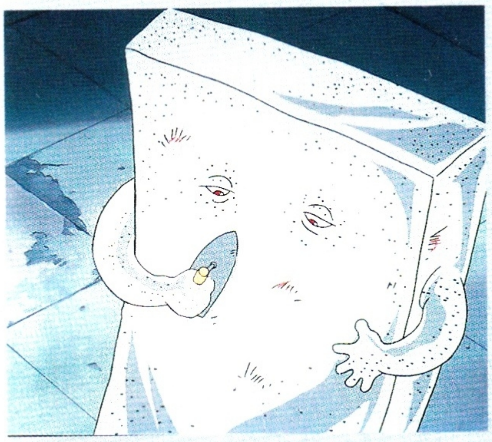
▲ふういんされていたじゃみをふっかつさせ，鬼太郎に毒ガスをすわせて，悪事をはたらかせた。



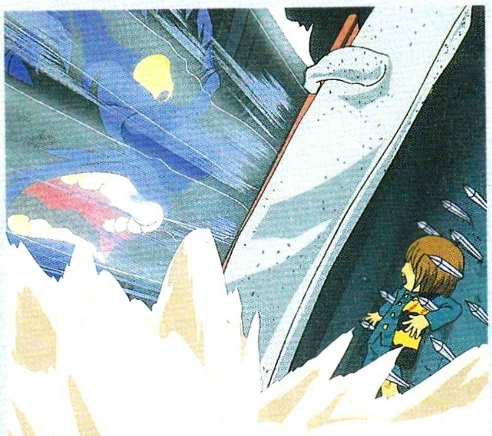


ぬりかべ

●すんでいる場所 もともとは福岡の山中。
●とくちょう 自由に巨大化して，妖怪をはねのけたり，たたかったりするかべの妖怪。どんなところにも，とつぜんあらわれて，てきのこうげきをふせぐ。体の中に，なんでもぬりこめることができる。



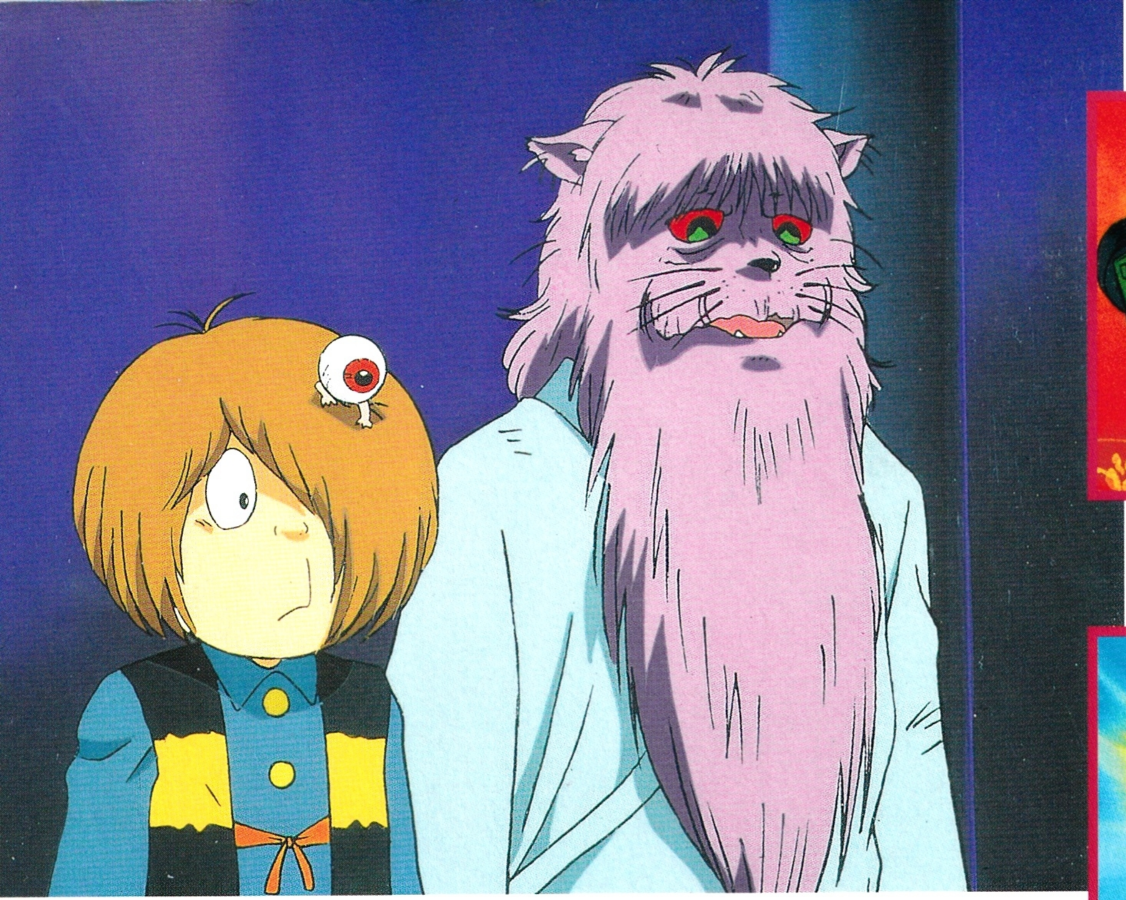
▲きず口は，左官道具でぬりなおして，自分でもとどおりにしゅうりするんだ。



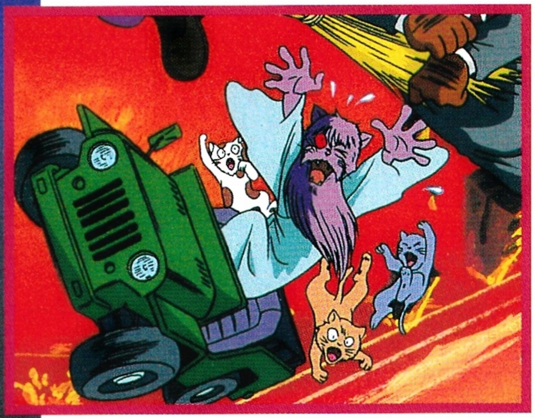
▲輪入道の炎も，大きなかべでさえぎって，鬼太郎の身をまもってくれたぞ。



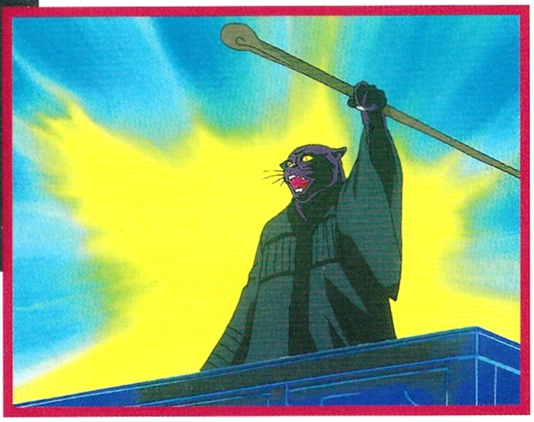
▲いきなり地面からあらわれ，巨大化した見上げ入道の前に，たちはだかった。



ねこ仙人（第十二話／第六十四話）



▲妖怪ラリーにさんかし，とちゅうで，だつらくした。

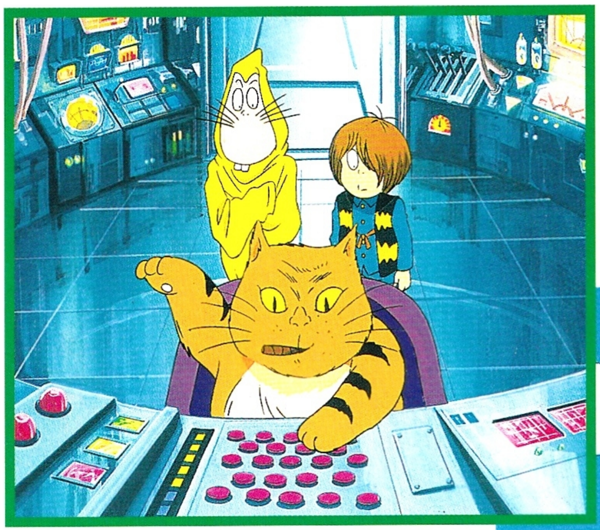


▲大黒ねこに変身して，ねこさいばん長になり，人間をさばいた。

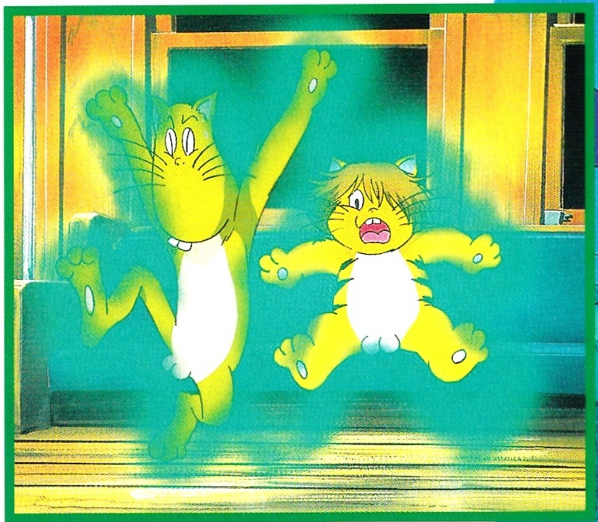
●すんでいる場所　ゴーストタウンにつくった，ねこの町。
●とくちょう　ねこに変身し，体じゅうを自由自在にのばすことができる，ねこ族の妖怪。すてられたねこを，仙術であやつった。さいごは，すてねこをつれ，山へかえっていった。

ねこまた（第二十八話）

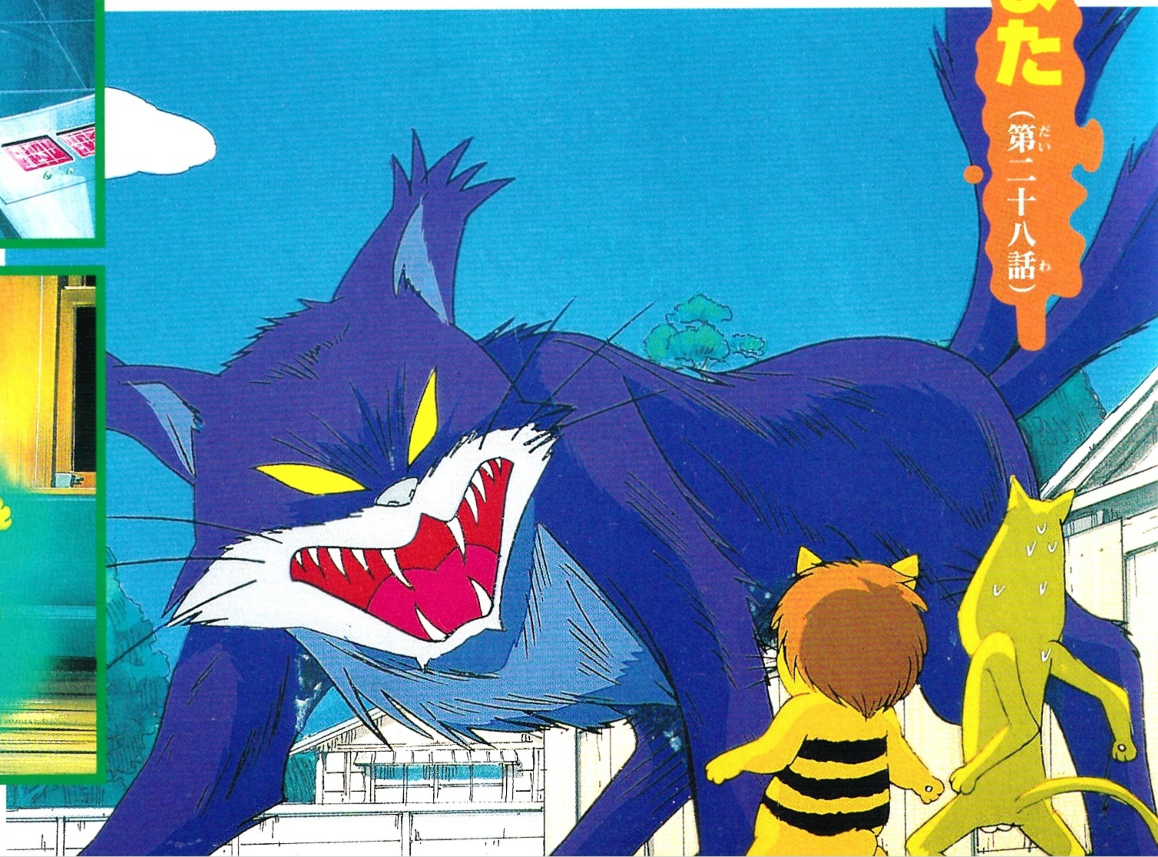
●すんでいる場所　人間が電車にのってむかうと，ねこになってしまう町，ねこ町。
●とくちょう　しっぽが二つにわかれている，神通力をもった巨大なねこの妖怪。つかれた人間にとって，オアシスのような町，“ねこ町”をしきっている。



▶地下鉄からのりついでいける、ねこ町行きのきっぷをうる，デブねこ。

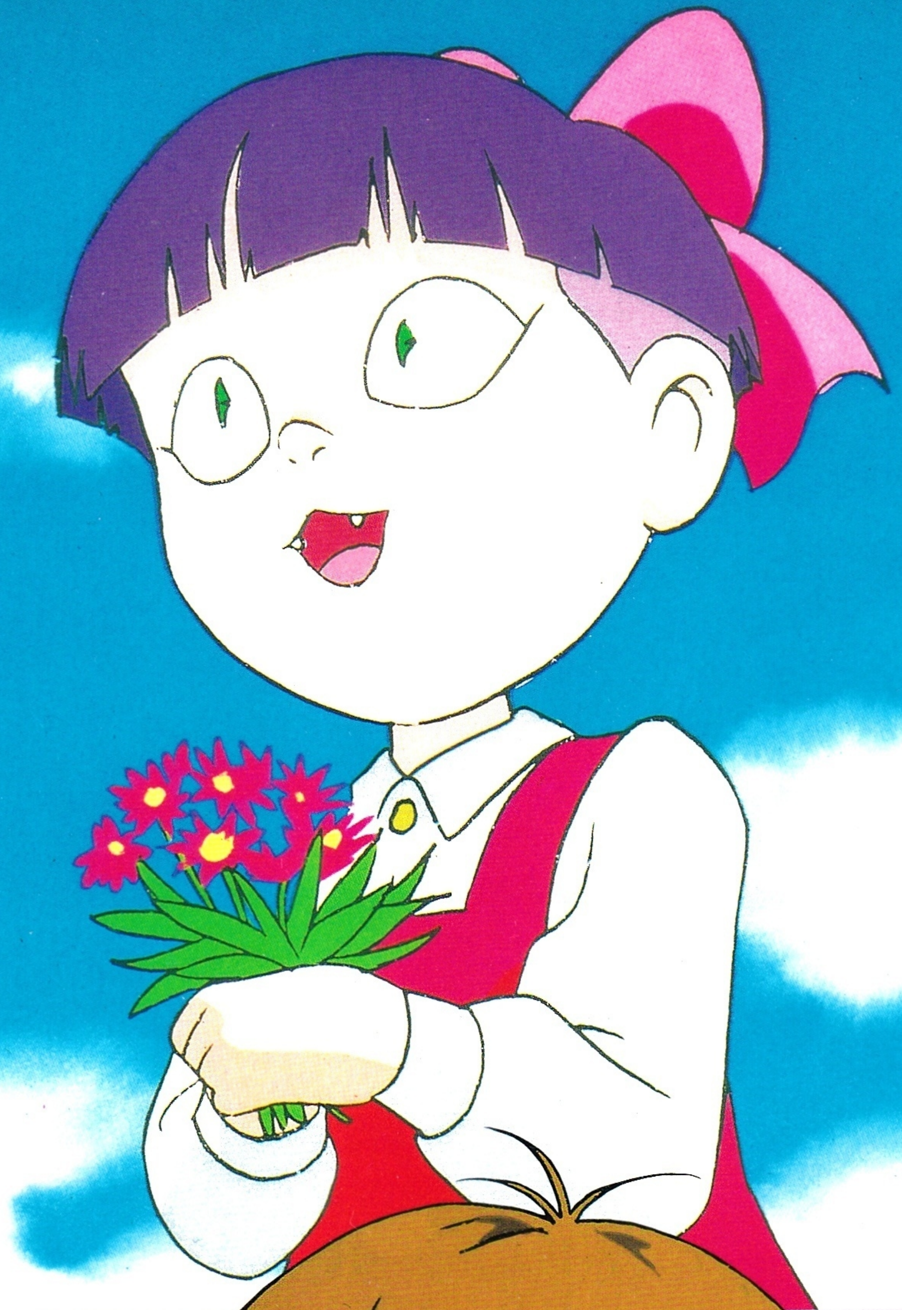


▶ねこ町線の電車にのると、ねこのすがたになってしまう。



ねこむすめ

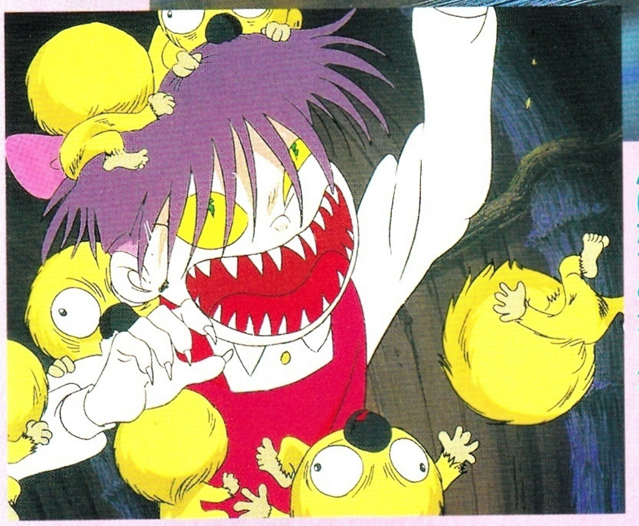
【な】



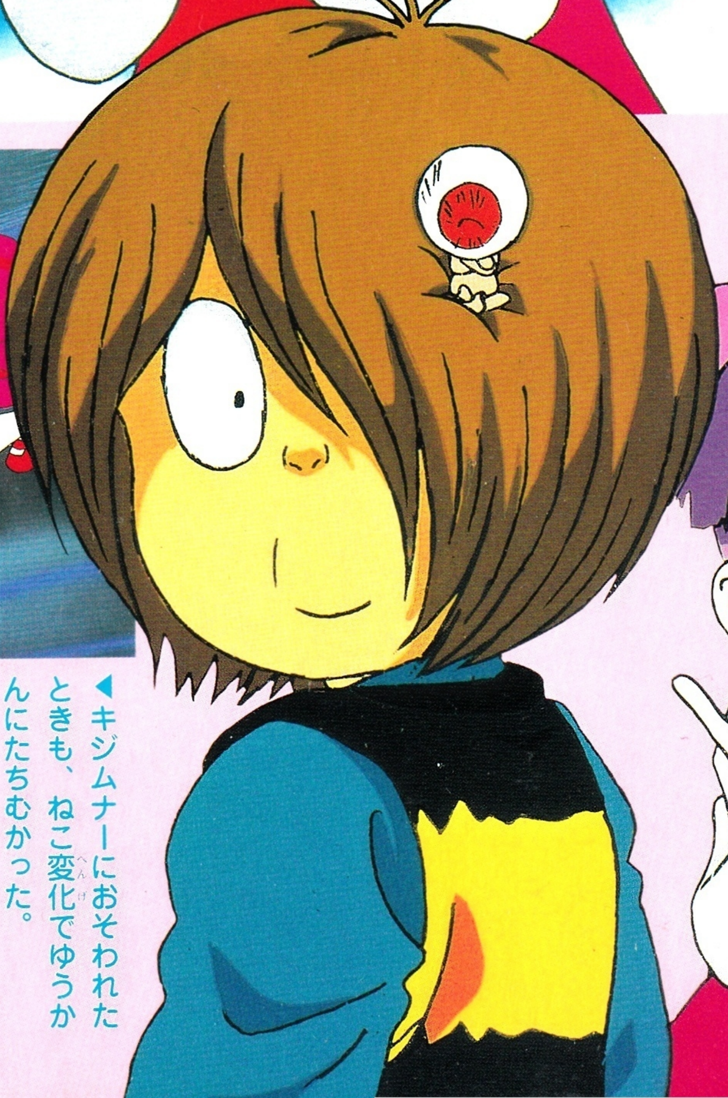
●すんでいる場所　町中の神社の近く。

●とくちょう　鬼太郎のおさななじみで、だいのなかよしのねこ族妖怪。鬼太郎がピンチになるとかけつける、たのもしい友だちだ。ふだんはかわいい女の子だが、おこるとねこの本性があらわれる。ねずみおとこにはつめたい。

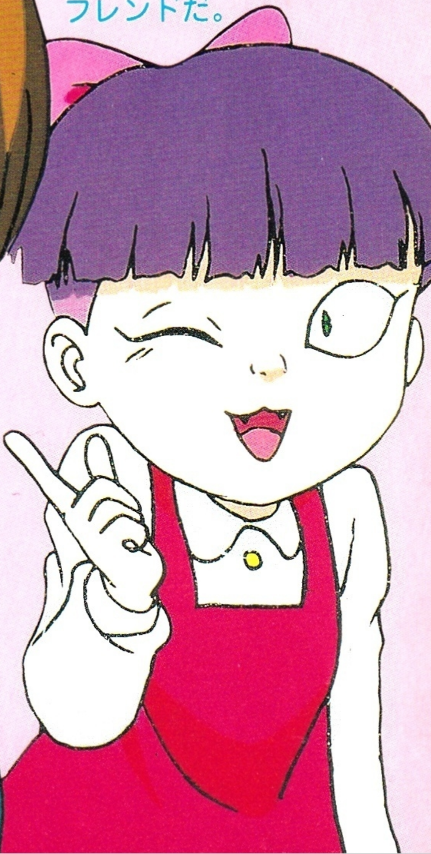




▶おこると、目が黄色くなり、するどいつめときばをだし、相手にとびかかる。



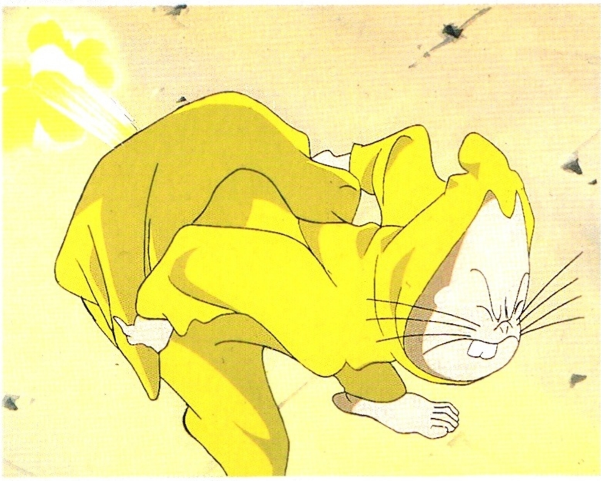
◀キジムナーにおそわれたときも、ねこ変化でゆうかんにたちむかった。



▼鬼太郎とは，ぴったり息のあった，ガールフレンドだ。

ねずみおとこ

●すんでいる場所　住所不定、ときにはしろうねりなどといっしょに、ふけつなアパートずまい。
●とくちょう　人間と妖怪、半分ずつの半妖怪。〝ビビビのねずみおとこ〟を名のり、いつも悪さをしては、ファミリーにめいわくをかけている。

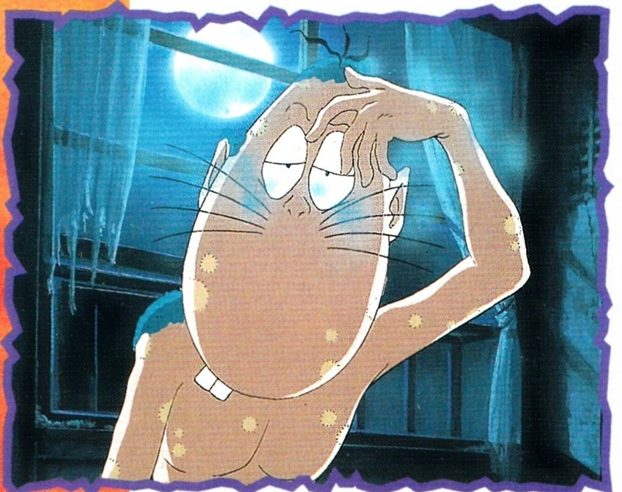


▲たいていの妖怪がにげだすほどのくさいおならと息は、意外なぶきになることも。

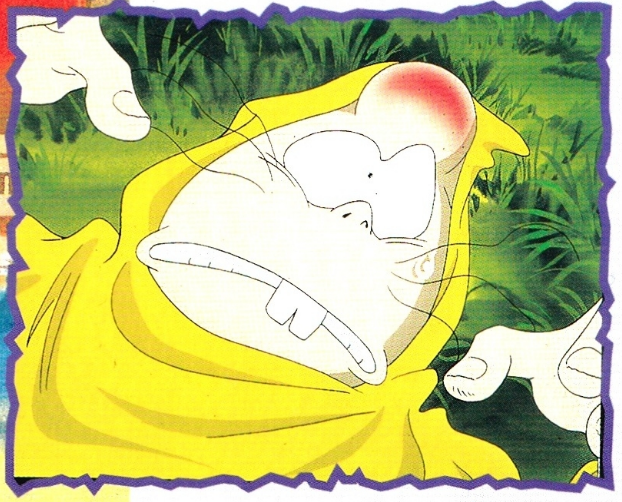


▲せこく，金もうけすることばかりかんがえている。ずるをしても反省の色がない。



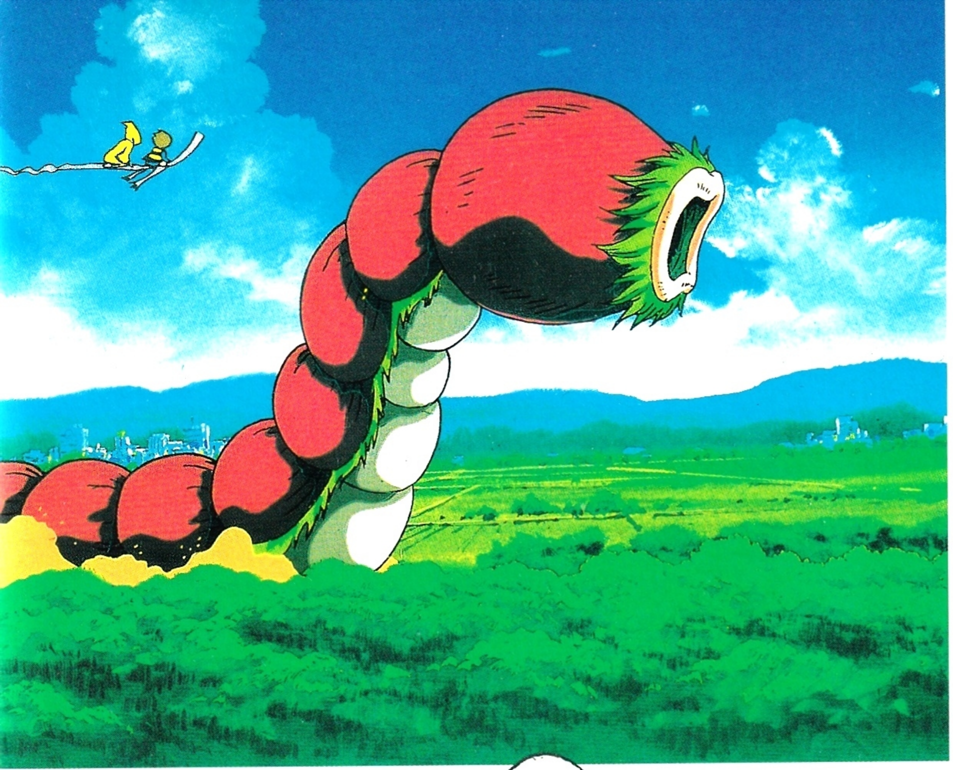


▲何百年もふろにはいったことがなく，体もきものも超ふけつ。そばによると，超くさい。



▲いつもさいごには，悪だくみがばれて，ひどい目にあうが，ぜんぜんこりないやつだ。

のづち（第二十七話）



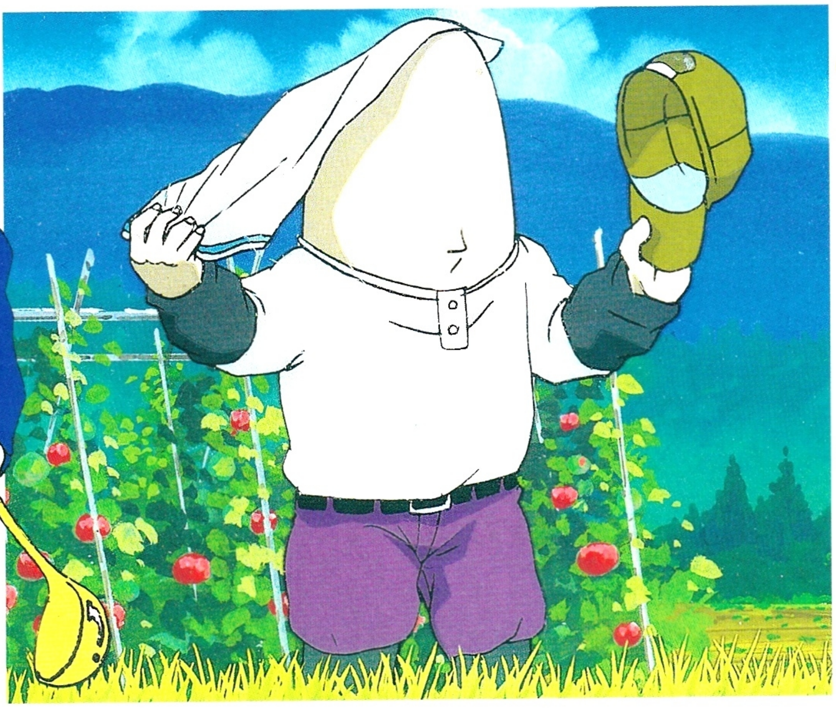
●すんでいる場所　古代の神様がふういんしていた，のづち塚。
●とくちょう　巨大な口でなんでもすいこむ。鬼太郎もすいこまれたが，たつまきをおこし，だっしゅつした。



▲大きな口で、すいこんだものは、別の世界にきえる。

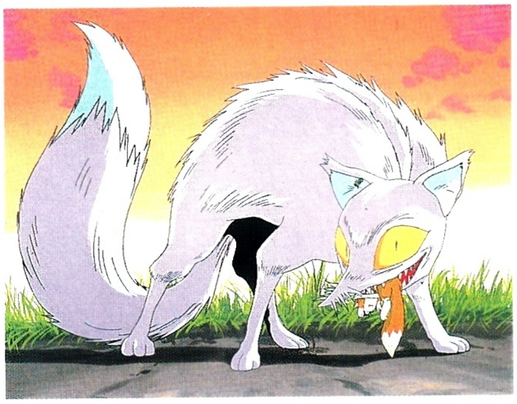
のっぺらぼう（第七話／第六十四話ほか）





●すんでいる場所　町のそば。
●とくちょう　大食いで人間の顔が大好物。のっぺらぼうに顔をたべられると、顔がなくなってしまう。料理がじょうずで、料理道具をぶきにしてたたかう。

白山坊（第三十九話）



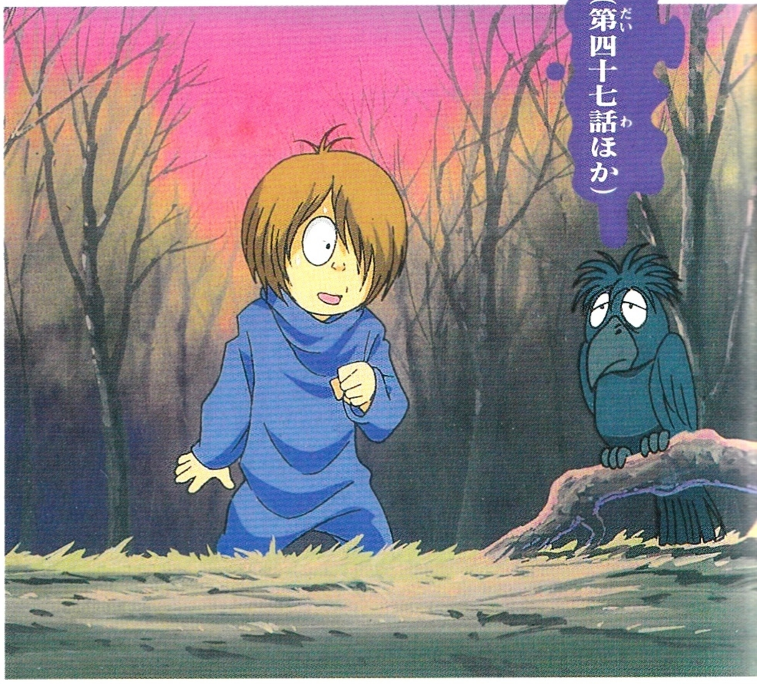
▶マントをぬぎすてた、白山坊の正体。

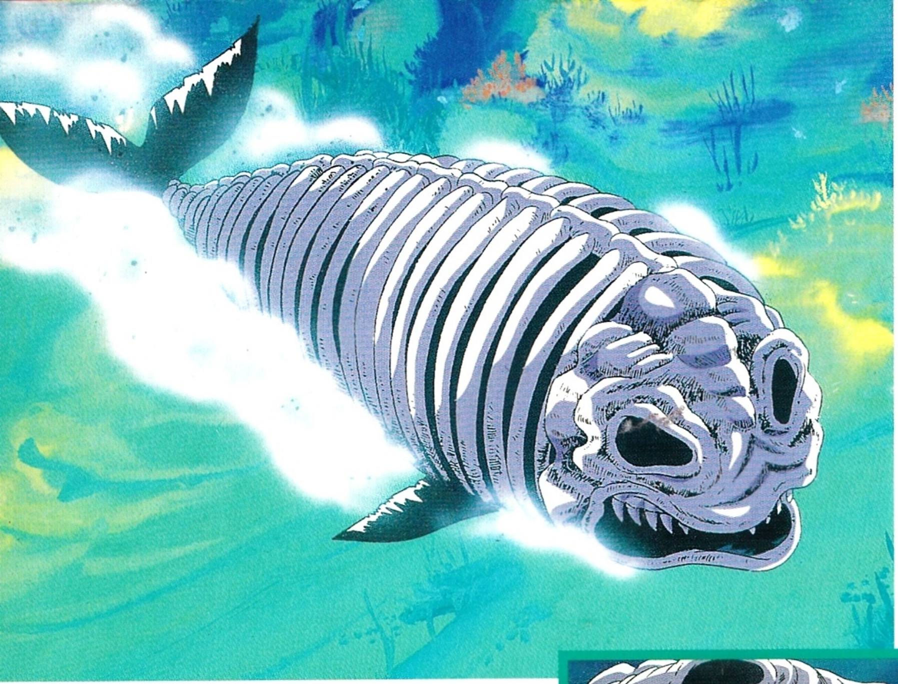


●すんでいる場所　山の中。
●とくちょう　神通力をつかう古ぎつね。不幸な人につきをさずけてやる見返りに、人間のむすめをとってくおうとした。

バケガラス（第四十七話ほか）

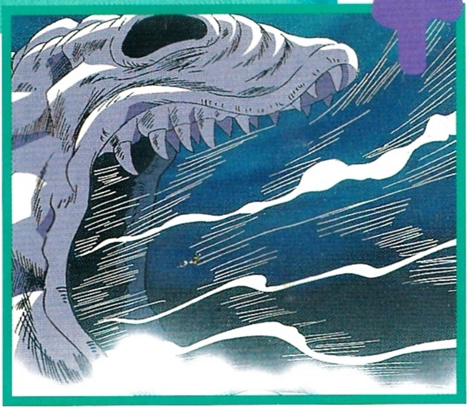
●すんでいる場所　ゲゲの森をはじめ、あちこちにいる。
●とくちょう　目玉のおやじや鬼太郎のところへ、情報をしらせにとんでくる。また、道案内をしたり、いろいろな手伝いもしてくれる、かしこいからすだ。



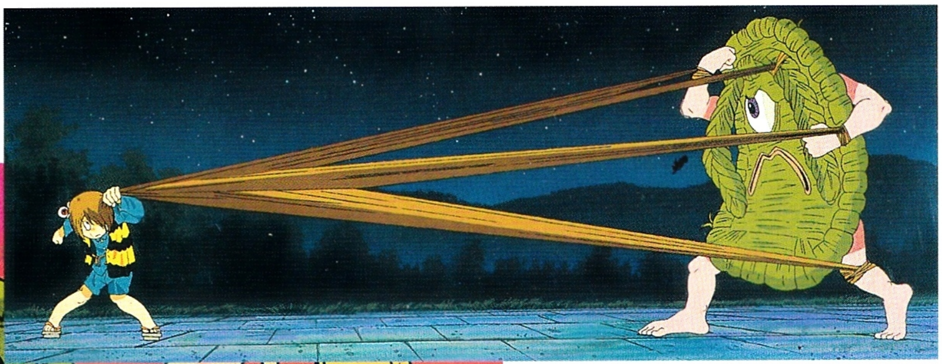


ばけくじら（第十八話）

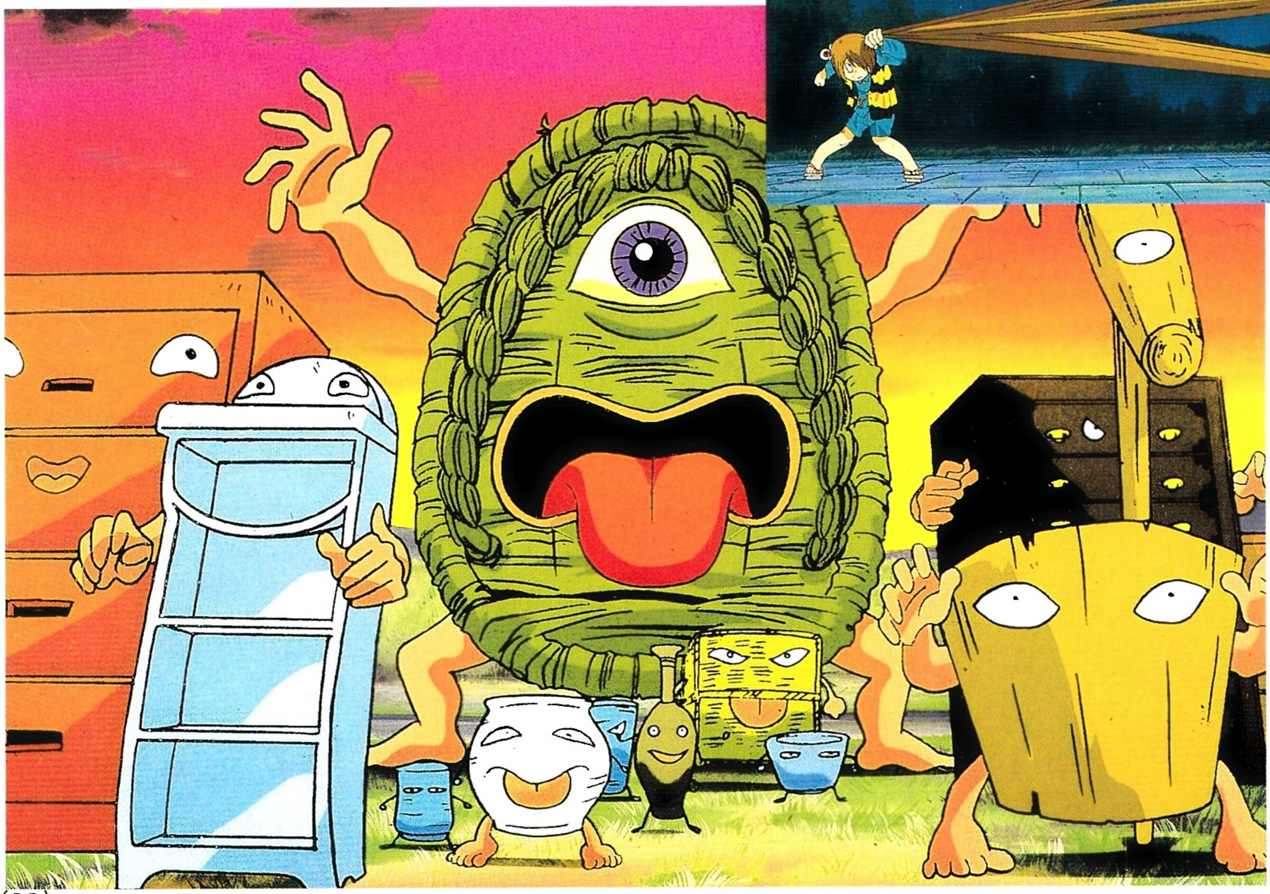
●すんでいる場所　南の海の底のくじらの墓場。
●とくちょう　全身がほねだらけの、くじらの霊をまもる巨大妖怪。死期のちかづいたくじらがおとずれる、墓場の守り神。海底の墓場に、人間がごみをすてたので、おそってきた。



▲ばけくじらは，大口をあけて鬼太郎をのみこんでしまった。



▶鬼太郎は，オカリナむちで，ばけぞうりをしばりあげた。が，シンヤのおじいさんが，このぞうりをはかないと天国にいけないことをしり，たすけてやった。



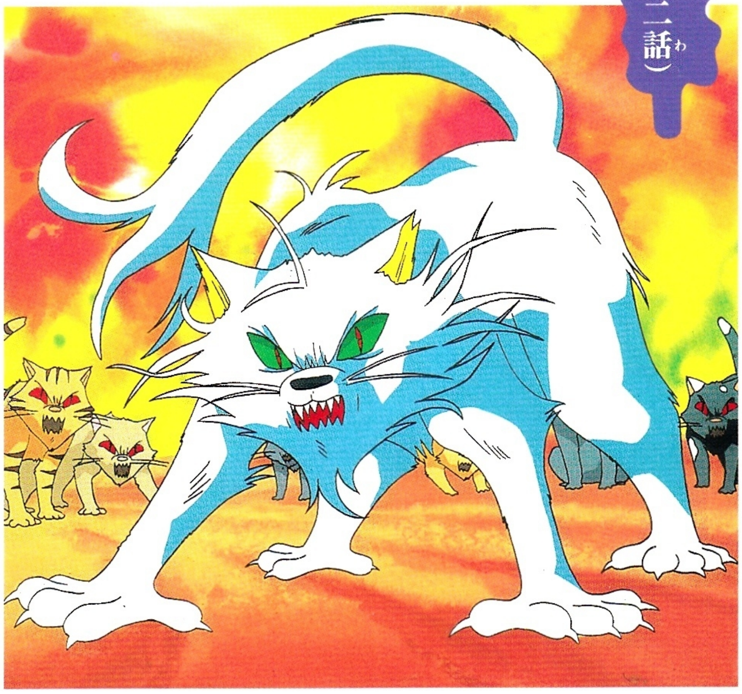
ばけぞうり（第四十三話）

●すんでいる場所　いなかのくらの中。
●とくちょう　古道具をだいじにしない人間をこらしめるためにあらわれた。人間にそまつにされた仕返しに、人間の精気をうばい、古道具の中にふきこんだ。

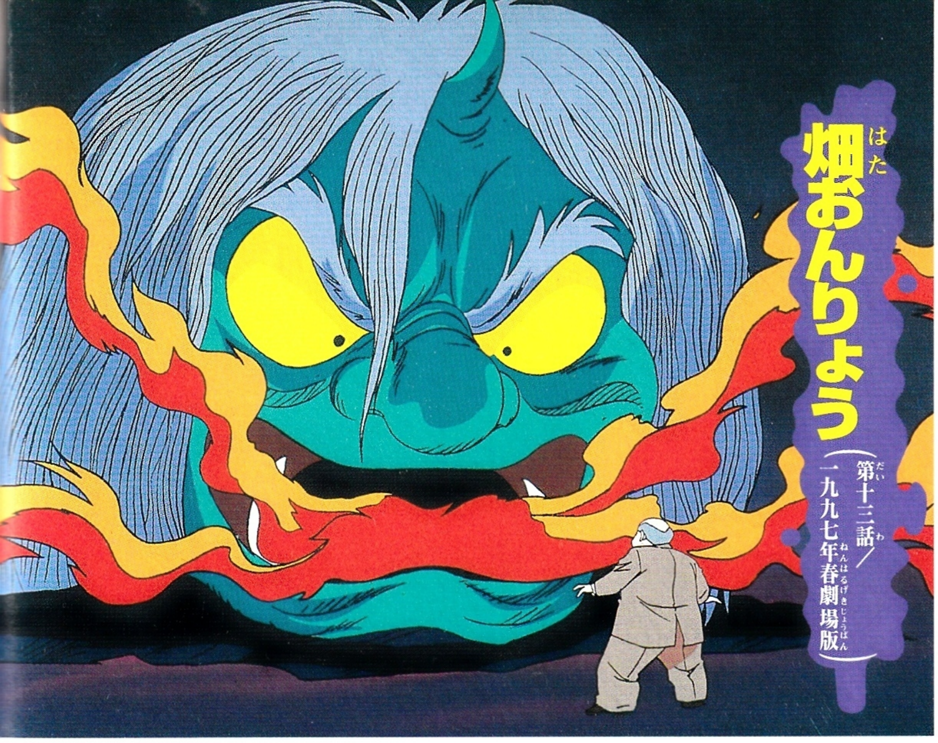
ばけねこ（第六十二話）

●すんでいる場所　ねこたちの霊界。

●とくちょう　車でねこをひいたものは、ばけねこによって、ねこの霊界につれていかれる。ばけねこのあやつる、まぼろしの巨大な車にひかれると、ねこうち症になる。口からとっぷうをだし、するどいつめでおそってくるが、またたび香には、弱い。



畑おんりょう（第十三話／一九九七年春劇場版）





◀なにをみても無表情の子どもを、わらわせようとした。

●すんでいる場所　妖怪やしき。

●とくちょう　ねずみおとこがはじめた妖怪やしきの助っ人にあらわれた、巨大な顔だけの妖怪。口から十本の舌を炎のようにのばし、相手にふきかけたり、なめたりする。顔はこわいが、あんがい、ひょうきん者だ。

半魚人（第六十話）

●すんでいる場所　海底のどうくつ。

●とくちょう　ぬらりひょんにだまされ、鬼太郎を巨大いかにくわせ、妖力を妖怪しんじゅにふうじこめた。が、ぬらりひょんにうらぎられて、きられてしまった。



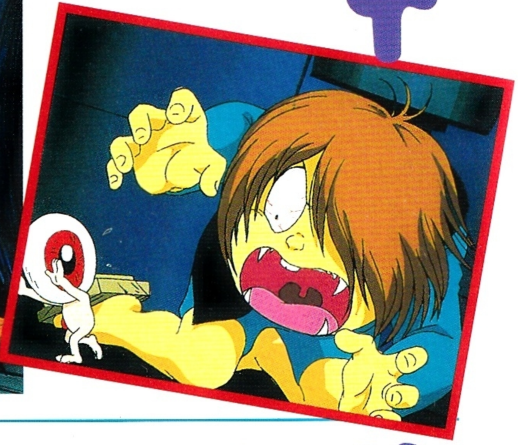
▲鬼太郎をわなにかけ，毒をのませて，海底のアジトまでつれていった。



ピー（第九話）

●すんでいる場所　外国。
●とくちょう　さかだちをしたイグアナのようなすがたの吸血妖怪。鬼太郎にも毒をのませ、日本じゅうを吸血鬼だらけにしようとした。





ひでり神（第七十六話）



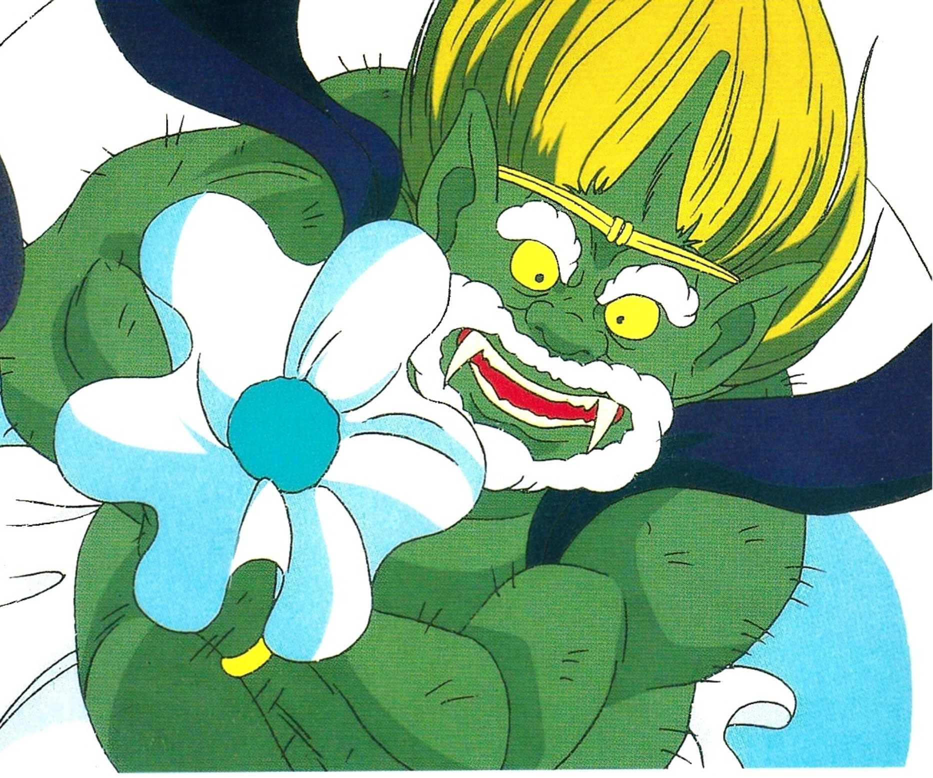
●すんでいる場所　山の上のほこら。
●とくちょう　酒ずきの妖怪。おいしい酒がのめなくて，あばれた。口から熱気をふきだす。ねっするほど強くなり，炎の大怪物になる。

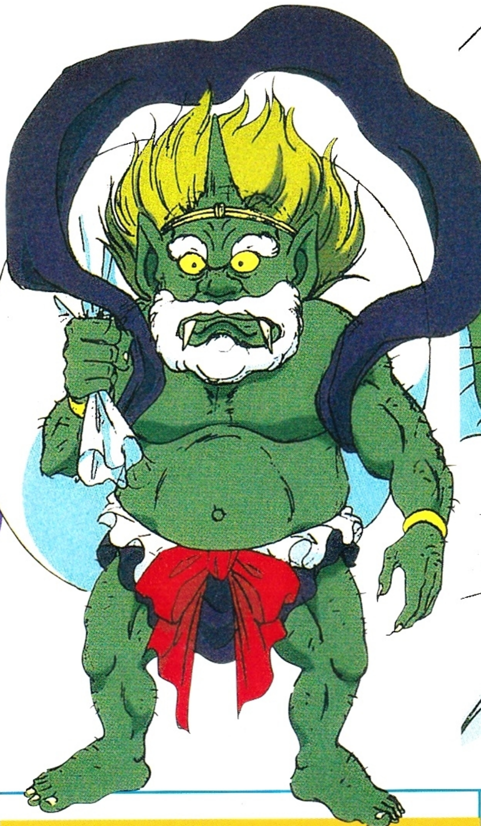
人食い島（第二十話）

●すんでいる場所　島のかっこうをして、海にうかんでいる。
●とくちょう　とおりかかる船をおそい人をたべていたが、千年前からやめていた。だが、すきだった少女の形見の首かざりを、ねずみおとこがぬすんだのにいかり、あばれた。鬼太郎がとりかえしてくれたので、おとなしくなった。




▼鬼太郎たちは船がしずんだ事件をしらべるため，人食い島にやってきた。





風神（第十六話ほか）

●すんでいる場所　空の雲の中。

●とくちょう　しろうねりのはくよごれをおとすために、砂かけばばあにたのまれて、すけだち。大風でよごれをふきとばした。

【は】

ブエル（第六十九話）



●すんでいる場所　外国。

●とくちょう　青白い手の玉で、ねずみおとこやねこむすめの手をのっとった。この手にさわられた者は、また手をのっとられる。さいごは、やかんづるにふういんされた。

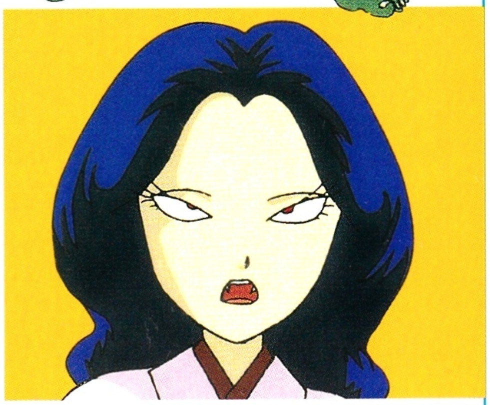


▲5本の足をもつ，ぶきみな本体は，夜空からあくまの大群をよびよせた。

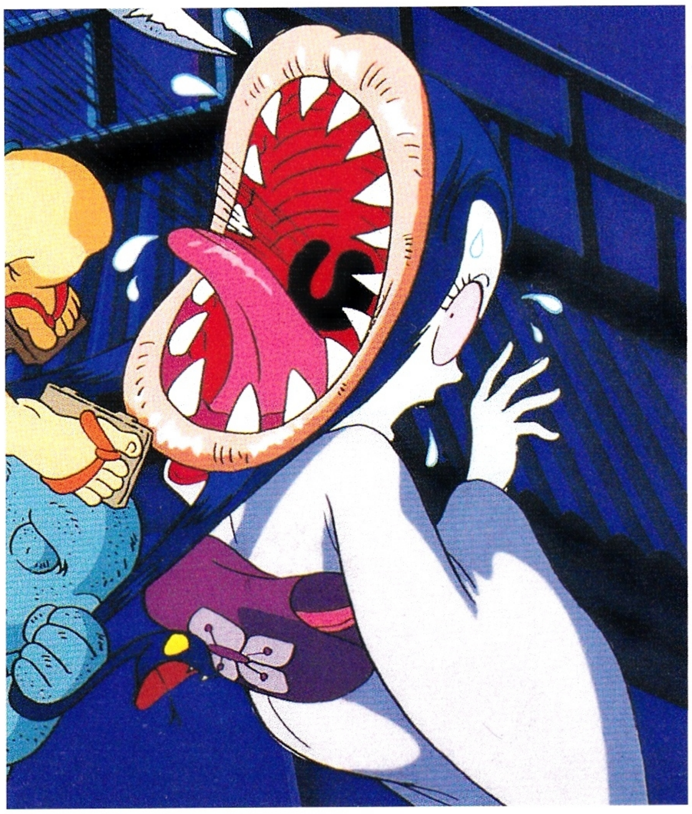
二口女（第六十六話／六十七話）

●すんでいる場所　夜しかあらわれない妖怪城。

●とくちょう　頭の後ろにある大口で、つかまえた相手にかぶりつく。また、かみの毛の先が二ひきのへびのようになって、まきついてくる。



●美女にみえるが，ほんとうは，おそろしい人食い女だ。後ろにあるのが，本物の口だ。







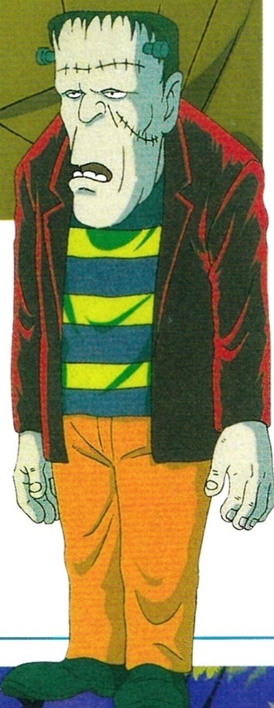
ふっけしばばあ（第五十話）

●すんでいる場所　ある村。

●とくちょう　もともとはろうそくをけすだけのおとなしい妖怪。けすものがなくなり、欲求ふまんになって、町にあらわれた。うばが火の火をけし、すっきり。

鬼太郎のちゃんちゃんこをかりて，うばが火をけした。





フランケンシュタイン（第六十四話／一九九七年夏劇場版）

●すんでいる場所　もとはドイツ。

●とくちょう　顔にぬい目があり、すごみがある。砂かけばばあたちのこうげきで、こうさんした。すごい怪力の持ち主で、まぼろしの汽車にのって、日本をおそってきた。



ベアード（第六十四話）

●すんでいる場所　アメリカ。

●とくちょう　一つ目で、にらみつけた者を石のようにうごけなくしてしまう、眼力光線が必殺ぶき。妖怪ラリーでは、鬼太郎とトップをあらそうが、さいごに岩にげきとつした。



◀体を分解、ふやしてつくった巨大な玉。



ベリアル（第四十四話）



●**すんでいる場所**　むかし外国にすんでいたが、江戸時代に黒船で日本にきた。

●**とくちょう**　巨大な魔法陣で，大地にたつまきをおこして，いろんなものをのみこむ。黒魔術をあやつり，妖怪アパートをおそった。

ほうこう（第四十一話）

【は】【ま】



●**すんでいる場所**　深い森の縄文杉。

●**とくちょう**　鬼太郎を漬物といっしょにつけこみ，たべて世界一強くなろうとした漬物妖怪。地ほうこう，水ほうこう，火ほうこう，風ほうこうの４体にわかれて，ものすごいパワーで，鬼太郎の妖気をすいとった。

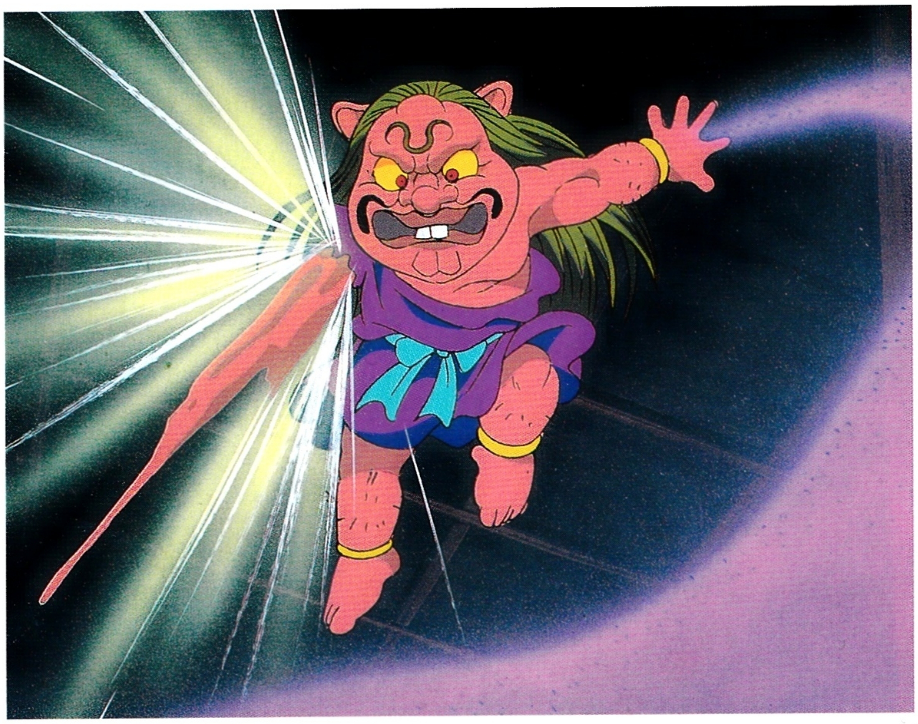


▶わかれるまえの本体は、するどいきばで、鬼太郎におそいかかった。

まくらがえし（第十五話）

●**すんでいる場所**　ゆめの世界に、千年以上すんでいる。

●**とくちょう**　ねむり砂で、人をゆめの中にひきずりこんで、たましいをたべてしまう。





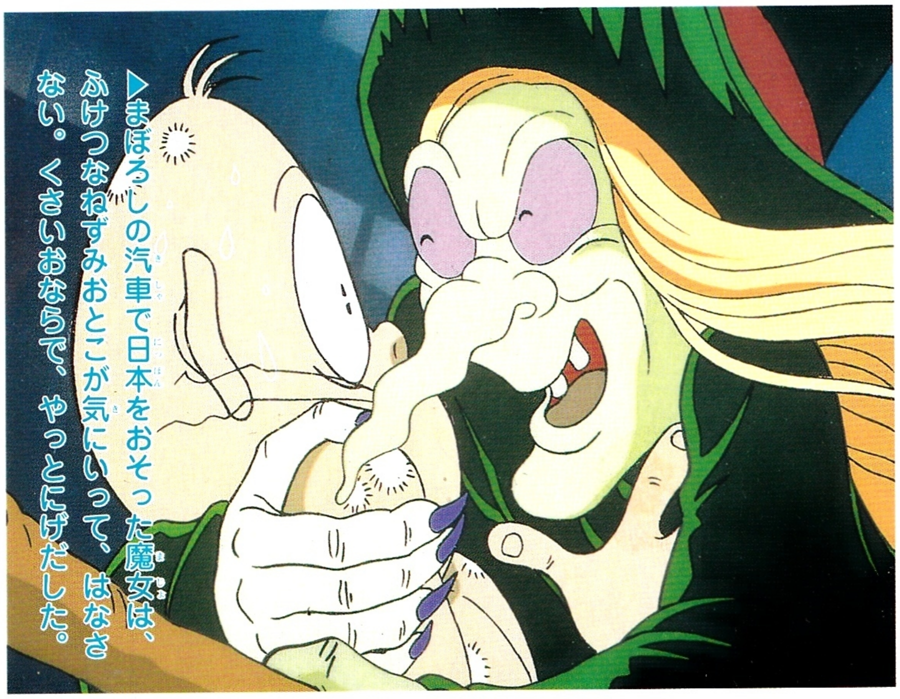
▶子どもに毎晩おなじゆめをみせて、ゆめの世界につれさった。

魔女（第六十四話／一九九七年夏劇場版）

●**すんでいる場所**　もとはフランス。

●**とくちょう**　ほうきにまたがり、自由にとびまわる。長くするどいつめで、いったんもめんを、ばっさりきった。





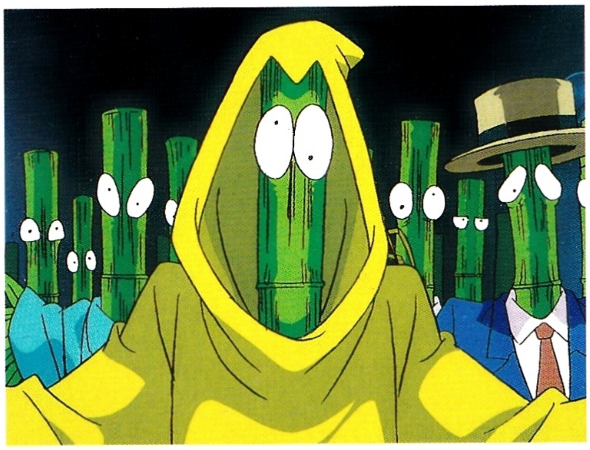
▶まぼろしの汽車で日本をおそった魔女は、ふけつなねずみおとこが気にいって、はなさない。くさいおならで、やっとにげだした。

万年竹（第十話）

●**すんでいる場所**　竹やぶに，何万年も生きていた。

●**とくちょう**　人間の精気をすい，竹人間にしてしまう。おこると全体がひかりかがやく。





▶竹人間にされると、こんどは大群でおそい、つぎつぎに竹人間にしてしまう。



マンモスフラワー（第六十五話）

●すんでいる場所　南の島のカンブリアキ島。

●とくちょう　ねずみおとこが、マンモスフラワーのたねをたべて、巨大化マンモスフラワーに変身した。手の先から、花粉をばらまき、こうげきしてくる。さいごは、カンブリアキ島の土をかぶり、花が満開になり、たねをつけ、土にもどった。

見上げ入道（第一話）

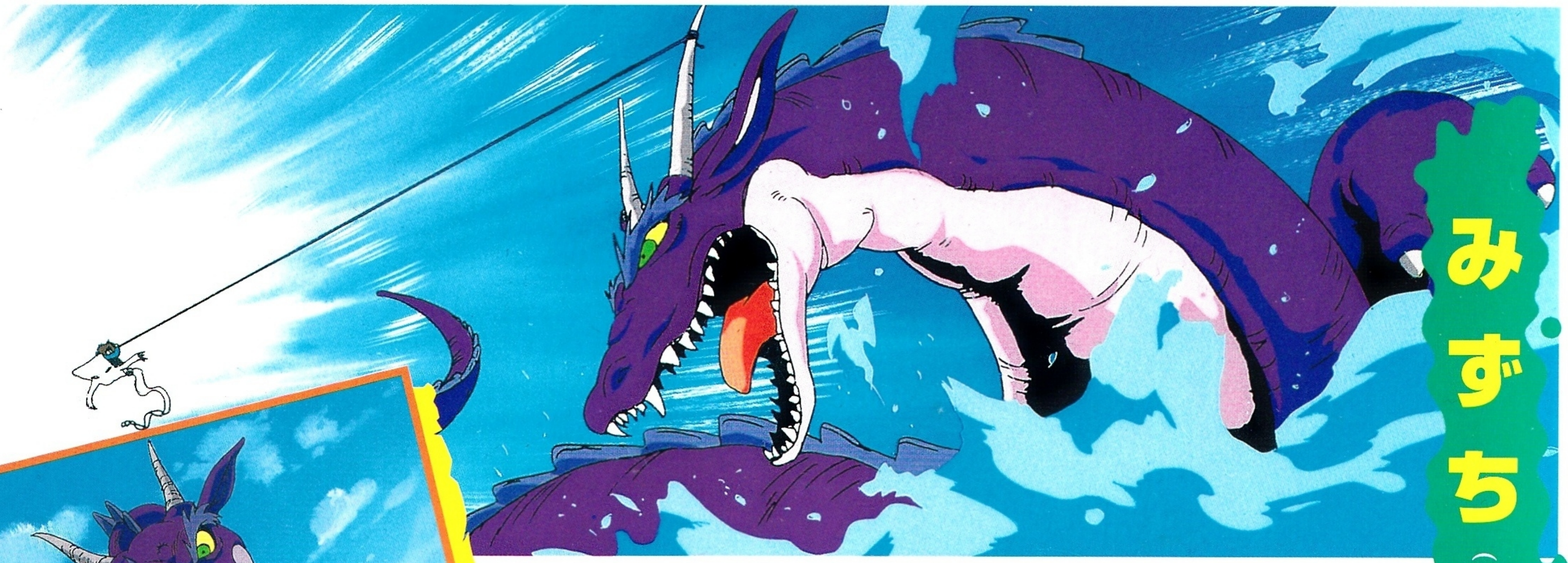
●すんでいる場所　えらいおぼうさんに入道沼にふういんされていた。

●とくちょう　人のたましいをすい、妖力のもとにする。とっぷうでたつまきをおこす。大入道から豆つぶくらいまで自由に体の大きさをかえる。





▲巨大化して，学校のろうかにあらわれ，子どもたちをおそった。





みずち（第十四話）

●すんでいる場所　蓬来島の海底。島の迷いの森のさかさうろこで，ふういんされていた。

●とくちょう　ピンクの息をふきだして，しんきろうの島，蓬来島をつくりだす，いい海竜。ふういんがとけると，島はきえてしまい，あばれだした。

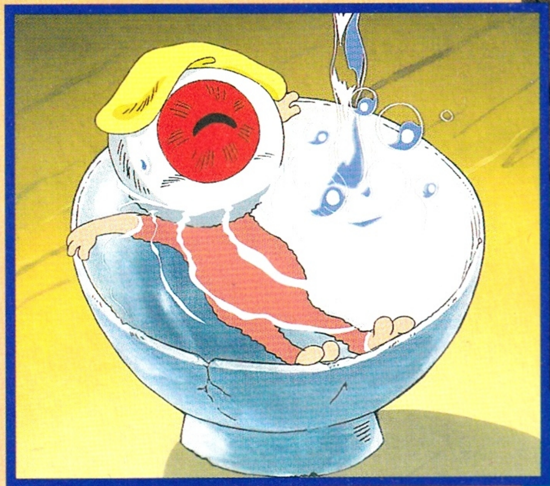
むじな（第三十六話）

●すんでいる場所　山の中。

●とくちょう　ねずみおとことうりふたつにばけて、生きわかれになった弟だといってあらわれた。呼子と油すましを、おりたたみ入道にくわせたが、鬼太郎がたすけだした。ねずみおとこがしっぽをつかむと、もとのむじなにもどってしまった。

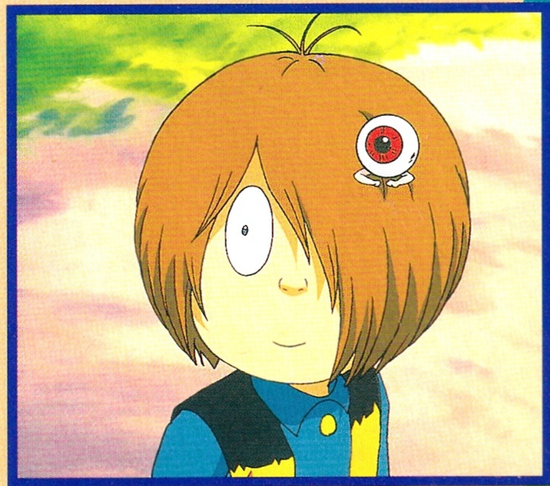


◀むじながばけた、にせのねずみおとこの弟。



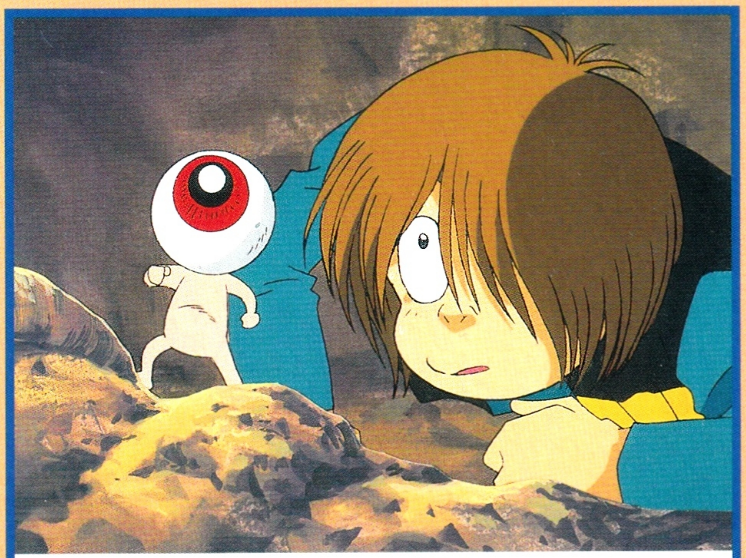
▲大すきなちゃわんぶろにはいって，気持ちよさそうにくつろぐ，ごきげんの目玉のおやじ。



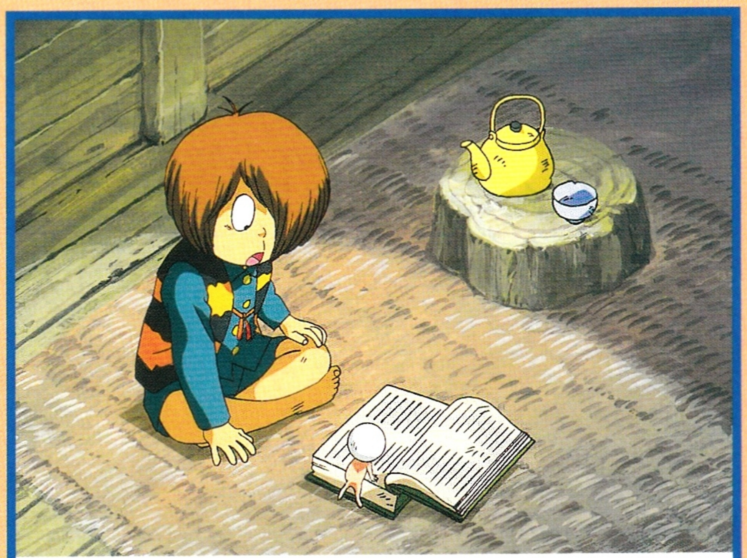


▲指定席は鬼太郎のかみの毛の中。どこかにでかけるときには，しっかりかみの毛につかまって，出発！

目玉のおやじ



▲強い愛情でむすばれている親子。どんなときでも鬼太郎をしんじている。



▲妖怪の知識など，いろいろなことを鬼太郎におしえてくれる，ちえぶくろ。

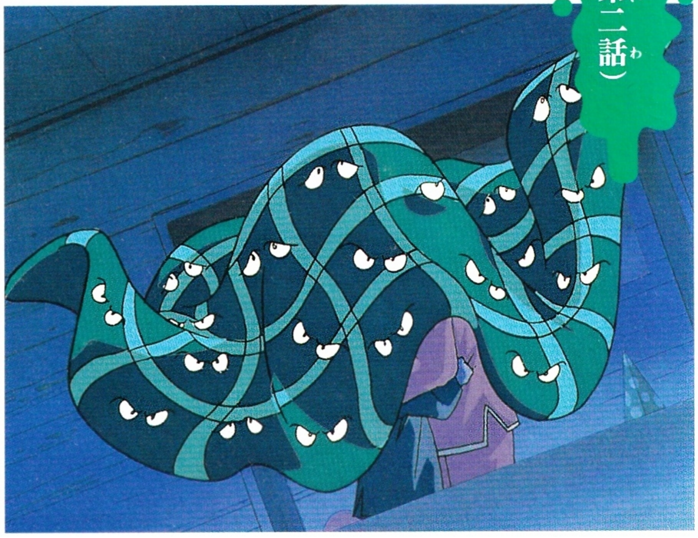
●すんでいる場所　ゲゲゲの森に鬼太郎といっしょにすんでいる。

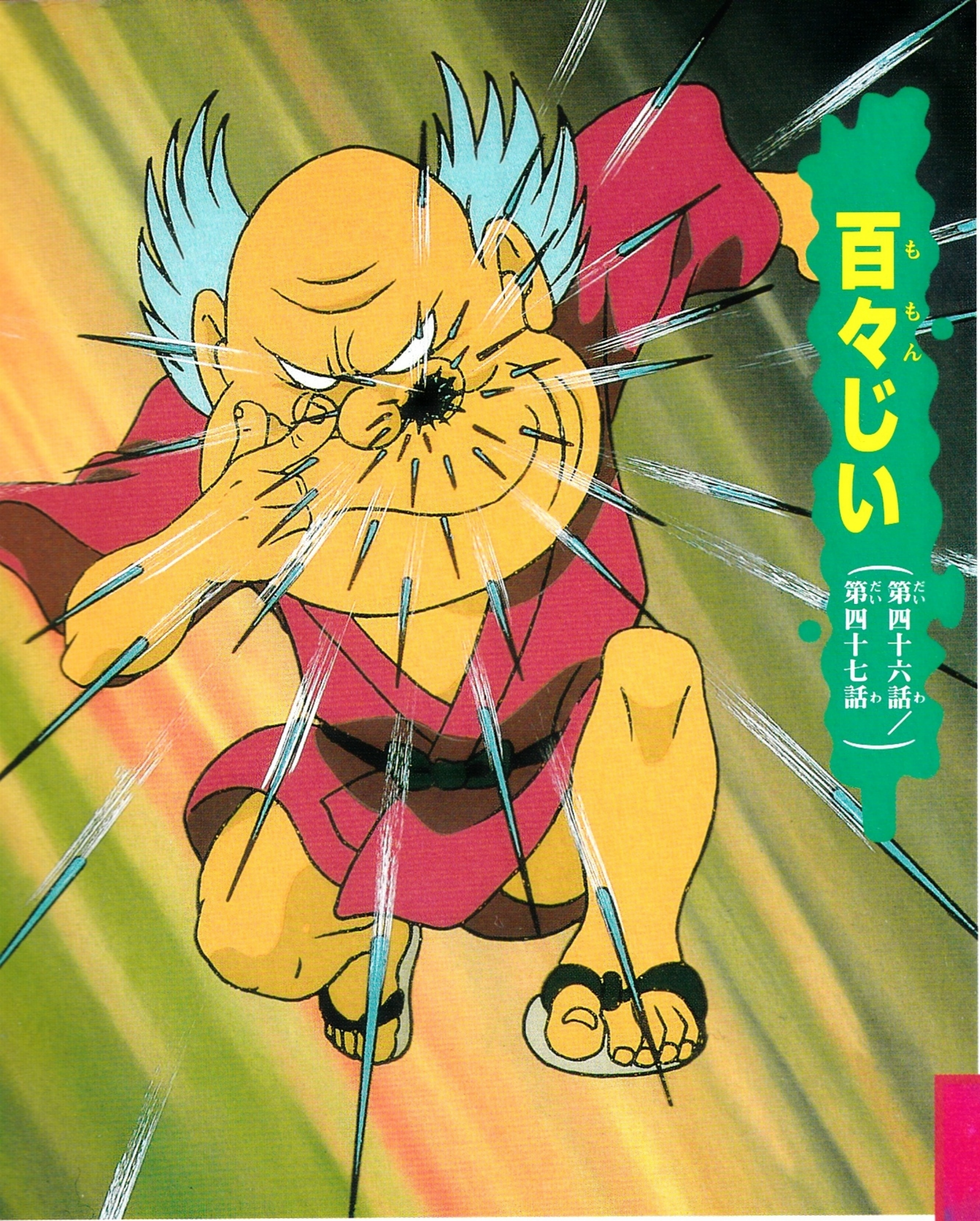
●とくちょう　鬼太郎のおとうさん。小↗

↗さくて力は弱いが，とてもものしりだ。鬼太郎がピンチにおちいると，ちえをかして，たすけてくれる。

目目連（第二話）

●すんでいる場所　もくれんの里。
●とくちょう　ほんとうは気のいい、やさしい妖怪。はっぱのような目の集合体で、どんなものにもはりついて一体化し、自由にあやつる能力をもつ。目だけの妖怪だから、たまねぎやけむりがにがてだ。





百々じい（第四十六話／第四十七話）

●すんでいる場所　森の中。
●とくちょう　鼻のあなをひろげて，鼻毛ばりをとばす。鼻ちょうちんで，毒ガス入りシャボン玉をつくる。毒ガスをすうと，百々じいの分身がみえてしまう。

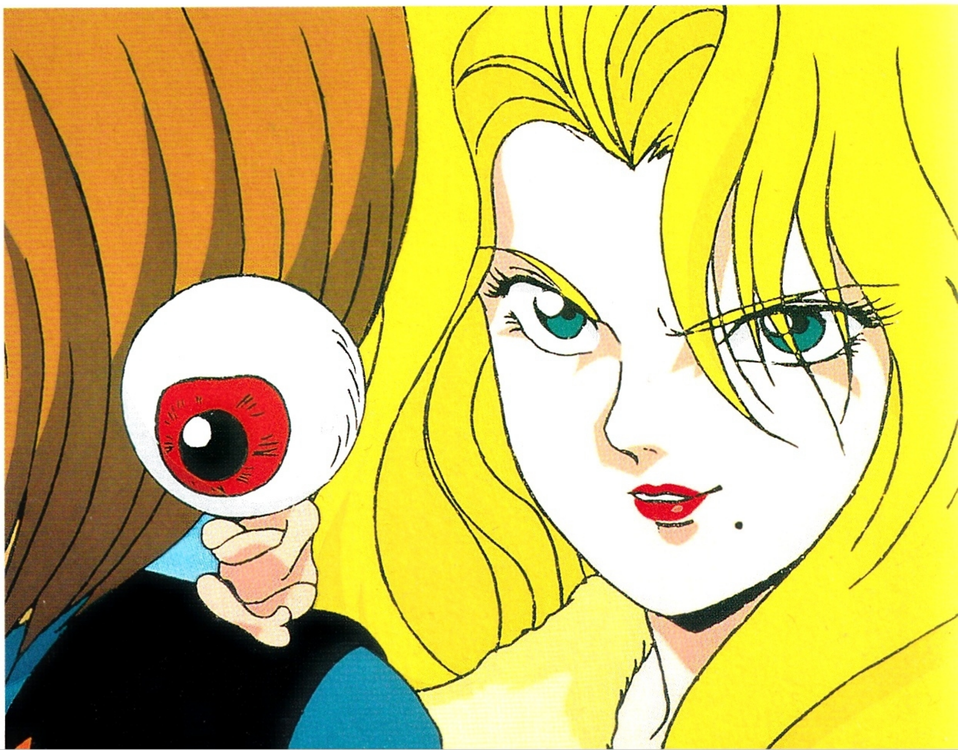


◀ぬらりひょんにあやつられて妖怪絵図をぬすみ、鬼太郎につみをきせた。

モンロー（第九話）

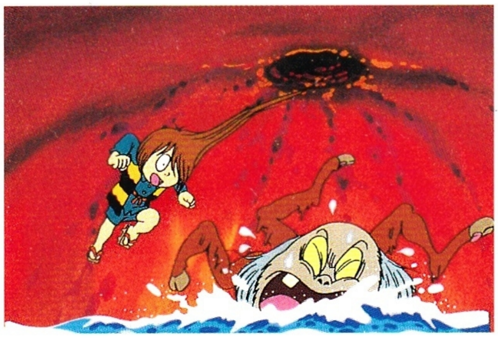
●すんでいる場所　外国。
●とくちょう　吸血鬼ピーのけらいの美人吸血鬼。にせの手紙で鬼太郎をおびきだし、ワインをのませて、吸血鬼にしようとした。



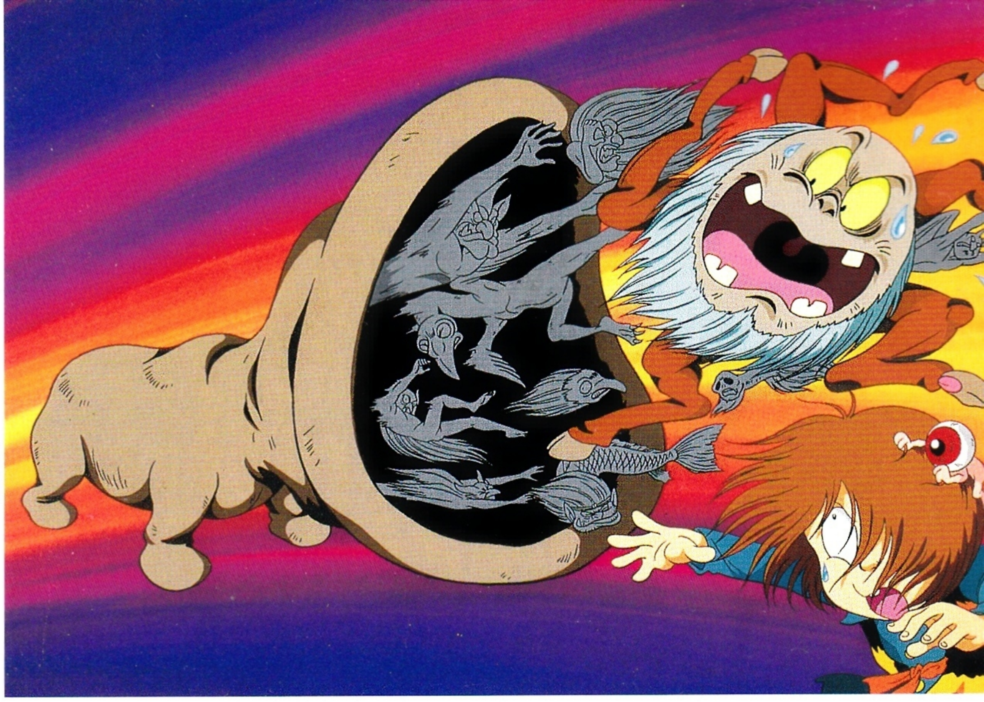


やかんづる（第六十九話）

●すんでいる場所　山頂のどうくつのおくにふういんされていた。
●とくちょう　胃ぶくろが無限に大きい，大食いの妖怪。ふういんをといた者は，かならずたべられるといわれる。

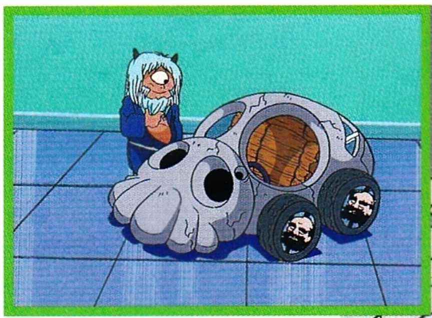


▶地の底につながっている、はらの中から、やっと、だっしゅつ。

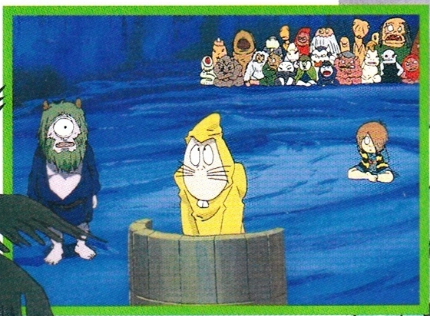


夜行さん（第三十七話／第四十六話ほか）

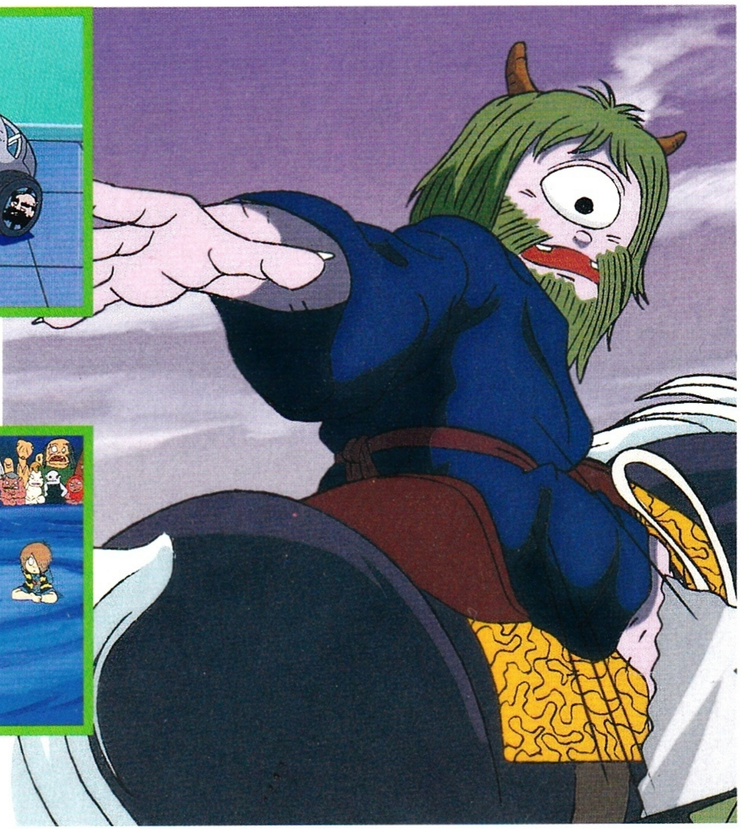
●すんでいる場所　霊界と現世のあいだの妖怪研究所。
●とくちょう　妖怪界の発明王。妖怪自動車のほかに，ドクロカー，人魂をとじこめた風船，おに火販売機などを発明。首なし馬にのってあらわれる。



▲妖怪自動車を発明した夜行さん。



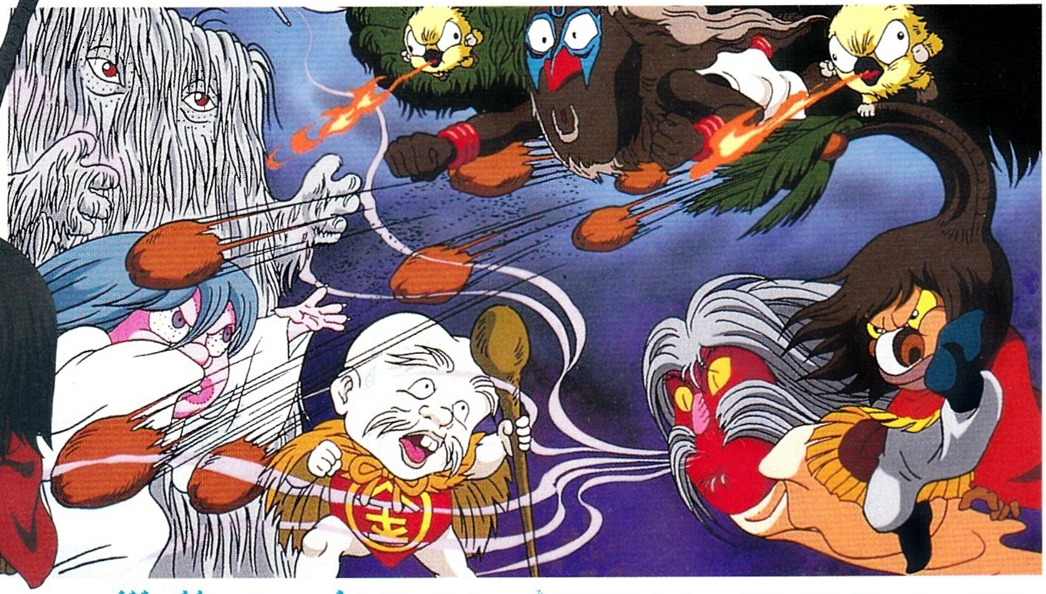
▲妖怪さいばんでは，判事をつとめた。



やしおとし（一九九六年夏劇場版）

●すんでいる場所　南海のバルル島。
●とくちょう　アカマタのけらい。頭からやしの実が生えていて、やしの実弾をうつ。やしの木になりすまし、とおりがかった者にやしの実をおとす。





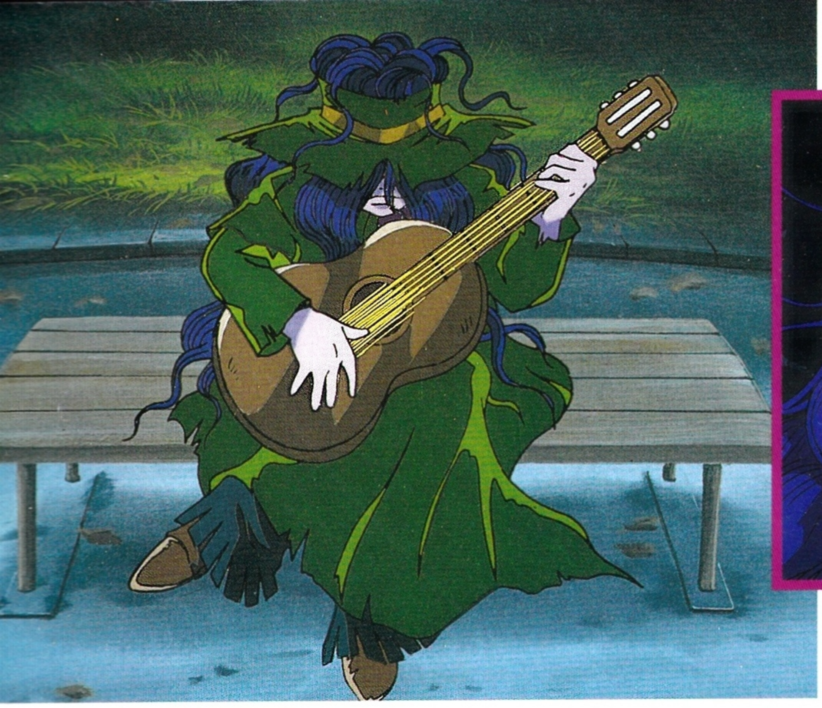
▲頭の上のやしの木から，やしの実ばくだんをつぎつぎにはっしゃする。

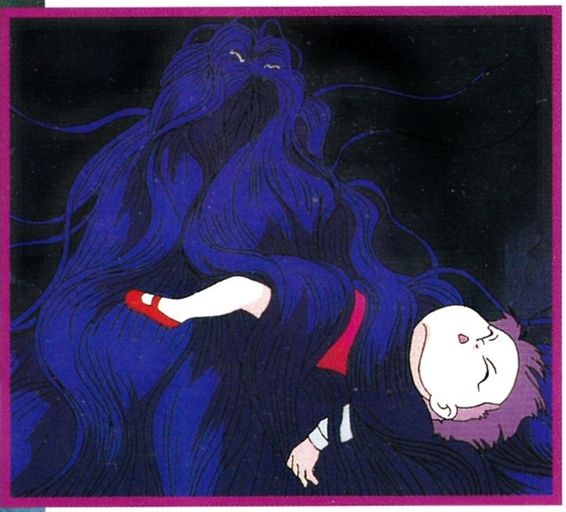
【や】

夜叉（第三話）

●すんでいる場所　地下鉄の線路のそば。

●とくちょう　ギターの音で人間にさいみん術をかけ、のばしたかみの毛で、たましいをすいとり、たべてしまう。





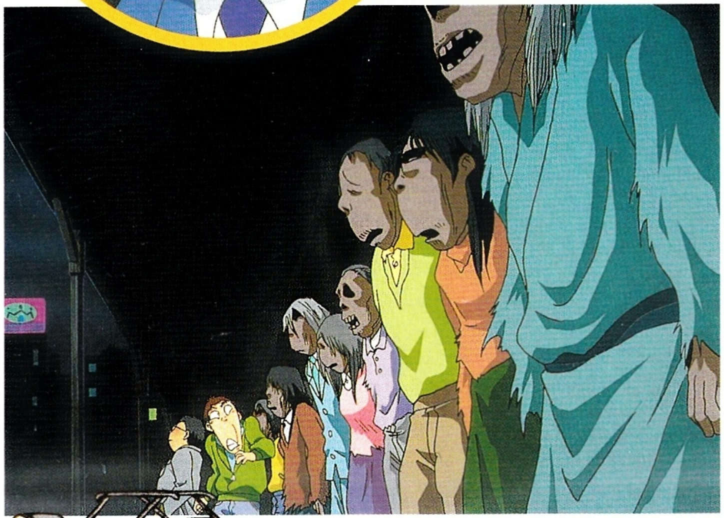
▲本体は，かみの毛だけで，体の中はからっぽだ。歯も内臓もない。

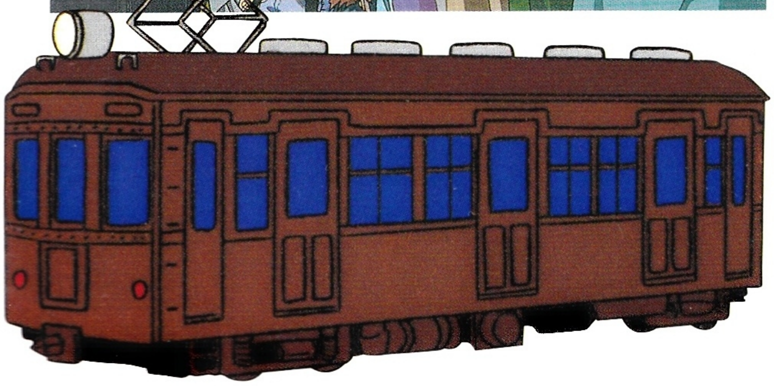
ゆうれい電車（第五十三話）

●とくちょう　妖怪をばかにした人間をおしおきするためにのせた，墓場行きの電車。中でつぎつぎとこわいことがおこって，てってい的におどかして，こらしめた。



◀しゃしょうは、鬼太郎。乗客は死人の顔をしている。なんたって墓場行きの電車だもの。





ヤマタノオロチ（第七十四話）

●すんでいる場所　だんがいぜっぺきの山。

●とくちょう　岩や川やたきが，くさなぎの剣で，八つの首をもつ巨大な竜になった。火炎ほうしゃでおそってくる。



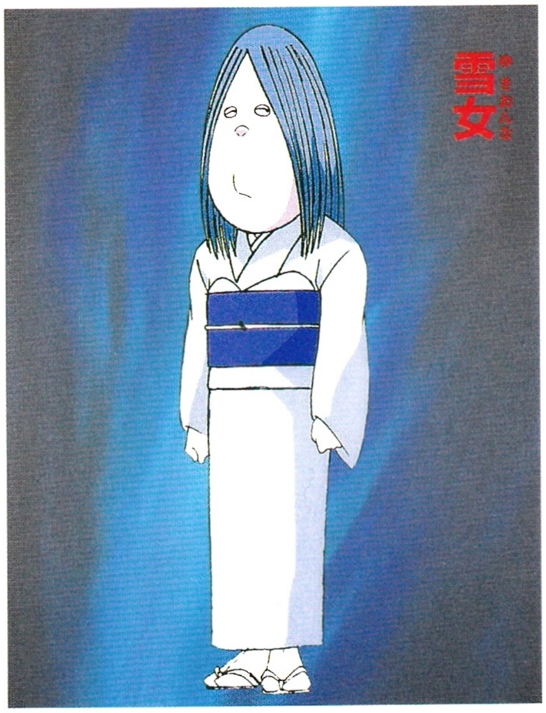
雪男／雪女／雪ん子（第五十八話）



●すんでいる場所　さいはて村の銀雪山のどうくつ。
●とくちょう　山の動物たちをころしにきた人間に，アイスキャンデーをたべさせ，たましいをぬき，氷にした。３人は家族だが，雪ん子は鬼太郎をたすけた。



▲ねずみおとこにアイスキャンデーをたべさせ，こちこちの冷凍人間にしてしまった。



▲雪男のおくさんで，雪ん子のおかあさん。雪ん子が鬼太郎をたすけようとしたので，おこった。

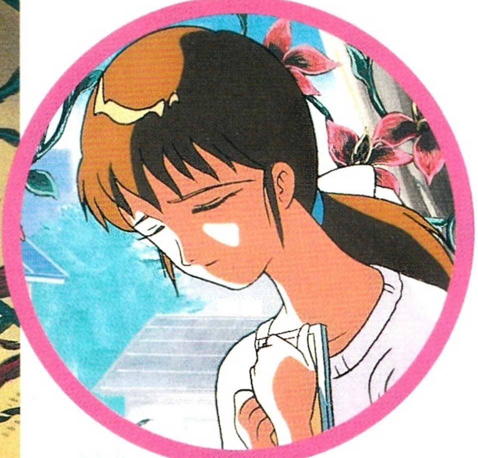


▲全身毛だらけの大男で，はっする冷気で，なんでもこおらせてしまう。鬼太郎もこおらされてしまった。



妖花（第三十話）

●すんでいる場所　花子のおじいさんが戦死した南方の島。
●とくちょう　毎年夏のあついさかりになると、花子のへやいっぱいにさきみだれる、まっかな花だ。



▲花子とおばあさんをまもりたい，戦死したおじいさんのおもいがこもった花だった。

妖怪アパート（第三十一話ほか）



●とくちょう　居場所のなくなった妖怪のため、砂かけばばあがたてた。呼子や油すましがすんでいる。むじなも、ねずみおとこの弟にばけて、悪さをするために、このアパートにはいってきた。

妖怪カメラ（第二話）



●とくちょう　木製の砂かけばばあのカメラ。ねこむすめがかりることもある。写真にうつしたものすべてを，写真の中にとじこめてしまう，ふしぎなカメラだ。

妖怪とおめがね（第七十四話ほか）



●とくちょう　砂かけばばあのべんりな道具の一つ。遠くのものにかぎらず，表にはでていない，中のものもみることができる。



妖怪自動車（第三十七話／第六十四話ほか）

●とくちょう　夜行さんが発明した、あの世とこの世を行き来できる、スーパーカー。ボディーはガイコツ、車輪は輪入道、火の玉のヘッドライトなど、いろいろな妖怪の部品でつくられている。鬼太郎はこの車で、妖怪ラリーに出場した。



▲ねずみおとこがキーをぬいたので邪悪タイプになり，ぼうそうした。



▲妖怪ハイウエイを，さっそうとはしって，どこにでもいけるぞ。

妖怪城（第六十六話／第六十七話）

●とくちょう　ねずみおとこがふういんのしめなわをとったので、巨大な城があらわれた。夜しかみえない。たんたん坊たちが子どもをさらい、妖怪にし、やみの世界を支配しようとした。



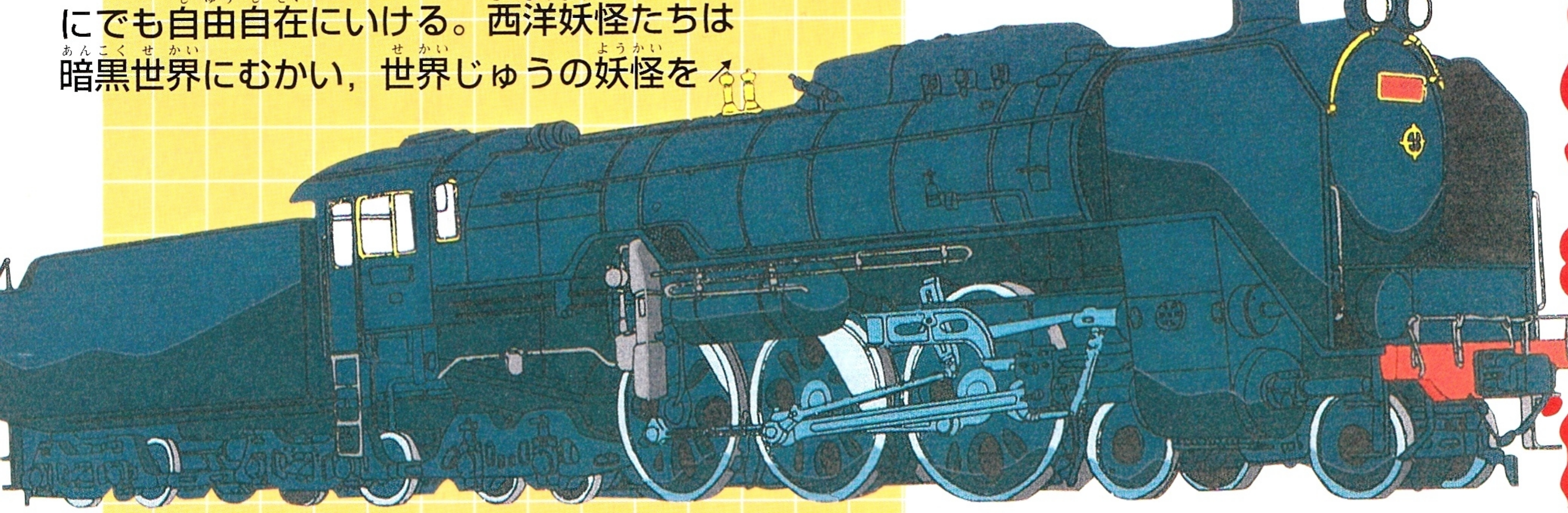


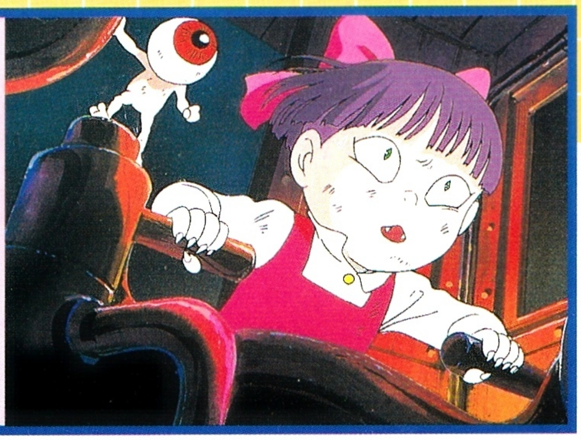
▲鬼太郎は，やっとのおもいで妖怪城のやねにしめなわをかけ，ふたたび，ふういんした。

妖怪特急・まぼろしの汽車（一九九七年夏劇場版）

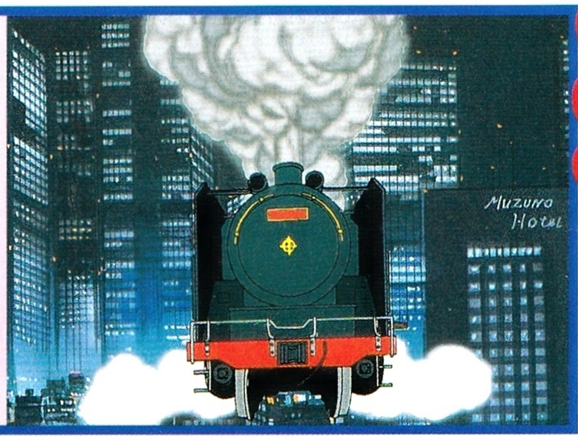
●**とくちょう**　じごくにおちた西洋妖怪たちが，ふういんされていた汽車をぬすみだし，にげだした。現世，過去，未来，どこにでも自由自在にいける。西洋妖怪たちは暗黒世界にむかい，世界じゅうの妖怪を↗

↗支配するパワーを手に入れようとする。が，えんま大王にたのまれた鬼太郎たちは力をあわせ，汽車の行く手にたちはだかった。





▶運転席でひっしにレバーをおす，ねこむすめと目玉のおやじ。

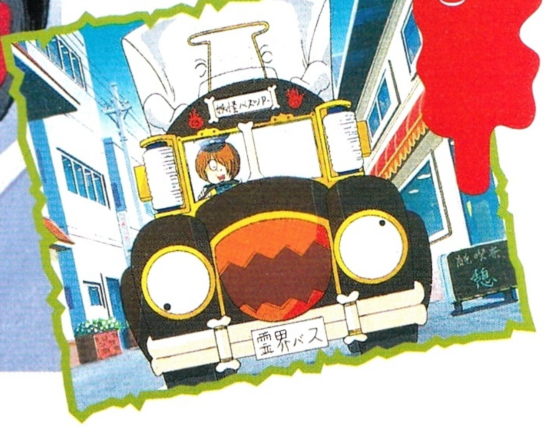


▶石炭にされた鬼太郎をすくうため，汽車の行き先を過去にかえようとした。

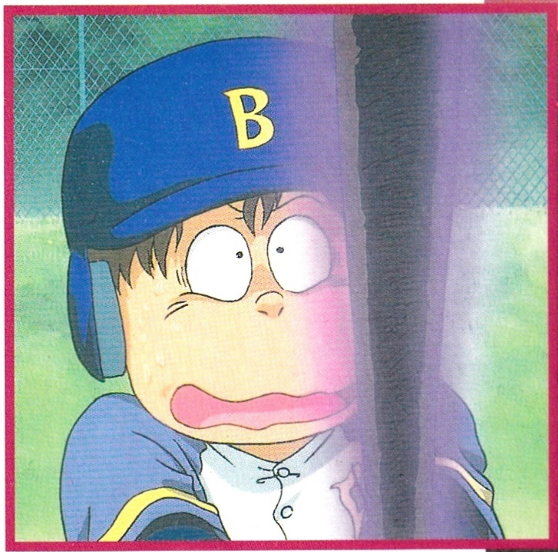
妖怪バス（第七十話）

●**とくちょう**　ゲゲゲファミリーがツアーにでかけたバス。運転手は鬼太郎。霊界と人間界を移動できる。ぐわごぜのつくりだした怪気象にとつにゅうして、すいこまれてしまった。









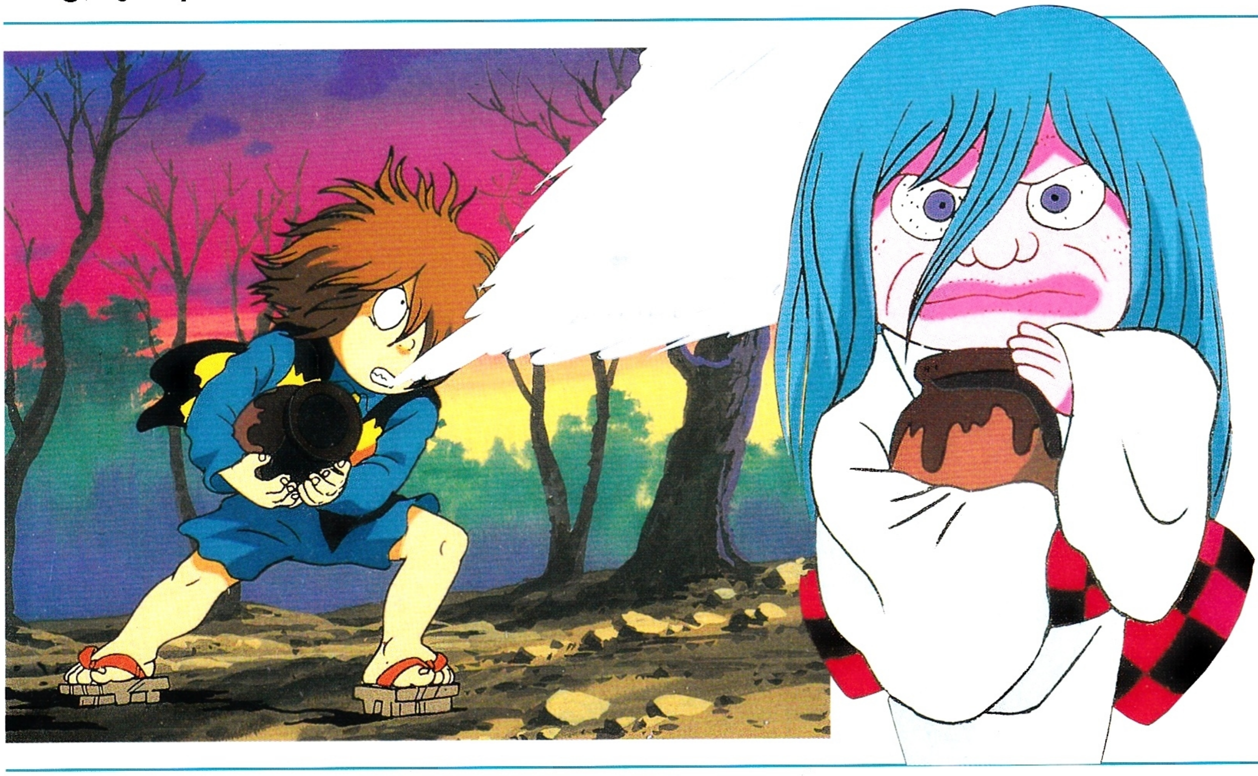
▲三太郎は，ホームランをうちたいばっかりに，妖怪バットをつかってしまった。

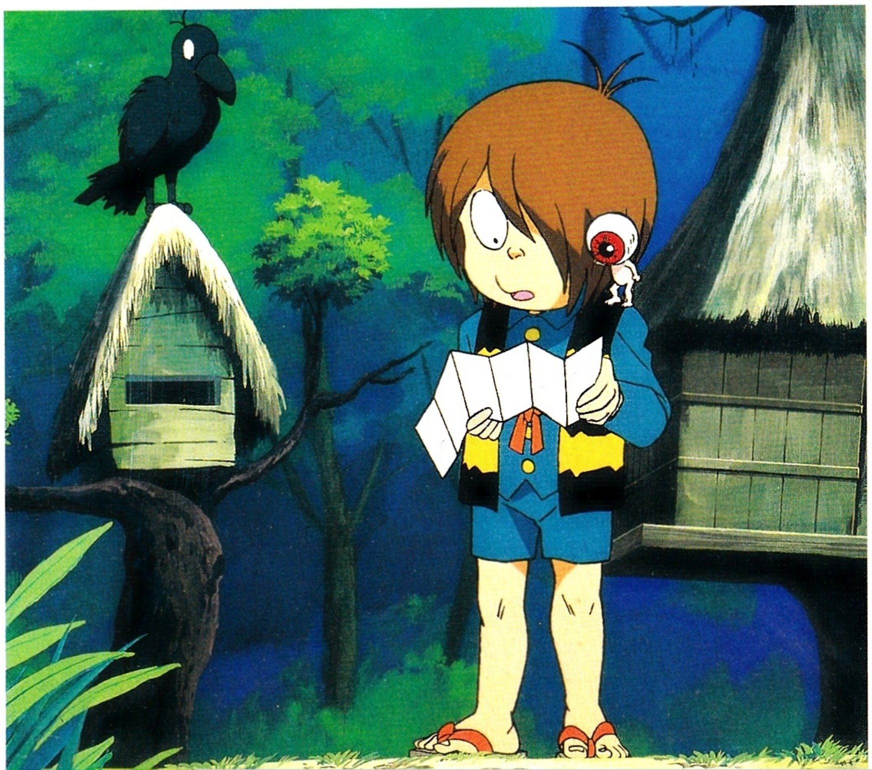
妖怪バット（一九九七年春劇場版）

●とくちょう　むかし、このバットでホームランをうちつづけた男は、さいごはがいこつになってしまった。つかった者のたましいをすいつくす魔力をもったバットだ。

妖怪ふういんのつぼ（第一話ほか）

●とくちょう　鬼太郎が砂かけばばあからかりて、見上げ入道をふういんしたつぼ。ほかにも、ねこ仙人をふういんしたつぼや、白山坊をふういんしたつぼなどがある。

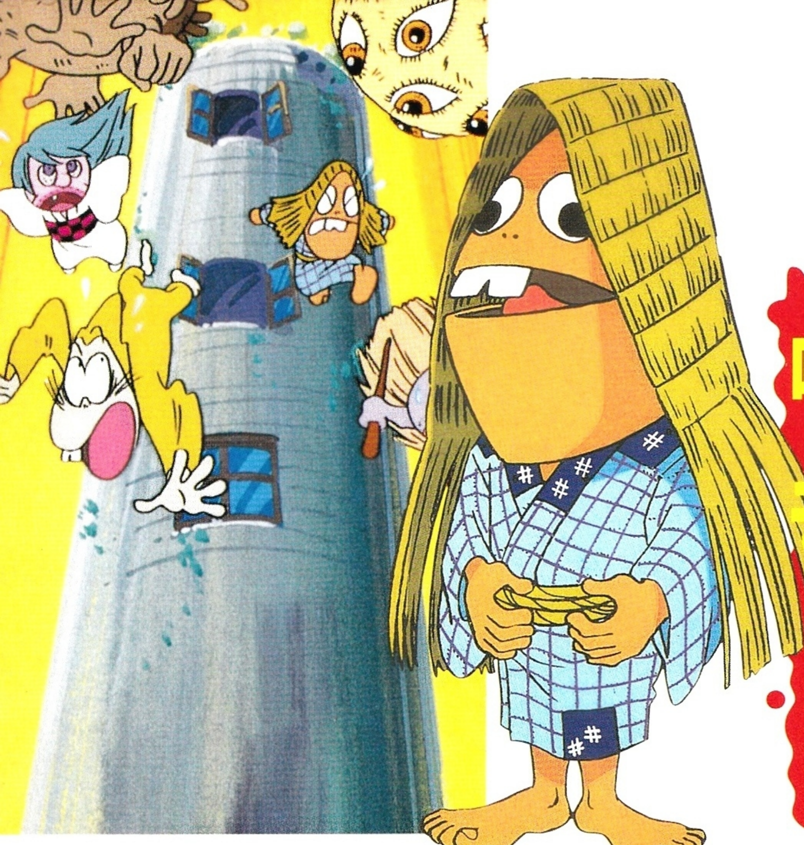






妖怪ポスト

●とくちょう　ゲゲゲハウスの前にあるポスト。このポストに手紙をだせば、鬼太郎がかならずたすけにきてくれるんだ。カラスが手紙をはこんでくる。子どもたちや、ときには、妖怪からも手紙がくるよ。



呼子（第三十六話ほか）

●すんでいる場所　妖怪アパート。
●とくちょう　おりたたみ入道にたべられてしまうが，鬼太郎にたすけられた。本来は山の中にいて，こだまをかえす妖怪で，やまびこのこと。

妖怪やしき（第十三話）

●とくちょう　鬼太郎たちが、子どもの心をひらくため、畑おんりょう、目目連、のっぺらぼうなどの力をかりて、つくった。





雷神（第十六話）

●すんでいる場所　雷雲の中。
●とくちょう　砂かけばばあが助っ人によんだ、よい妖怪。風神と力をあわせて、しろうねりの体のかびやよごれを、どんどんたいこをうちならして、はげしい雨とかみなりをよんで、あらいながした。



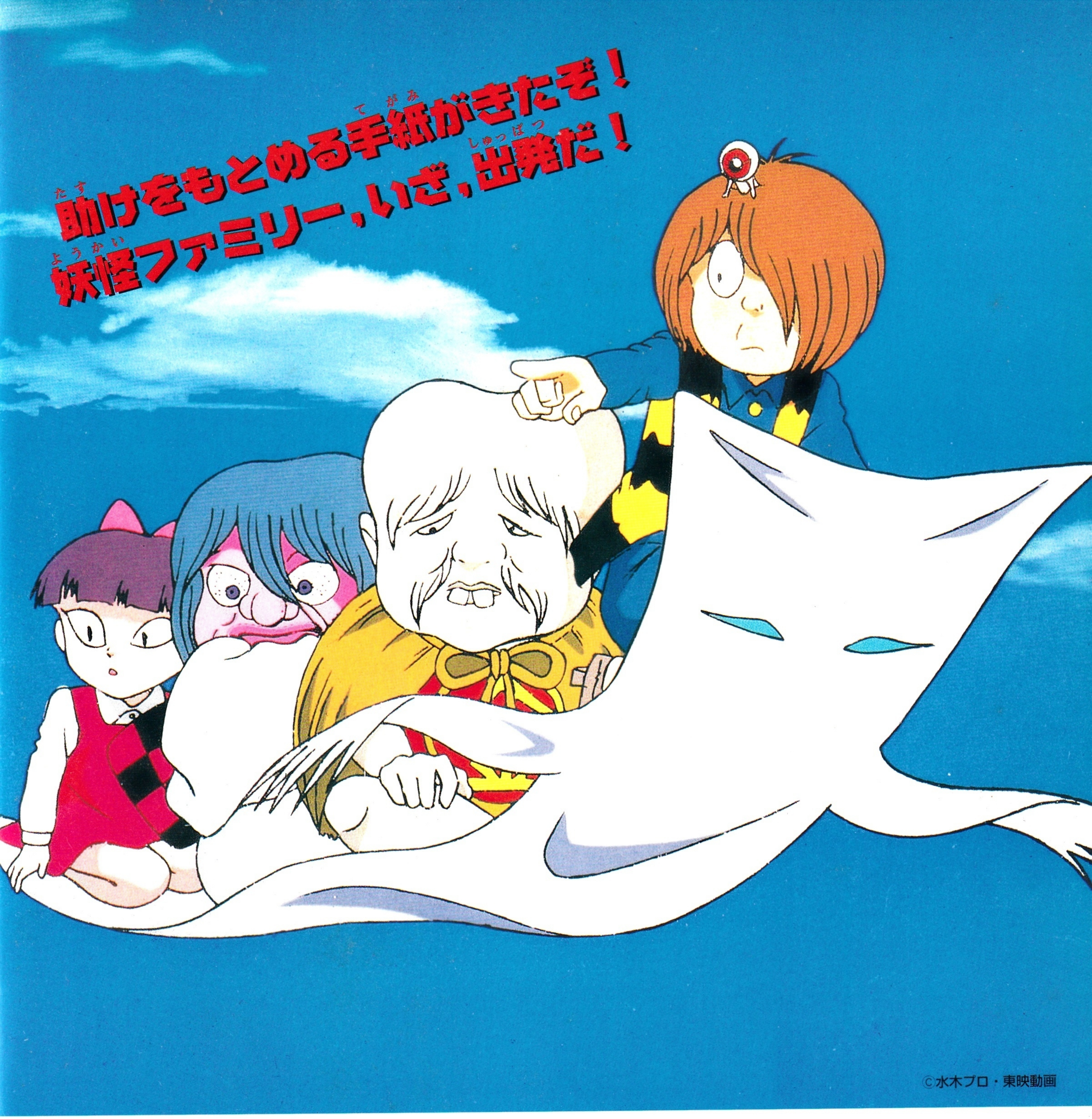
輪入道（第五話／第三十七話ほか）

●すんでいる場所　欲望の墓場とよばれている、ゴーストタウンの地下。
●とくちょう　口からふしぎな色の息をはいて、人間のたましいをすいとり、そのたましいをたべて、人間をダイヤにしてしまう。口からつららダイヤを連射する。

▼妖怪自動車の車輪になって，はしった。







絵／東映動画　構成・編集／坂上睦子　レイアウト／エイティ

■テレビマガジンデラックス74　決定版　ゲゲゲの鬼太郎妖怪大事典

■発行　1997年8月22日第1刷発行　■発行者　野間佐和子　■発行所　株式会社　講談社　〒112-01　東京都文京区音羽 2-12-21

電話　(03) 5395-3491（編集部）　(03) 5395-3606（販売部）■製版・印刷　共同印刷株式会社　株式会社 神プロダクツ

■製本　株式会社　国宝社

定価は表紙カバーに表示してあります。　ISBN4-06-304426-2（Tマ）　Printed in Japan



鬼太郎は，いつだって，きみのみかただ！　人間と妖怪が，なかよくくらせる世の中をつくるため，力のかぎりがんばるから，おうえんしてね！

ISBN4-06-304426-2 C8774 ¥970E(0)

9784063044263

1928774009700



定価：本体970円 ※消費税が別に加算されます。